

藤井寺市地域福祉推進に関する
アンケート調査

報 告 書

令和7年12月

藤 井 寺 市

** 目 次 **

I	調査の概要	1
1.	調査の目的	1
2.	調査設計	1
3.	配布及び回収状況	1
4.	調査結果の見方	1
II	市民アンケート調査結果	2
1.	回答者の属性	2
(1)	性別	2
(2)	年齢	2
(3)	家族構成	2
(4)	同居家族の中にいる人	3
(5)	職業	3
(6)	居住地区	4
(7)	現在の小学校区での居住年数	4
2.	地域福祉や福祉に関する行動について	5
(1)	近所の人とのつきあいについて	5
(2)	近所づきあいの満足度	8
(3)	地域の行事や活動等への参加状況	10
(4)	地域の行事や活動についての関心の変化	17
(5)	地域福祉推進のための活動に関わるために、行政や社協に求める手助け	18
(6)	近所の子どものあいさつや話かけること	20
(7)	地域の子どもの関わり方	21
(8)	地域活動や福祉サービスに関する情報について	23
(9)	福祉サービスに関する情報の入手元	26
(10)	福祉サービスに関する情報の今後希望する提供元	28
3.	生活課題や福祉について	30
(1)	日頃の生活で感じる悩みや不安	30
(2)	困った時の家族以外の相談先	32
(3)	地域の福祉課題に対する、住民相互の自主的な支え合い、助け合いの必要性	35
(4)	近所とのつきあいの中での相互の手助け	38
(5)	福祉に関する市役所の相談窓口がわからなくて困ったこと	44
(6)	日頃問題だと思っていること	46
(7)	「自分のまち」と感じる地域に対する愛着感	49
4.	地域福祉にかかわる機関や団体について	51
(1)	社会福祉協議会について	51

(2) 知っている民生委員児童委員の活動内容.....	57
(3) 福祉に関する研修会、ボランティア講座、セミナーなどへの参加経験.....	60
(4) 地域の福祉課題を話し合う会議や懇談会への参加経験.....	61
(5) 研修会や懇談会に参加できる開催方法.....	62
(6) 持っている“人とのつながり”.....	64
(7) 人とのつきあいがないと感じること.....	66
(8) “人とのつながり”を持つために必要な取り組み.....	67
(9) ひとり暮らし高齢者や障害者に対する声かけや安否確認の状況.....	68
(10) 今後の藤井寺市への居住意向について.....	69
5. 自由記述.....	70
Ⅲ 福祉関係者アンケート調査結果.....	71
1. 回答者の属性、活動団体について.....	71
(1) 年齢.....	71
(2) 居住地区（小学校区）.....	71
(3) 現在の小学校区での居住年数.....	71
(4) 福祉とのかかわりについて.....	72
(5) 所属している事業所・団体の活動範囲.....	74
2. 地域や福祉に関する意識について.....	75
(1) 社会的立場の弱い人々をとりまく地域の福祉課題への関心.....	75
(2) 地域の福祉課題に対する、住民相互の自主的な支え合い、助け合いの必要性.....	76
(3) 日常生活で介助や支援が必要になった場合、近所の人などから手助けしてもら うことについて.....	77
(4) 日頃、人権尊重を意識して活動しているか.....	77
(5) 民生委員児童委員の役割の認知度.....	78
(6) C S Wが市社協に配置されていることの認知度.....	78
(7) 福祉の相談窓口や福祉サービス情報など、情報の入手について.....	79
(8) 福祉サービス情報の入手源.....	80
3. 地域や福祉に関する行動について.....	81
(1) 福祉に関する研修会やボランティア講座、セミナーなどへの参加について.....	81
(2) 地域の福祉課題を話し合う会議や懇談会への参加経験.....	82
(3) 自分の所属以外の福祉活動団体やグループとの交流、福祉施設の見学などへの 参加経験.....	82
(4) 福祉に関する研修会やボランティア講座などを生かす機会について.....	83
(5) 地域の人たちに対する福祉活動への勧誘、情報共有について.....	83
(6) 福祉の関係者及び関係機関との連携について.....	84
4. 地域力について.....	85
(1) 地域の人とのつきあいの程度.....	85
(2) 「自分のまち」と感じる地域に対する愛着.....	85
(3) 地域活動や行事の活発さについて.....	86

5. 行政や社会福祉協議会、福祉事業者などの地域福祉を支えるしくみについて.....	87
(1) 藤井寺市地域福祉計画の目標「支え合い、助け合い、ともに生きる地域づくり」 について	87
(2) 社会福祉協議会の活動による住民同士の協力関係やまとまりの強化について....	87
(3) 福祉施設やサービス提供事業者、企業等の社会貢献や地域貢献について.....	88
(4) 孤立死について	88
(5) 住民の福祉に関する課題	90
(6) 地域住民が安心して暮らせるために必要なこと	91
(7) 今後の藤井寺市への居留意向について.....	92
6. 自由記述.....	93
(1) 地域での福祉活動を活発にするために.....	93
(2) 地域で福祉活動を行う人を増やすために.....	94
(3) 福祉に関する研修や学習機会、内容等に関して	94
IV 調査票（市民アンケート）	95
1. 市民アンケート	95
2. 福祉関係者アンケート	95

I 調査の概要

1. 調査の目的

令和7年度で計画期間が終了となる「第4期藤井寺市地域福祉計画」の見直しと、更なる地域福祉の推進に向けた「第5期藤井寺市地域福祉計画」の策定にあたり、市民の地域生活における課題や地域福祉に対する意識、福祉関係者の活動状況や課題等を把握し、計画の基礎資料とするために実施した。

2. 調査設計

【市民アンケート】

- ・ 調査対象：藤井寺市在住の18歳以上の男女2,500人
- ・ 調査方法：無作為抽出による郵送配布・郵送またはWEBによる回収
- ・ 調査期間：令和7年8月12日(火)～令和7年8月29日(金)

【福祉関係者アンケート】

- ・ 調査対象：藤井寺市の福祉関係者（社協職員・区長・福祉委員・民生委員児童委員・社協に登録しているボランティア・PTA等）500人
- ・ 調査方法：郵送配布・郵送またはWEBによる回収
- ・ 調査期間：令和7年8月12日(火)～令和7年8月29日(金)

3. 配布及び回収状況

	配付数	有効回答数	有効回答率
市民アンケート	2,500件	全体 1,121件	44.8%
		うち、紙 件	%
		うち、WEB 件	%
福祉関係者アンケート	500件	全体 357件	71.4%
		うち、紙 件	%
		うち、WEB 件	%

4. 調査結果の見方

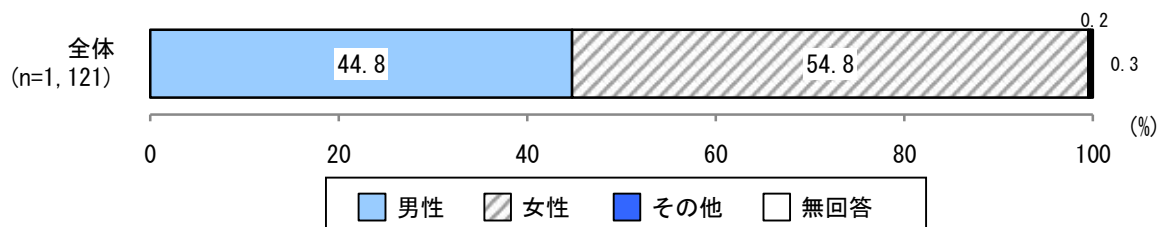
- 回答は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示し、小数点第2位を四捨五入した。（比率の合計が100.0%にならない場合がある。）
- 図表上の「MA%」という表記は複数回答（Multiple Answer の略）の、また、「LA%」という表記は制限つき複数回答（Limited Answer の略）の意味である。
- コンピュータ入力の都合上、図表において、回答選択肢の見出しを簡略化している場合がある。
- 選択肢「その他」については比較の対象から除外している。
- 回答者数（n）が30人未満の場合、母数が少ないことから一概に適正な比率とは言えないため注意が必要である。
- 報告書記載の「前回調査」とは、令和2年度実施の調査結果を示している。

Ⅱ 市民アンケート調査結果

1. 回答者の属性

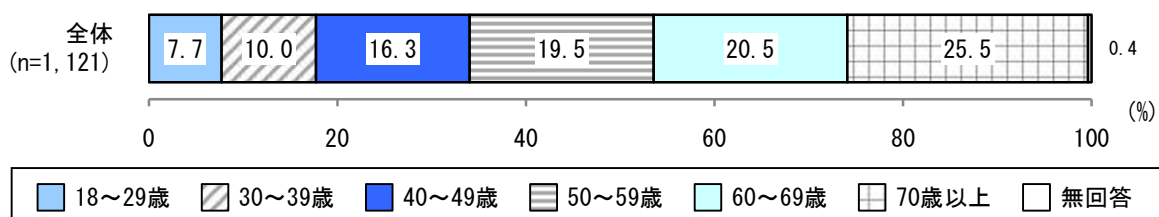
(1) 性別

回答者の性別は、「男性」が44.8%、「女性」が54.8%となっている。



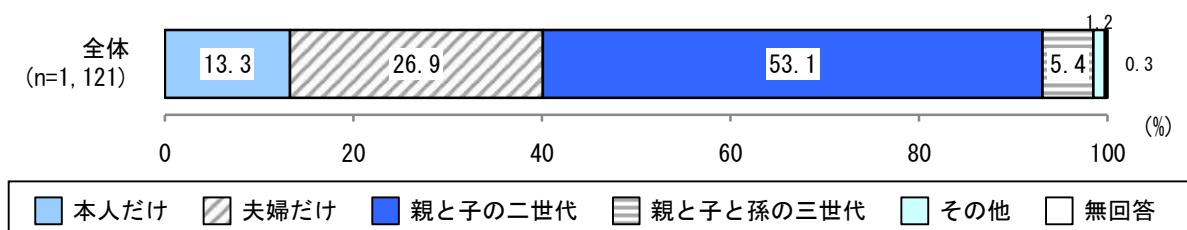
(2) 年齢

回答者の年齢は、「70歳以上」が25.5%で最も多く、次いで「60～69歳」が20.5%、「50～59歳」が19.5%、「40～49歳」が16.3%となっている。



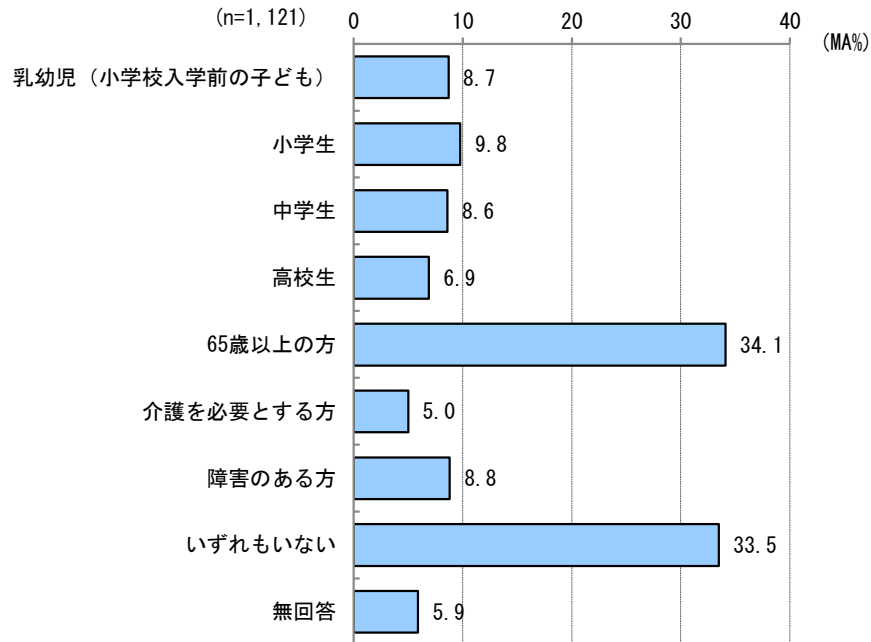
(3) 家族構成

回答者の家族構成は、「親と子の二世帯」が53.1%で最も多く、次いで「夫婦だけ」が26.9%、「本人だけ」が13.3%となっている。



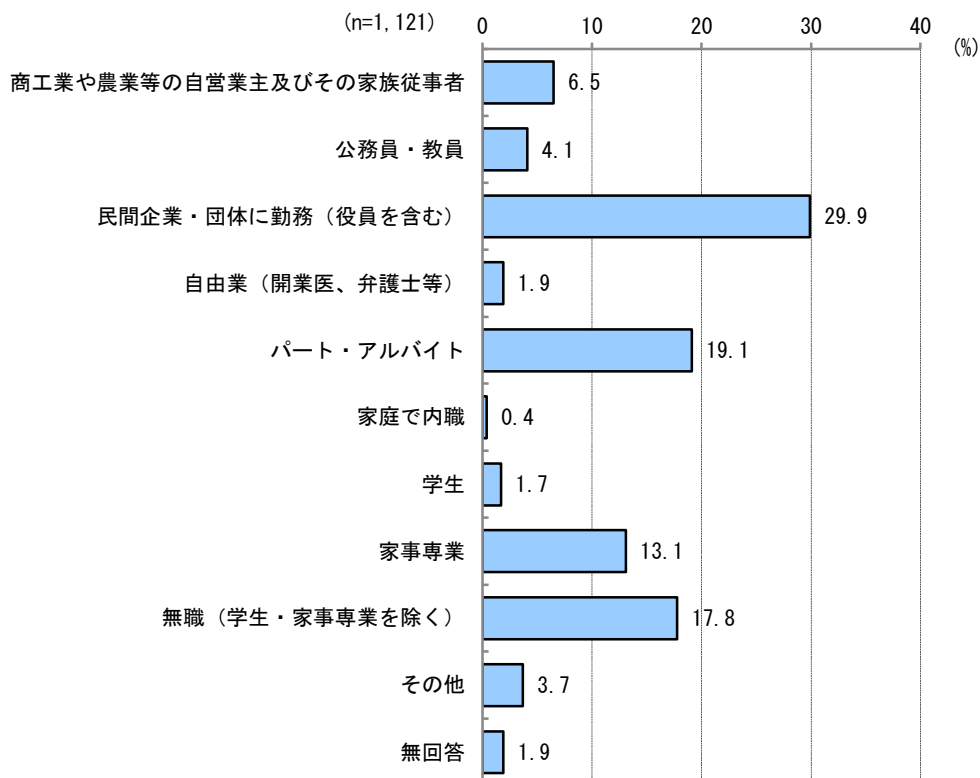
(4) 同居家族の中にいる人

同居家族の中にいる人は、「65歳以上の方」が34.1%で最も多く、次いで「いずれもいない」が33.5%、「小学生」が9.8%、「障害のある方」が8.8%となっている。



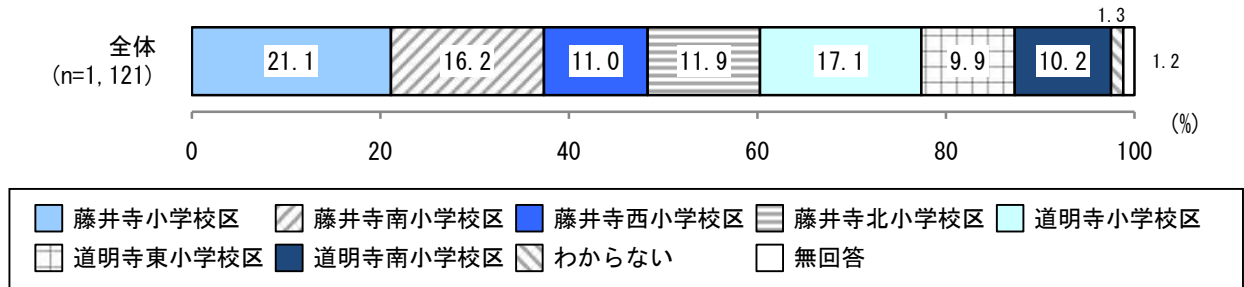
(5) 職業

回答者の職業は、「民間企業・団体に勤務 (役員を含む)」が29.9%で最も多く、次いで「パート・アルバイト」が19.1%、「無職 (学生・家事専業を除く)」が17.8%、「家事専業」が13.1%となっている。



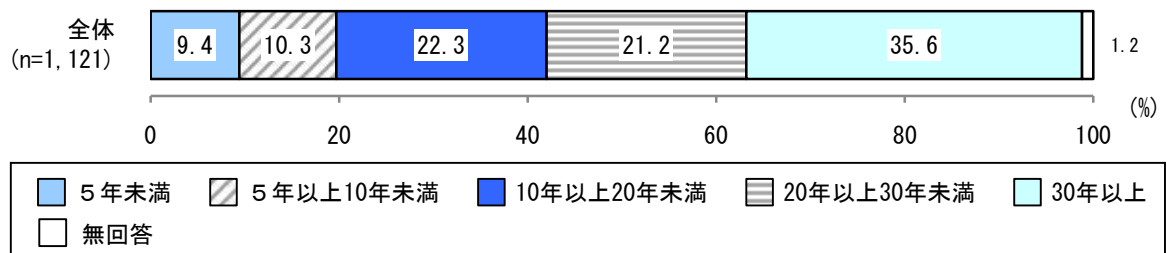
(6) 居住地区

回答者の居住地区（小学校区）は、「藤井寺小学校区」が21.1%で最も多く、次いで「道明寺小学校区」が17.1%、「藤井寺南小学校区」が16.2%となっている。



(7) 現在の小学校区での居住年数

現在の小学校区での居住年数は、「30年以上」が35.6%で最も多く、次いで「10年以上20年未満」が22.3%、「20年以上30年未満」が21.2%となっている。



2. 地域福祉や福祉に関する行動について

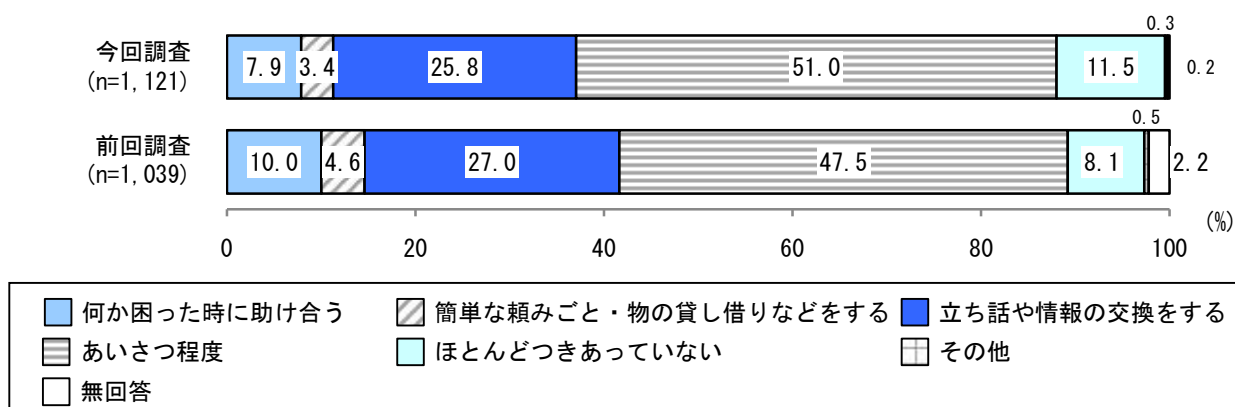
(1) 近所の人とのつきあいについて

① 近所づきあいの程度

問1 あなたは、ご近所の人とどのようなつきあいをしていますか。(○は主なものに1つ)

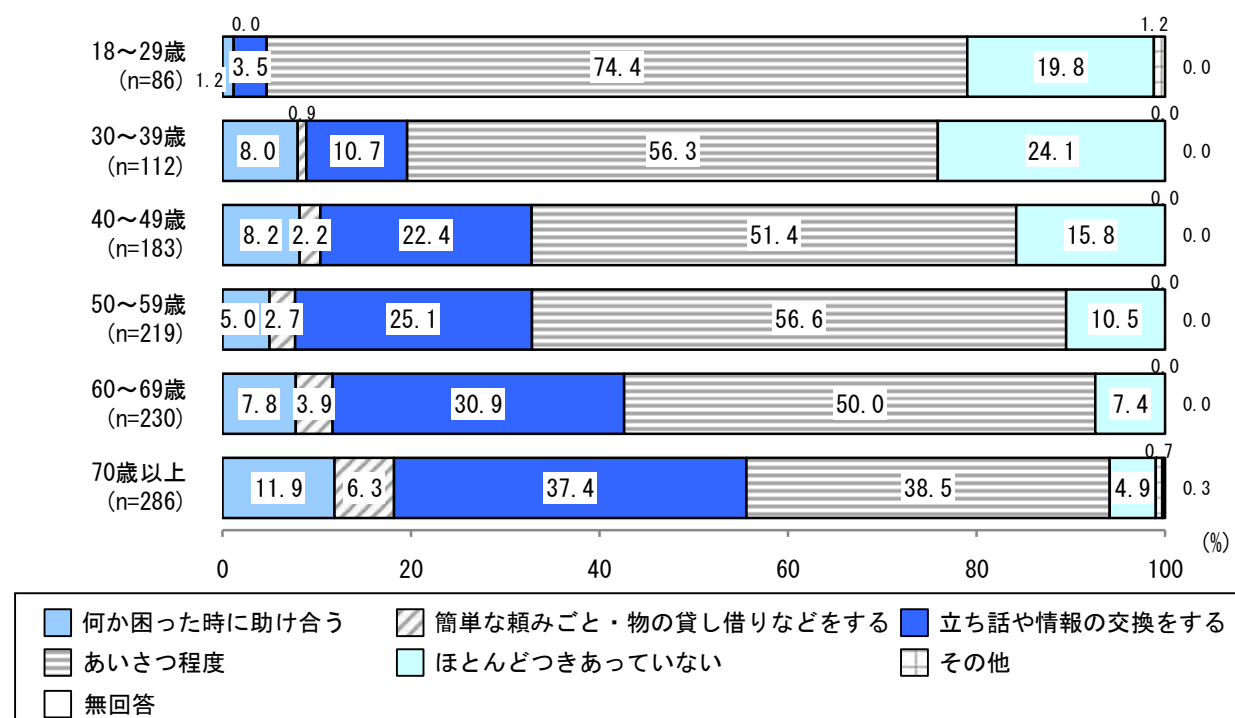
近所の人との付き合い方は、「あいさつ程度」が51.0%で最も多く、次いで「立ち話や情報の交換をする」が25.8%、「ほとんどつきあっていない」が11.5%となっている。

前回調査と比較すると、「あいさつ程度」の割合が3.5ポイント、「ほとんどつきあっていない」の割合が3.4ポイント、それぞれ前回より高くなっている。



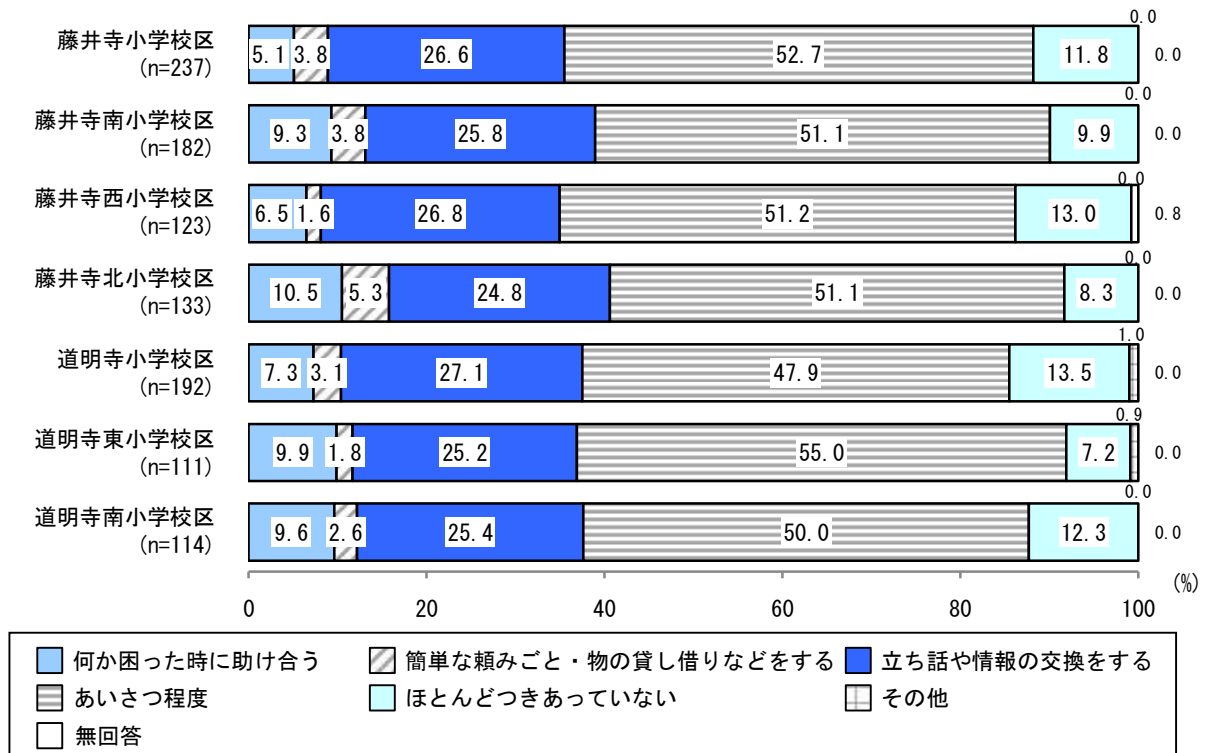
【年齢別】

年齢別でみると、「簡単な頼みごと・物の貸し借りなどをする」、「立ち話や情報の交換をする」は高齢になるほど割合が高く、「あいさつ程度」、「ほとんどつきあっていない」は若い年代で割合が高くなっている。



【居住地区別】

居住地区別でみると、「何か困った時に助け合う」と「簡単な頼みごと・物の貸し借りなどを
 をする」の割合は藤井寺北小学校区で最も高く、「ほとんどつきあっていない」の割合は道明
 寺小学校区で最も高くなっている。

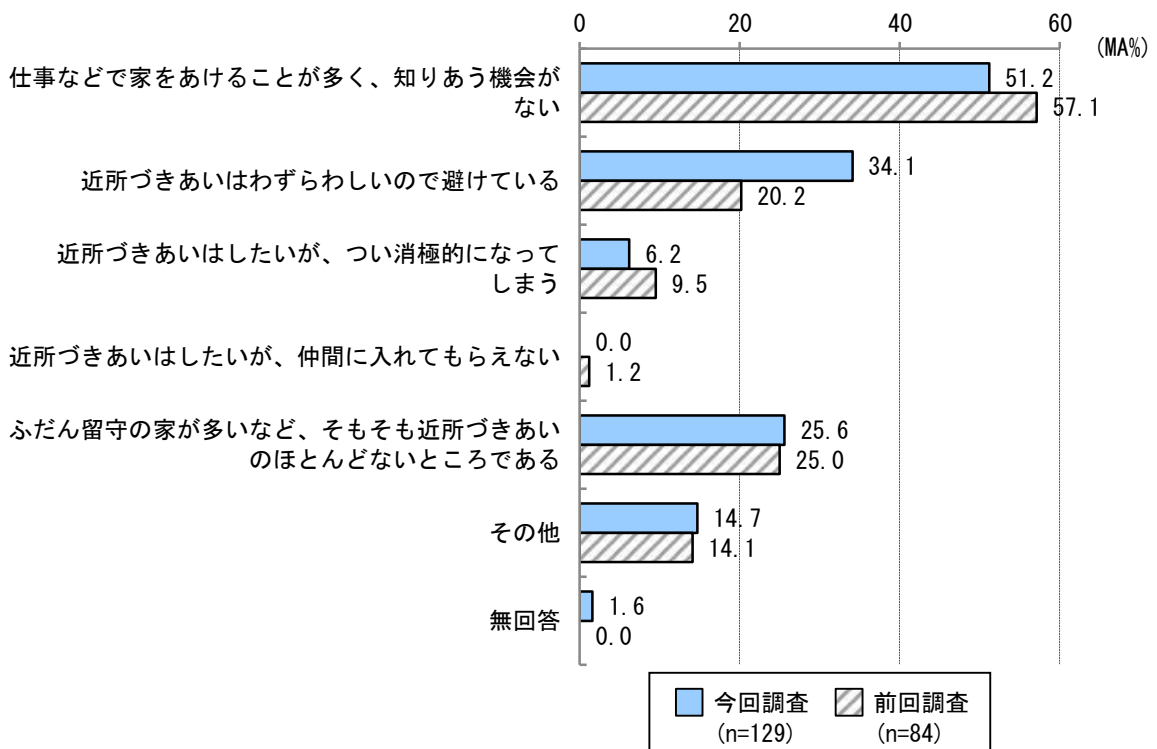


② あまり近所づきあいをしない理由

問1で「5. ほとんどつきあっていない」と回答した方に
 問1-ア あまり近所づきあいをされていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

近所の人とほとんどつきあっていないと回答した人に、その理由をたずねると、「仕事などで家をあけることが多く、知りあう機会がない」が51.2%で最も多く、次いで「近所づきあいはわずらわしいので避けている」が34.1%、「ふだん留守の家が多いなど、そもそも近所づきあいのほとんどないところである」が25.6%となっている。

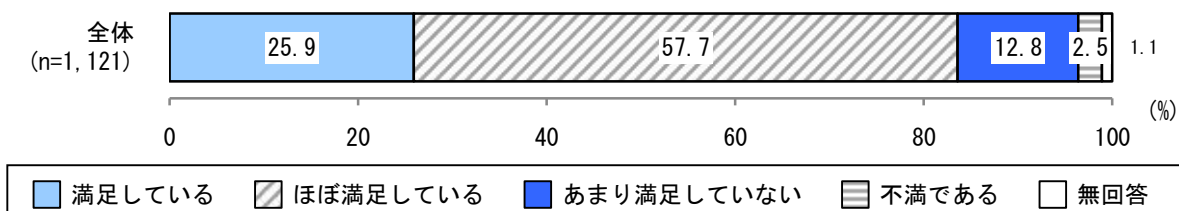
前回調査と比較すると、「近所づきあいはわずらわしいので避けている」の割合が前回より13.9ポイント高くなっている。



(2) 近所づきあいの満足度

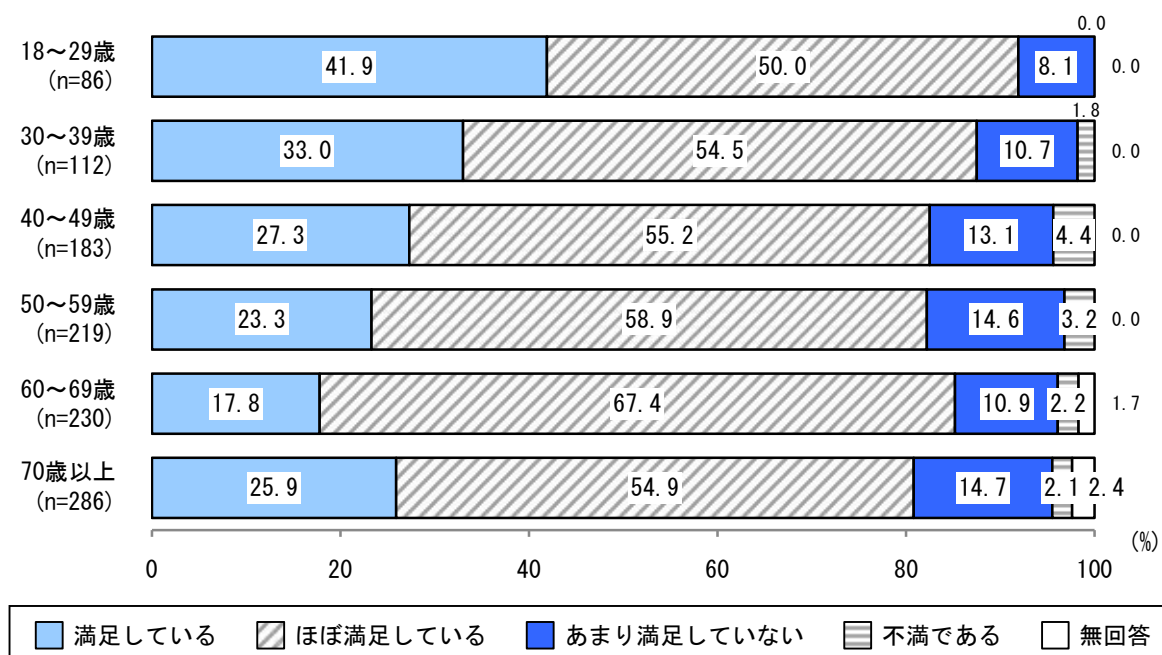
問2 あなたは、ご近所づきあいに満足していますか。(○は1つ)

近所づきあいの満足度は、「ほぼ満足している」が57.7%で最も多く、次いで「満足している」が25.9%、「あまり満足していない」が12.8%となっており、「ほぼ満足している」と「満足している」をあわせた『満足』の割合は83.6%となっている。



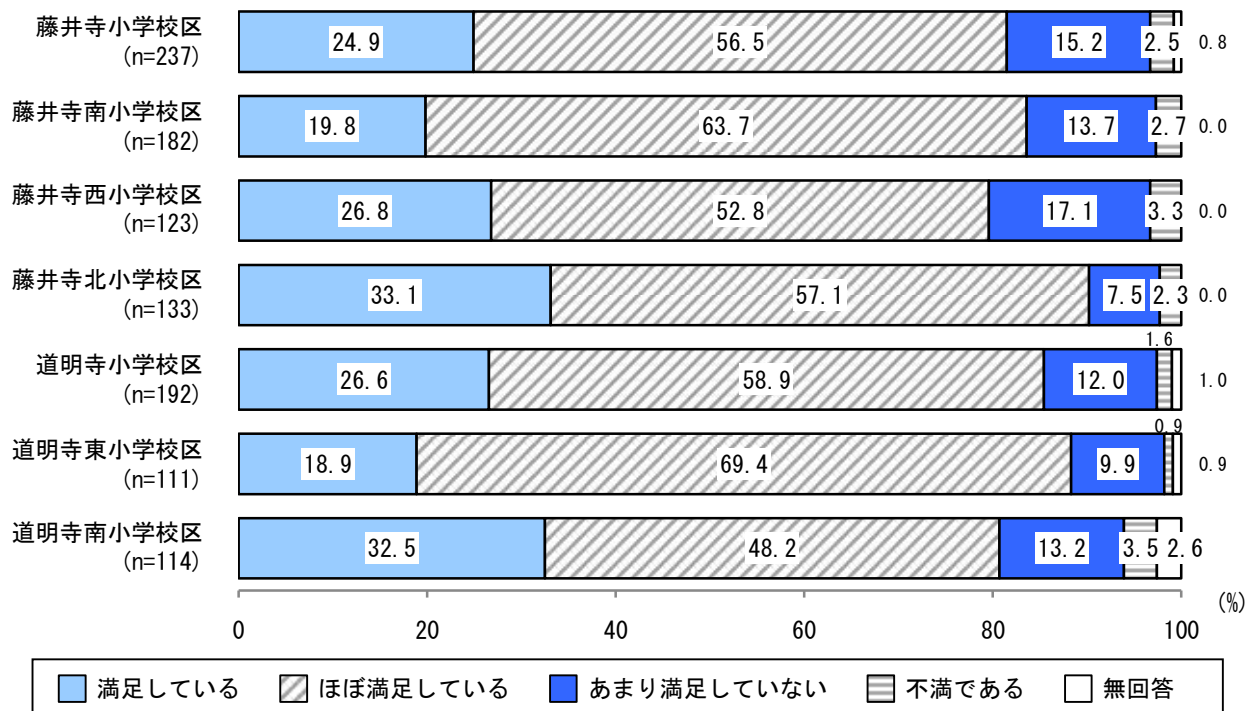
【年齢別】

年齢別で見ると、『満足』の割合は18～29歳が91.9%で最も高く、70歳以上が80.8%で最も低くなっている。



【居住地区別】

居住地区別でみると、『満足』の割合は藤井寺北小学校区が90.2%で最も高く、次いで道明寺東小学校区が88.3%となっている。



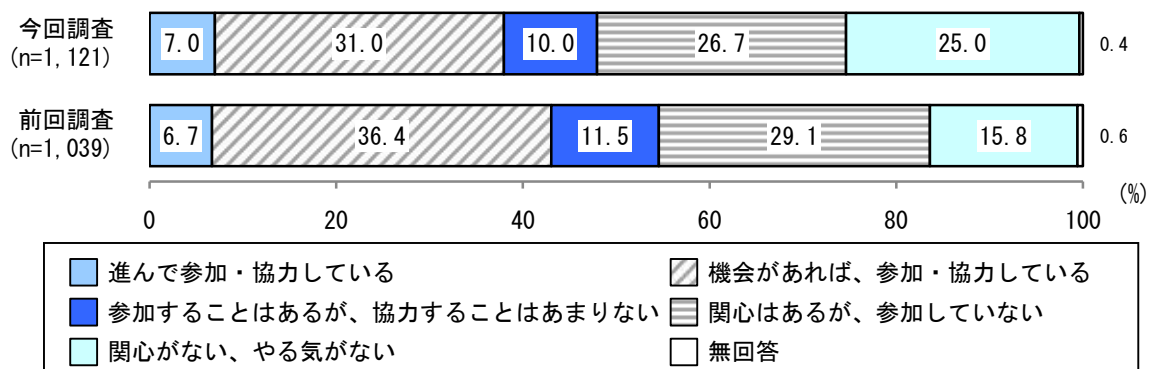
(3) 地域の行事や活動等への参加状況

① 地域の行事や活動等への参加状況について

問3 あなたは、地域の行事や活動等へ参加していますか。(○は1つ)

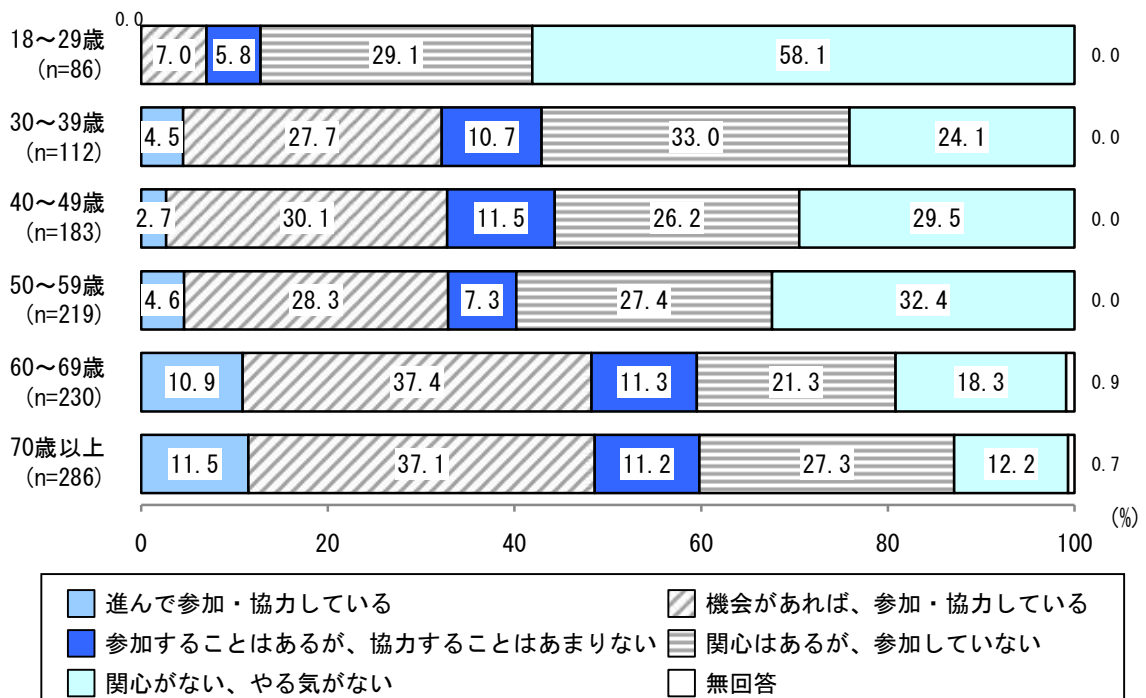
地域の行事や活動等への参加状況については、「機会があれば、参加・協力している」が31.0%で最も多く、次いで「関心はあるが、参加していない」が26.7%、「関心がない、やる気がない」が25.0%となっている。「進んで参加・協力している」と「機会があれば、参加・協力している」、「参加することはあるが、協力することはあまりない」をあわせた『参加している』割合は48.0%となっている。

前回調査と比較すると、『参加している』割合は前回より6.6ポイント低くなっている。



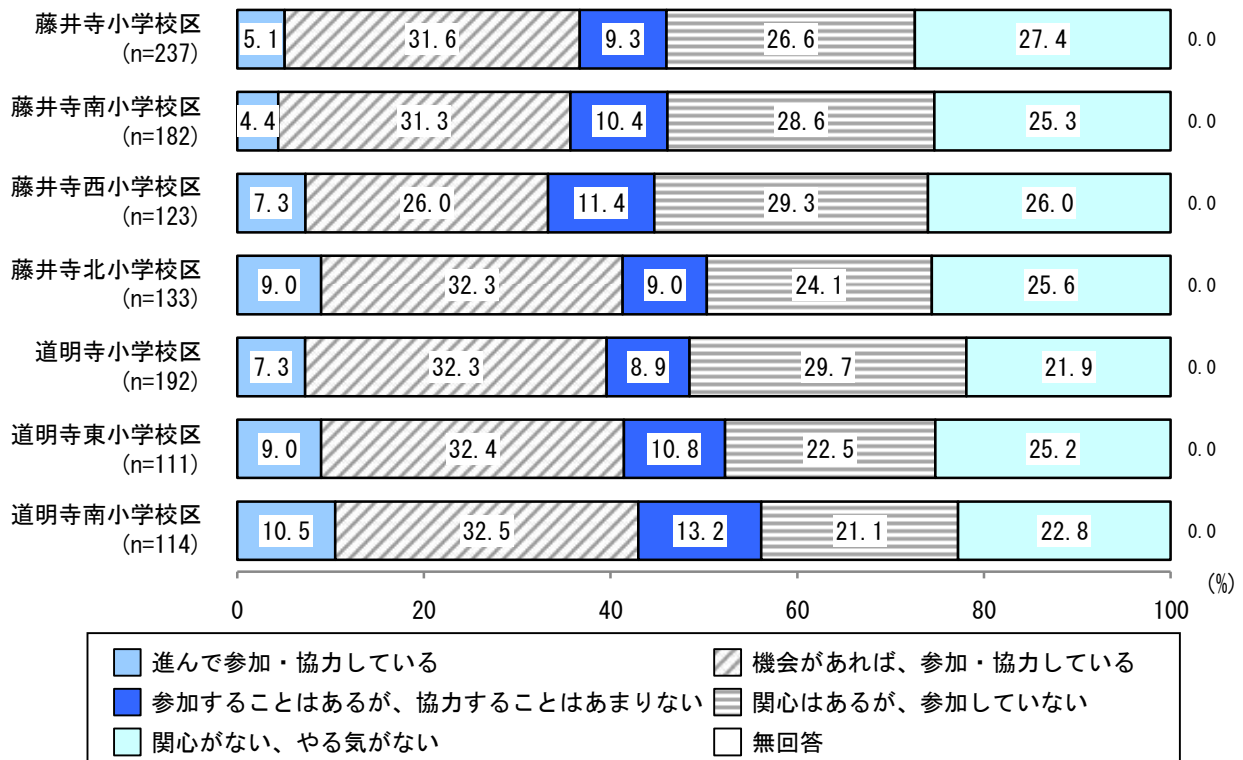
【年齢別】

年齢別でみると、18～29歳では「関心がない、やる気がない」が58.1%で最も多くなっている。また、『参加している』割合は70歳以上が59.8%で最も高く、次いで60～69歳が59.6%となっている。



【居住地区別】

居住地区別でみると、『参加している』割合は道明寺南小学校区が56.2%で最も高く、次いで道明寺東小学校区が52.2%、藤井寺北小学校区が50.3%となっている。

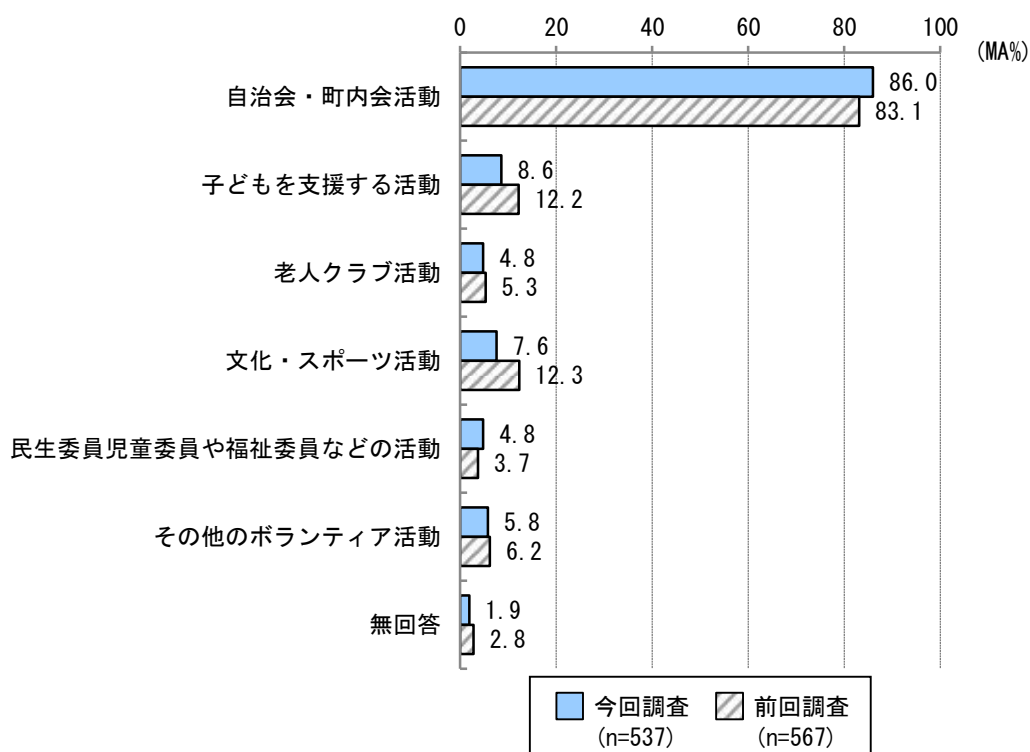


② 参加している活動

問3で「1. 進んで参加・協力している」「2. 機会があれば、参加・協力している」「3. 参加することはあるが、協力することはあまりない」と回答した方に
問3-ア それほどのような活動ですか。(〇はいくつでも)

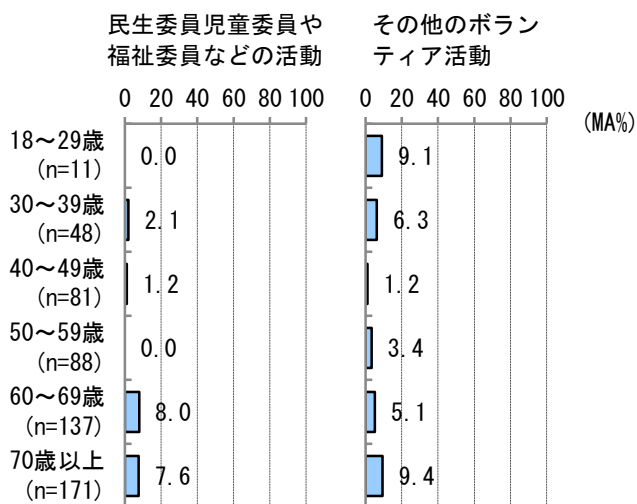
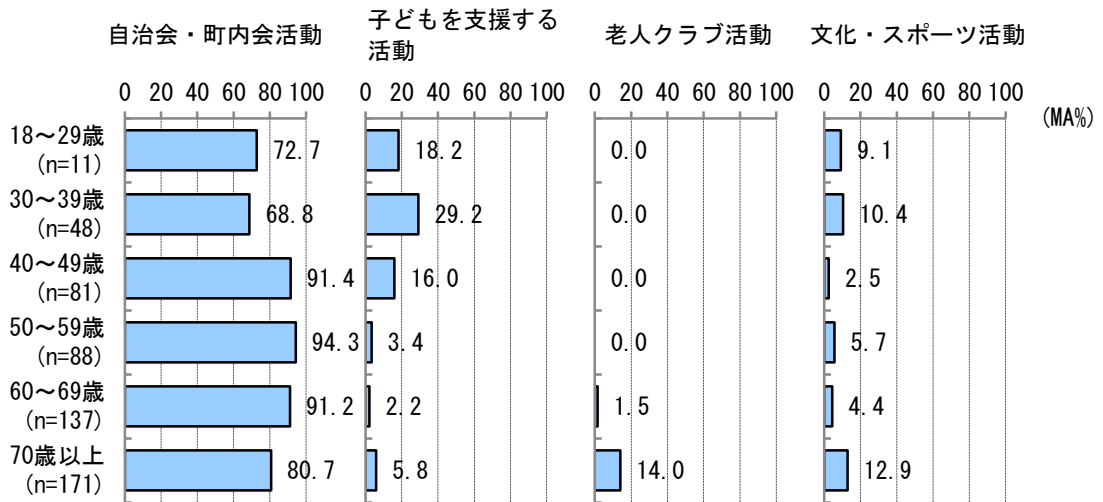
地域の行事や活動等に参加していると回答した人に、参加している地域活動をたずねると、「自治会・町内会活動」が86.0%で最も多く、次いで「子どもを支援する活動」が8.6%、「文化・スポーツ活動」が7.6%、「その他のボランティア活動」が5.8%となっている。

前回調査と比較すると、「文化・スポーツ活動」の割合が4.7ポイント、「子どもを支援する活動」が3.6ポイント、それぞれ前回より低くなっている。



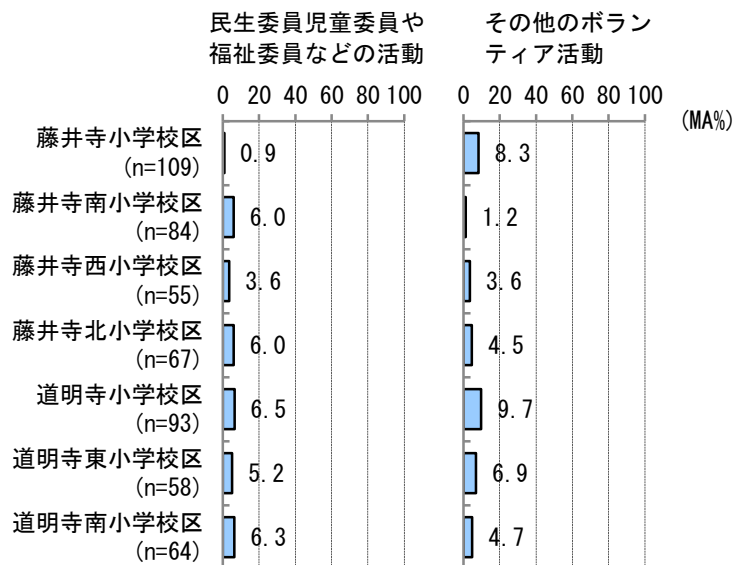
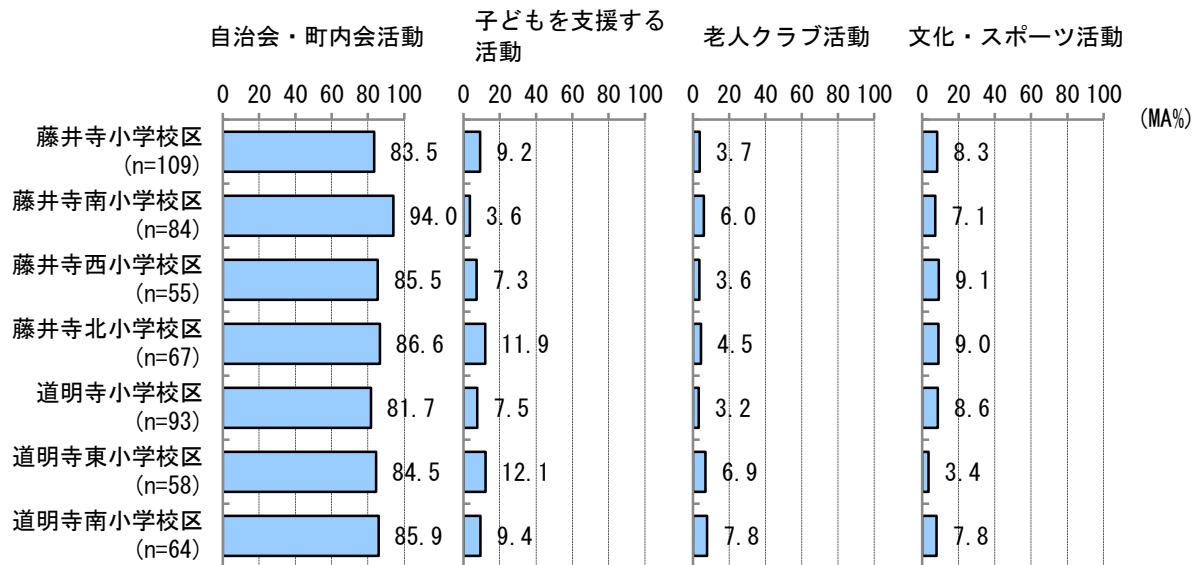
【年齢別】

年齢別でみると、「自治会・町内会活動」の割合は50～59歳が94.3%で最も高く、40～69歳の年代で9割台と高い。「子どもを支援する活動」の割合は30～39歳が29.2%で最も高くなっている。



【居住地区別】

居住地区別でみると、いずれの地区も「自治会・町内会活動」が8割以上を占め最も多く、なかでも藤井寺南小学校区が94.0%で最も高くなっている。

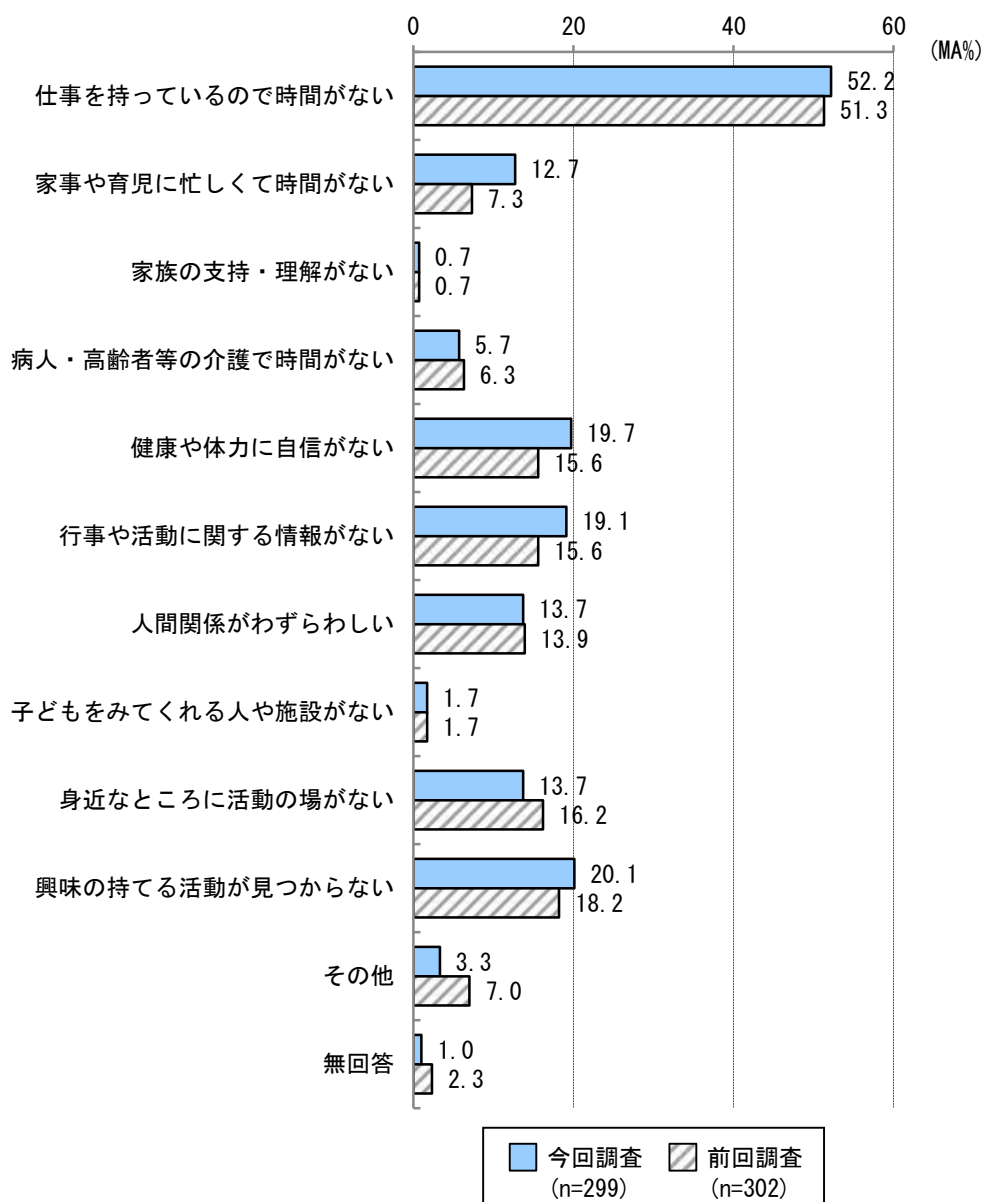


③ 地域の行事や活動に参加しない理由

問3で「4. 関心はあるが、参加していない」と回答した方に
問3-I 参加されない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

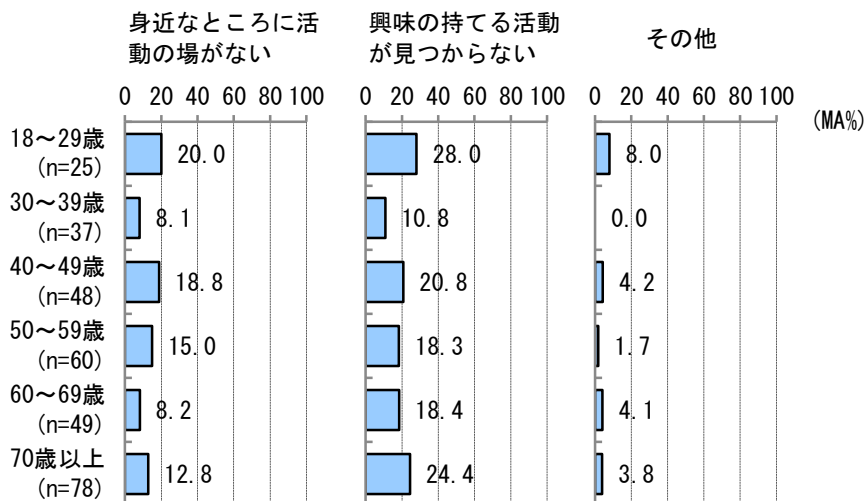
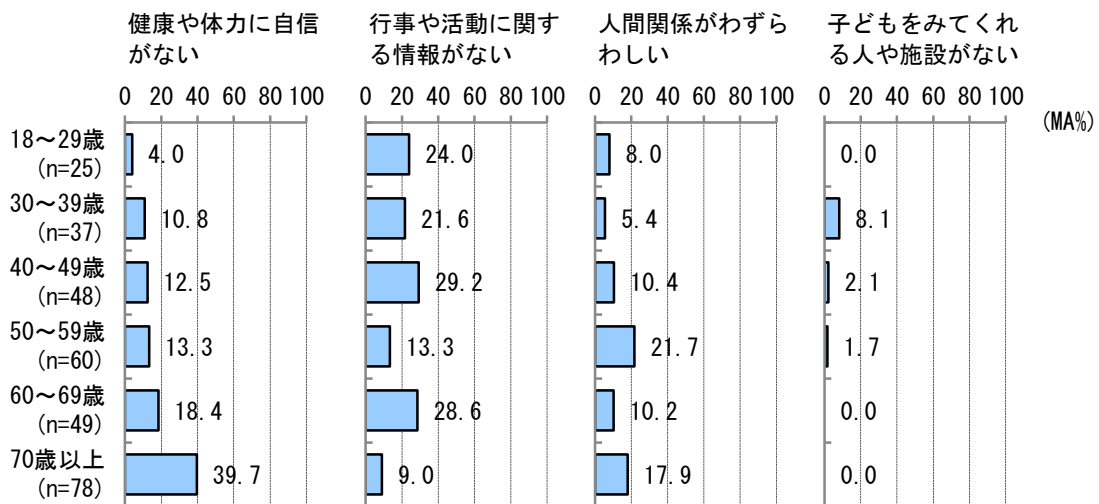
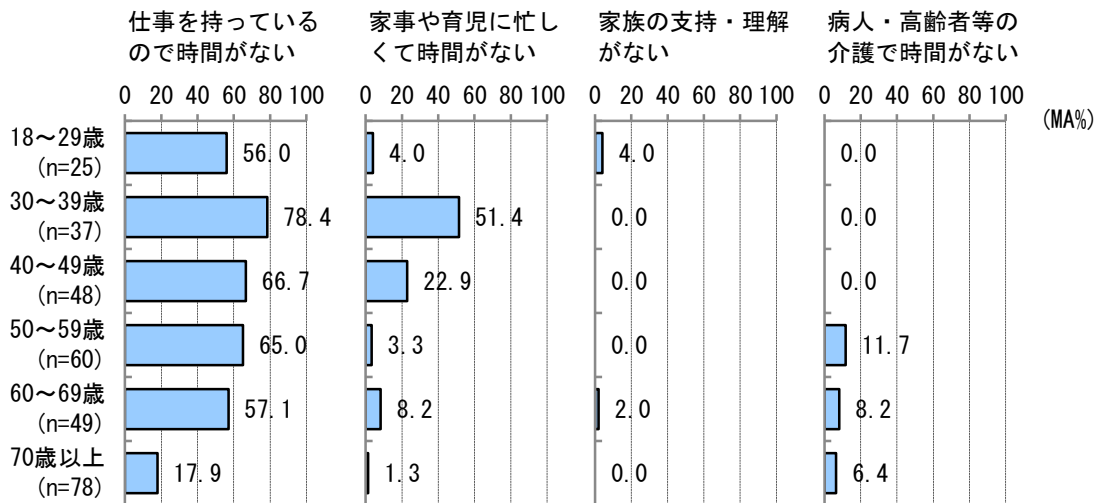
地域の行事や活動等に参加していないと回答した人に、参加しない理由をたずねると、「仕事を持っているので時間がない」が52.2%で最も多く、次いで「興味の持てる活動が見つからない」が20.1%、「健康や体力に自信がない」が19.7%となっている。

前回調査と比較すると、「家事や育児に忙しくて時間がない」の割合が5.4ポイント、「健康や体力に自信がない」の割合が4.1ポイント、それぞれ前回より高くなっている。



【年齢別】

年齢別でみると、69歳までの年代では「仕事を持っているので時間がない」が最も多いが、70歳以上では「健康や体力に自信がない」が39.7%で最も多くなっている。また、「家事や育児に忙しくて時間がない」の割合は30～39歳が51.4%で最も高くなっている。

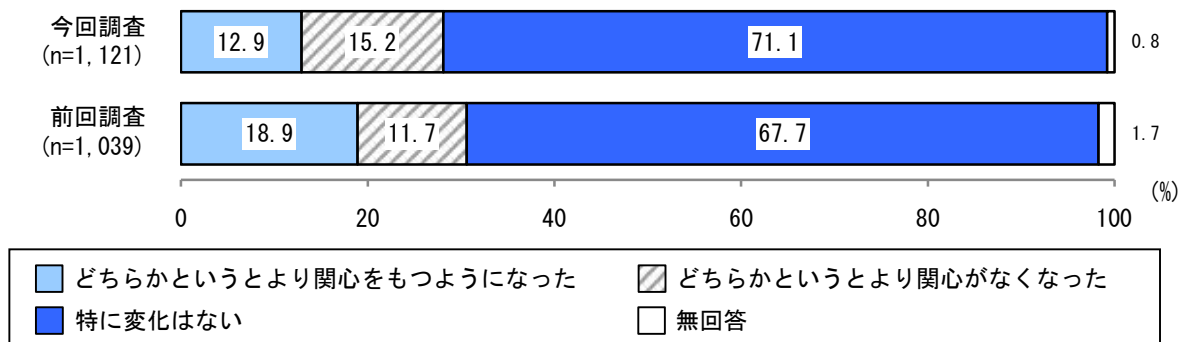


(4) 地域の行事や活動についての関心の変化

問4 地域における行事や活動についてのあなたの関心は、以前と比べて（約5年前と比べて）どのように変化したと感じますか。（○は1つ）

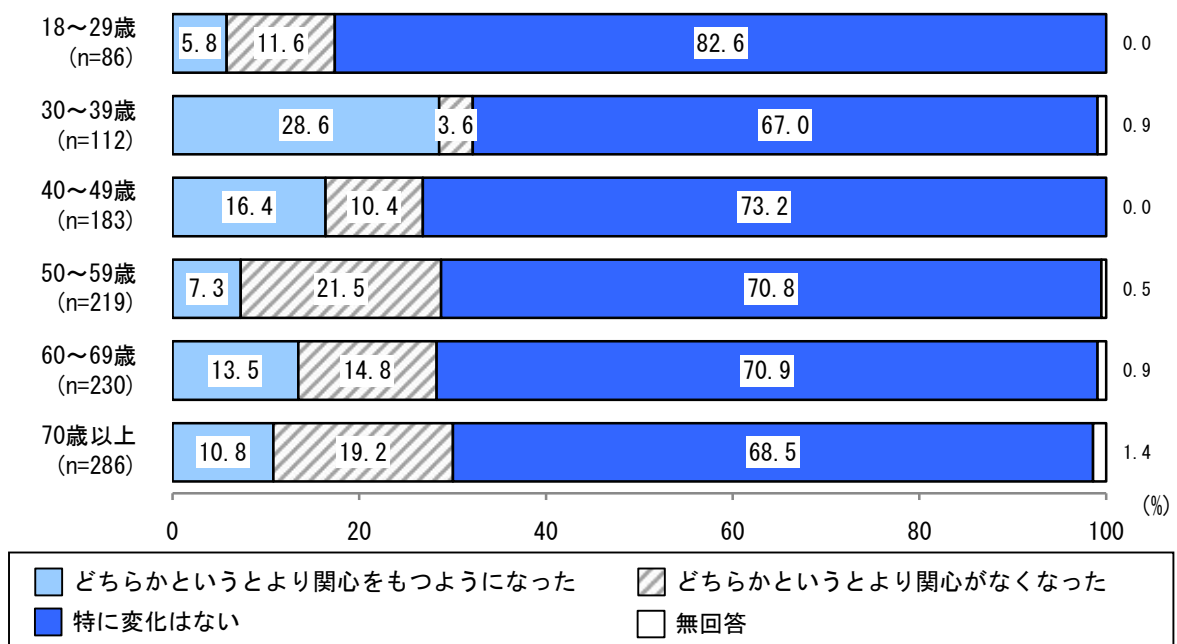
地域の行事や活動等に対する関心の変化は、「特に変化はない」が71.1%で最も多く、次いで「どちらかというより関心がなくなった」が15.2%、「どちらかというより関心をもつようになった」が12.9%となっている。

前回調査と比較すると、「どちらかというより関心をもつようになった」の割合が6.0ポイント、前回より低くなっている。



【年齢別】

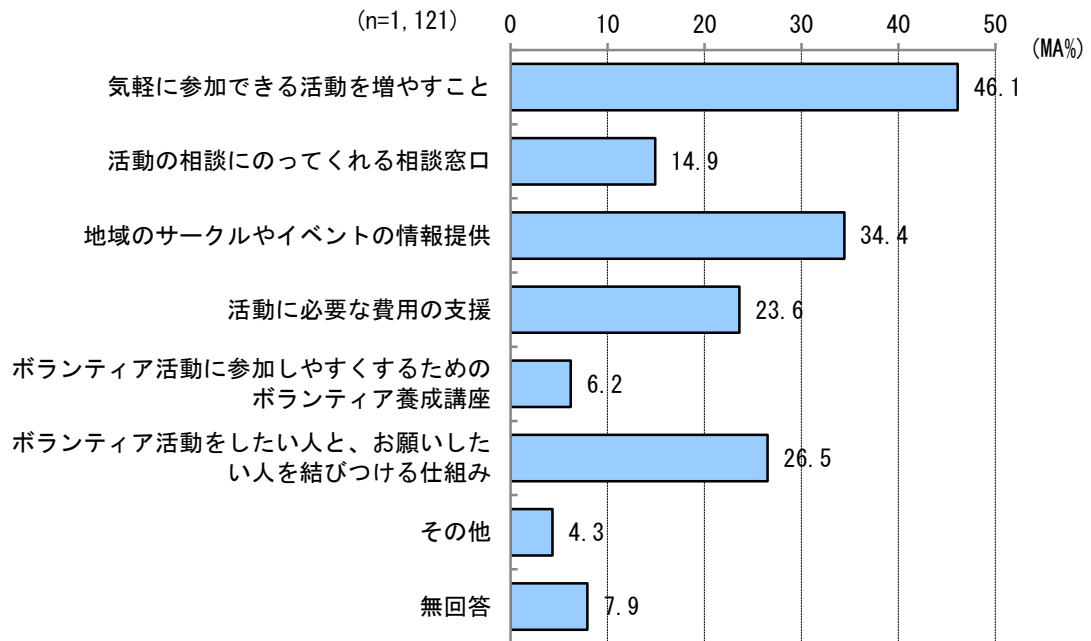
年齢別で見ると、「どちらかというより関心をもつようになった」の割合は30～39歳が28.6%で最も高く、「どちらかというより関心がなくなった」の割合は50～59歳が21.5%で最も高くなっている。



(5) 地域福祉推進のための活動に関わるために、行政や社協に求める手助け

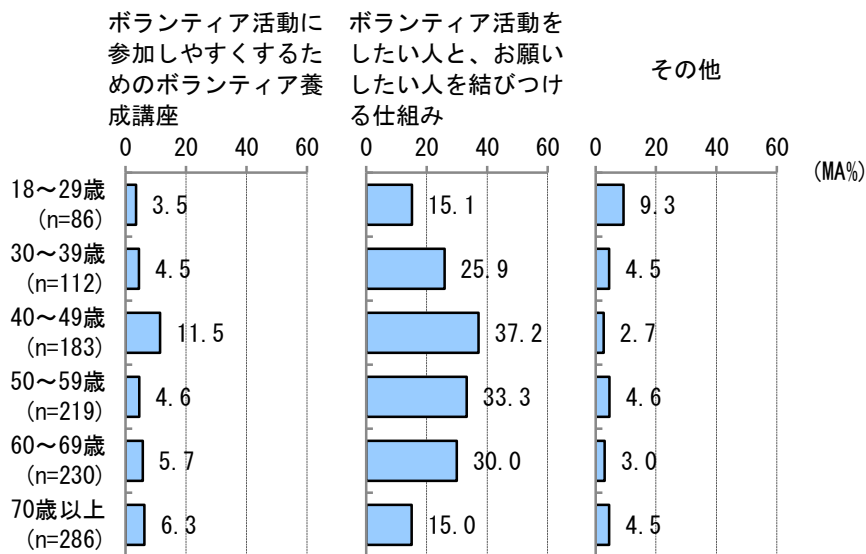
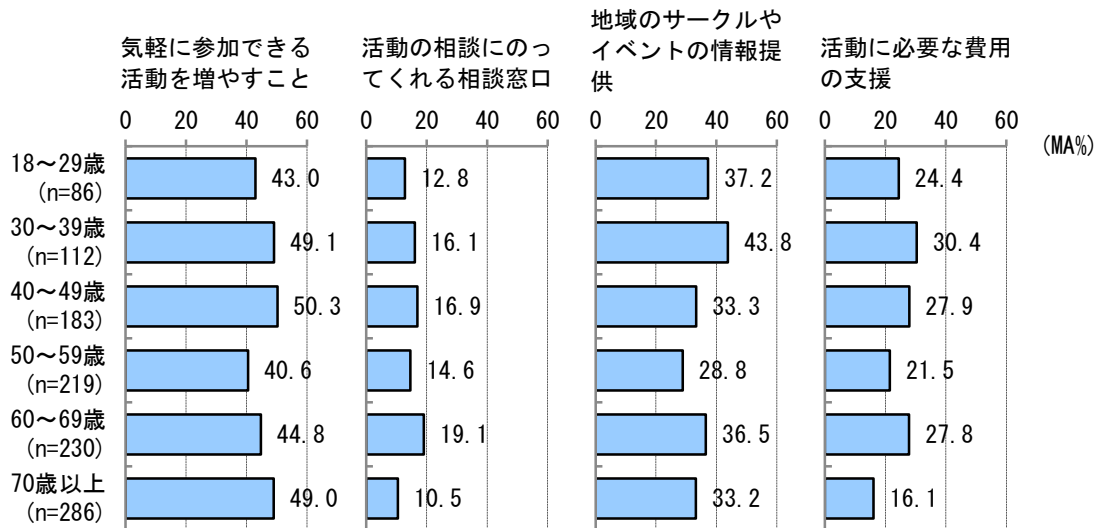
問5 あなたがより地域福祉を推進するための活動に関わるためには、行政や社会福祉協議会がどのような手助けをしていただければよいと思いますか。(〇はいくつでも)

地域福祉推進のための活動に関わるために、行政や社協に求める手助けについては、「気軽に参加できる活動を増やすこと」が46.1%で最も多く、次いで「地域のサークルやイベントの情報提供」が34.4%、「ボランティア活動をしたい人と、お願いしたい人を結びつける仕組み」が26.5%、「活動に必要な費用の支援」が23.6%となっている。



【年齢別】

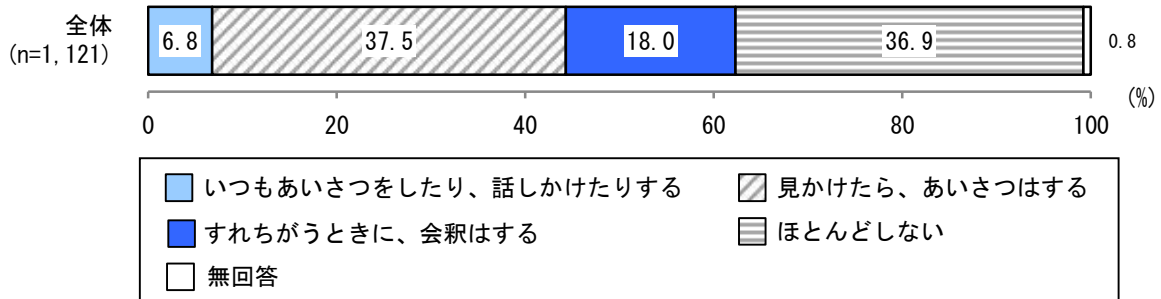
年齢別でみると、「気軽に参加できる活動を増やすこと」、「ボランティア活動に参加しやすくするためのボランティア養成講座」、「ボランティア活動をした人とお願ひしたい人を結びつける仕組み」の割合は40～49歳で最も高く、「地域のサークルやイベントの情報提供」と「活動に必要な費用の支援」の割合は30～39歳で最も高くなっている。



(6) 近所の子どものあいさつや話かけること

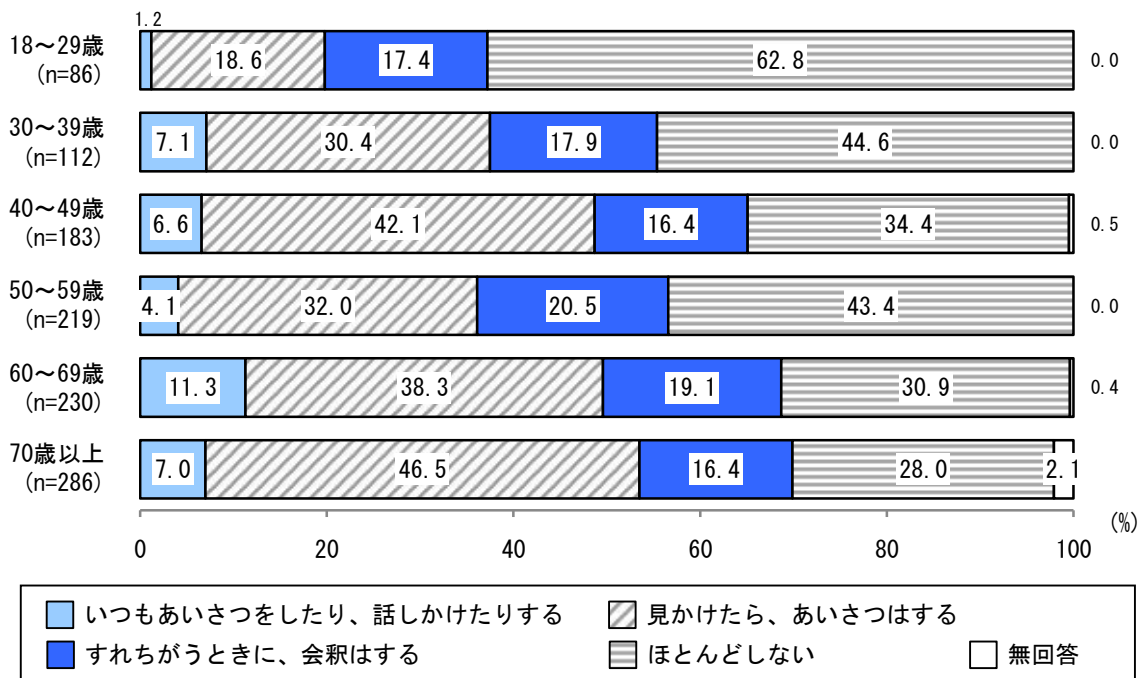
問6 あなたは、近所の子どものあいさつをしたり、話をしたりしますか。(○は1つ)

近所の子どものあいさつしたり、話をしたりするかについては、「見かけたら、あいさつはする」が37.5%で最も多く、次いで「ほとんどしない」が36.9%、「すれちがうときに、会釈はする」が18.0%となっている。



【年齢別】

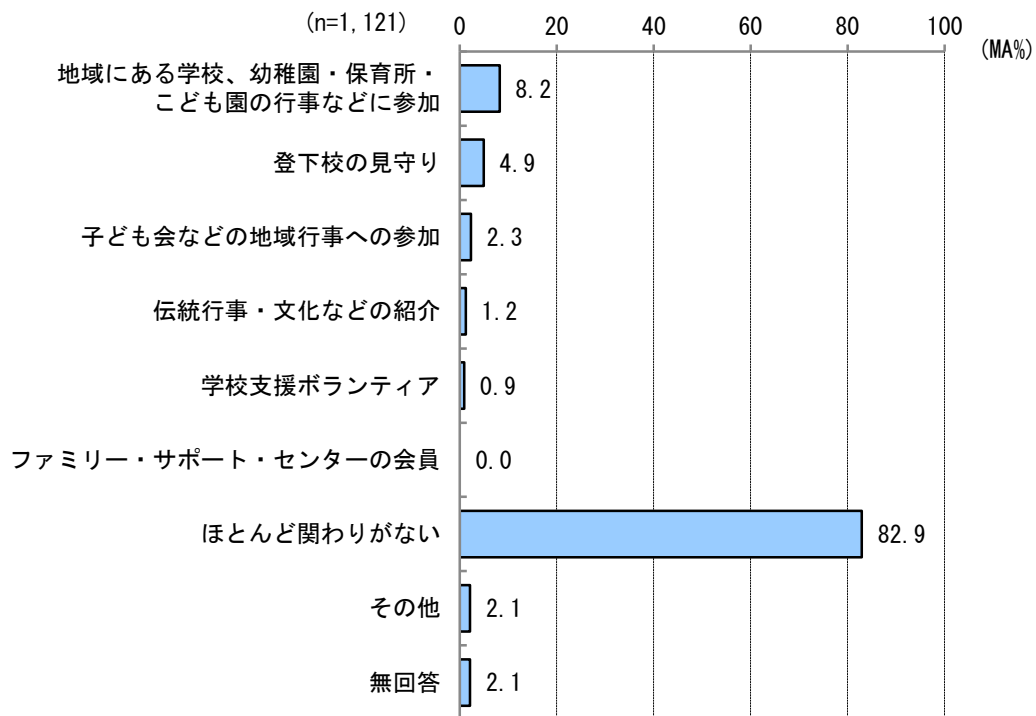
年齢別でみると、40～49歳、60～69歳、70歳以上では「見かけたら、あいさつはする」が最も多いが、それ以外の年代は「ほとんどしない」が最も多くなっている。



(7) 地域の子どもとの関わり方

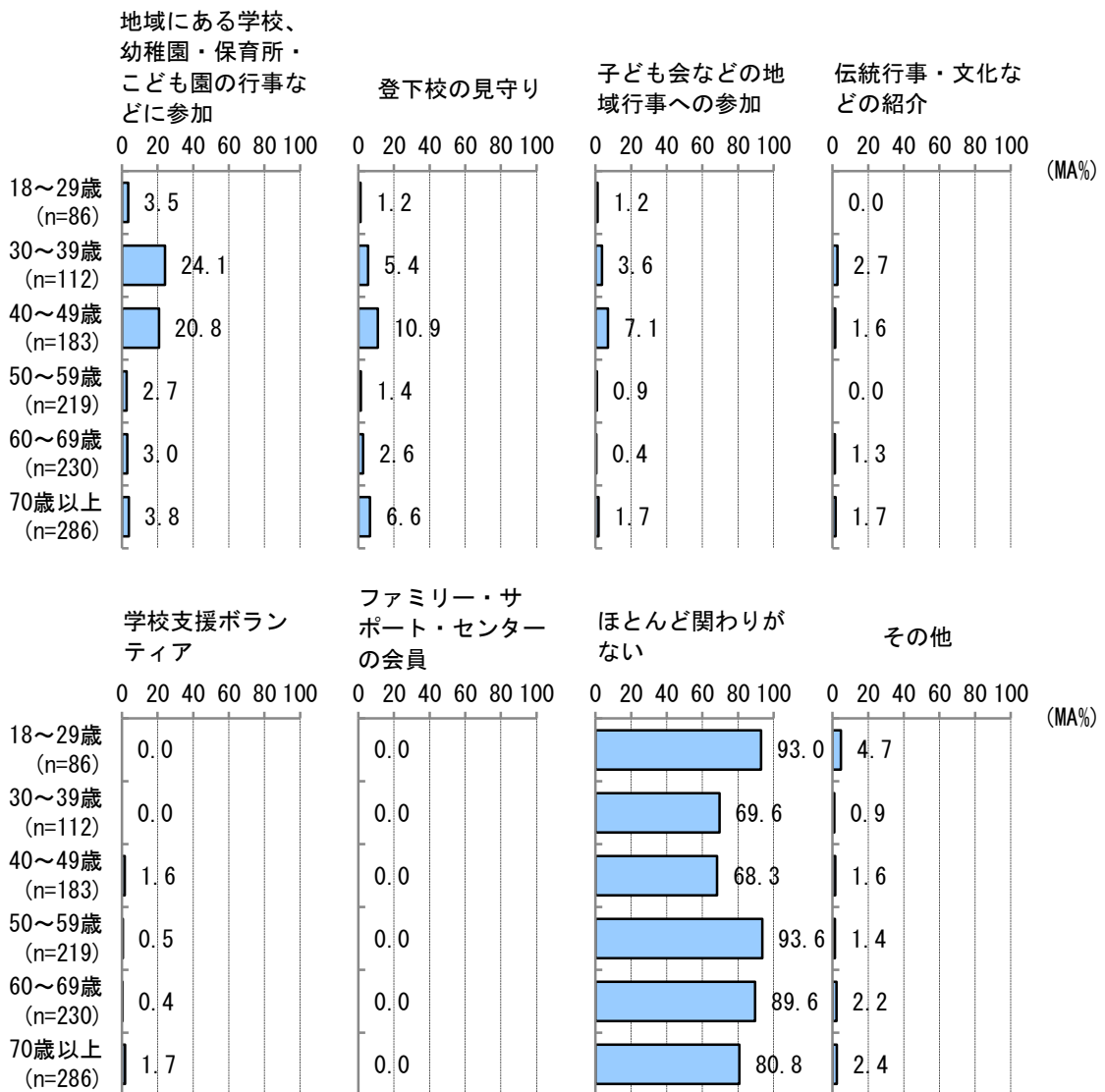
問7 あなたは、地域の子どもとどのような関わり方をしていますか。(〇はいくつでも)

地域の子どもとの関わり方については、「ほとんど関わりがない」が82.9%で最も多く、次いで「地域にある学校、幼稚園・保育所・こども園の行事などに参加」が8.2%、「登下校の見守り」が4.9%、「登下校の見守り」が4.9%となっている。



【年齢別】

年齢別でみると、「地域にある学校、幼稚園・保育所・こども園の行事などに参加」では30～39歳（24.1%）、40～49歳（20.8%）が最も高くなっている。

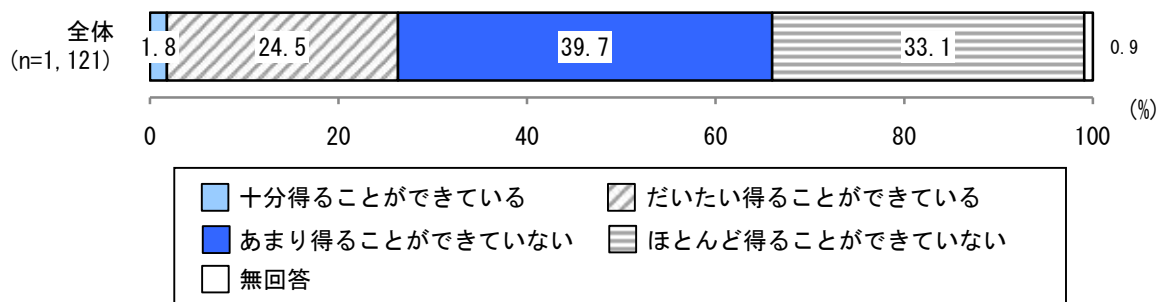


(8) 地域活動や福祉サービスに関する情報について

① 地域活動や福祉サービスに関する情報を得ること

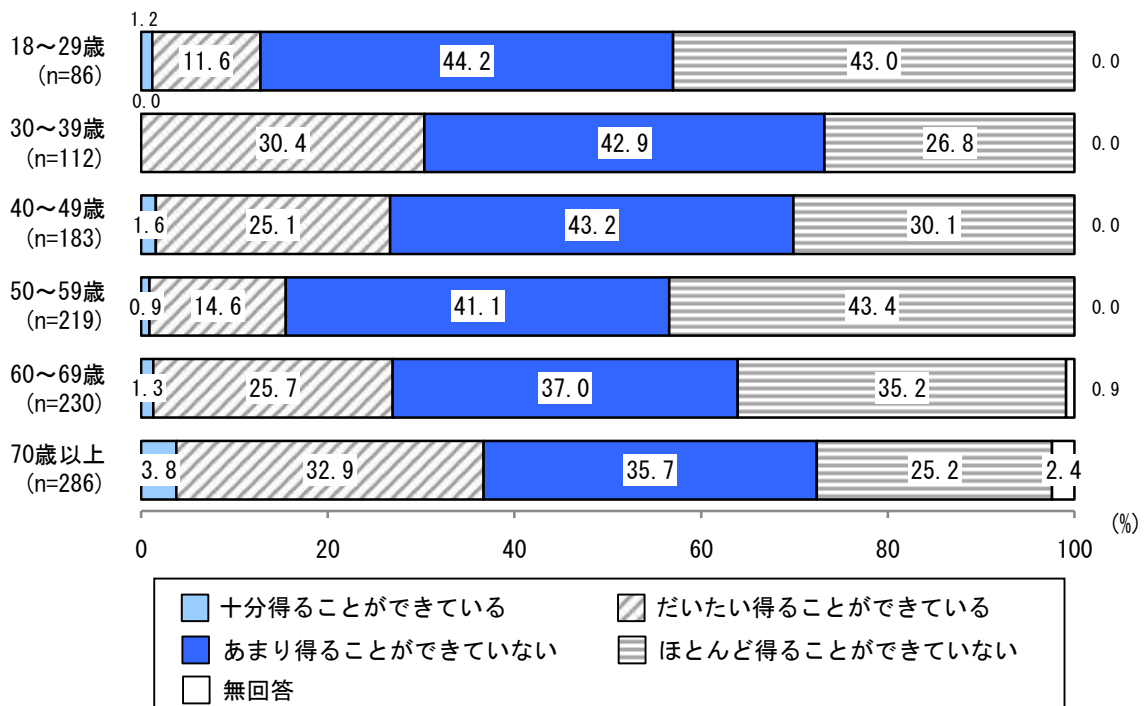
問8 あなたは、地域活動や福祉サービスに関する情報を十分に得ることができていますか。
(○は1つ)

地域活動や福祉サービスに関する情報を得ることについては、「あまり得ることができていない」が39.7%で最も多く、次いで「ほとんど得ることができていない」が33.1%、「だいたい得ることができている」が24.5%となっており、「十分得ることができている」と「だいたい得ることができている」をあわせた『得ることができている』割合は26.3%となっている。



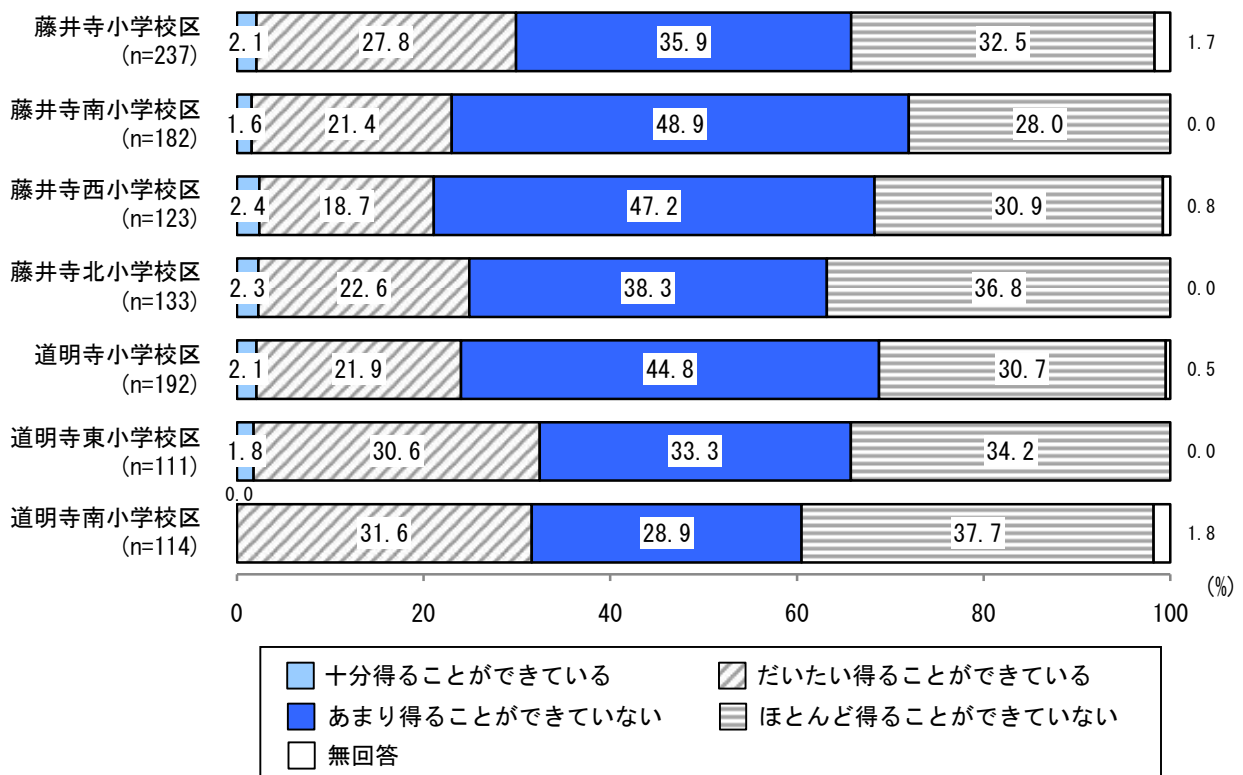
【年齢別】

年齢別でみると、『得ることができている』割合は70歳以上が36.7%で最も高いが、18～29歳が12.8%で最も低くなっている。



【居住地区別】

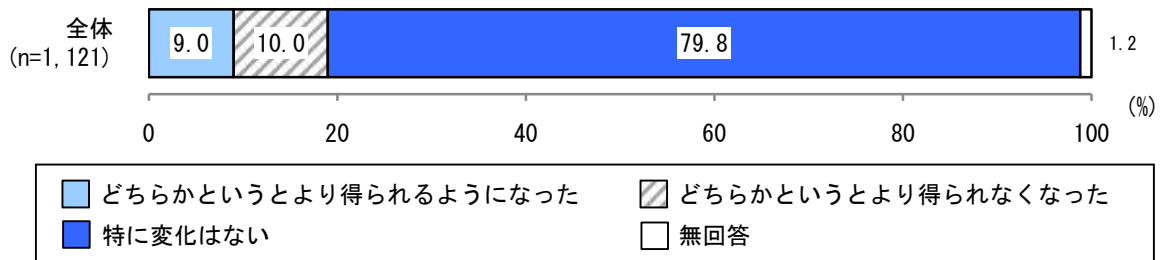
居住地区別でみると、『得ることができている』割合は道明寺東小学校区が32.4%で最も高く、次いで道明寺南小学校区が31.6%となっている。



② 地域活動や福祉サービスに関する情報を得ることの変化

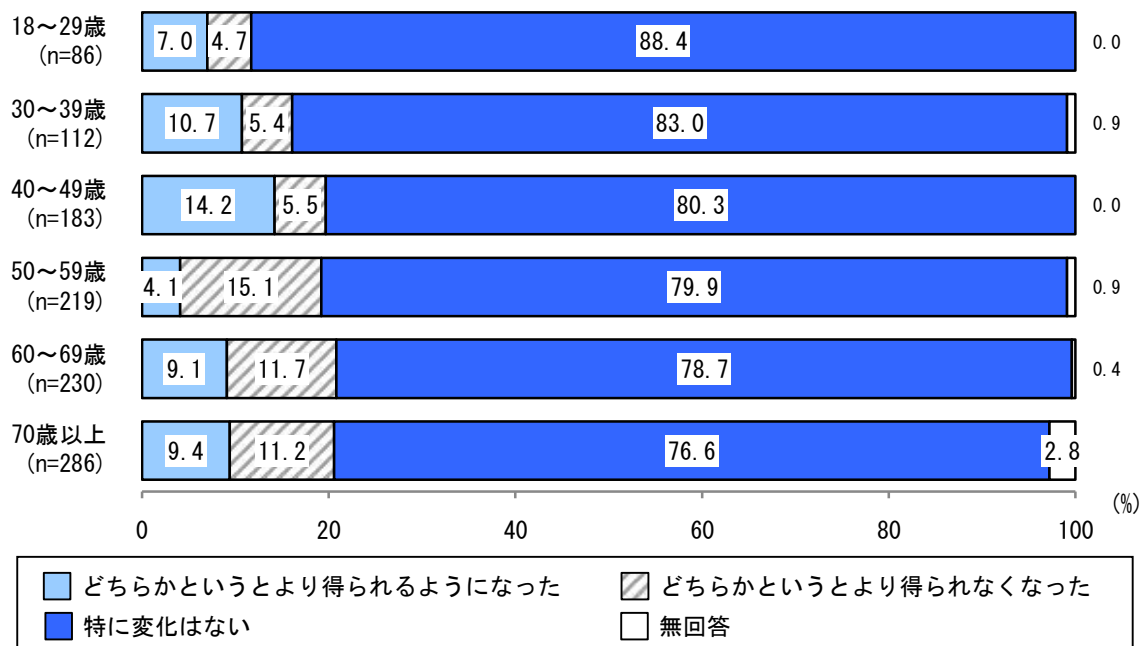
問8-ア 問8の答えは、以前と比べて（約5年前と比べて）どのように変化したと感じますか。（○は1つ）

地域活動や福祉サービスに関する情報を得ることの変化については、「特に変化はない」が79.8%で最も多く、次いで「どちらかというより得られなくなった」が10.0%、「どちらかというより得られるようになった」が9.0%となっている。



【年齢別】

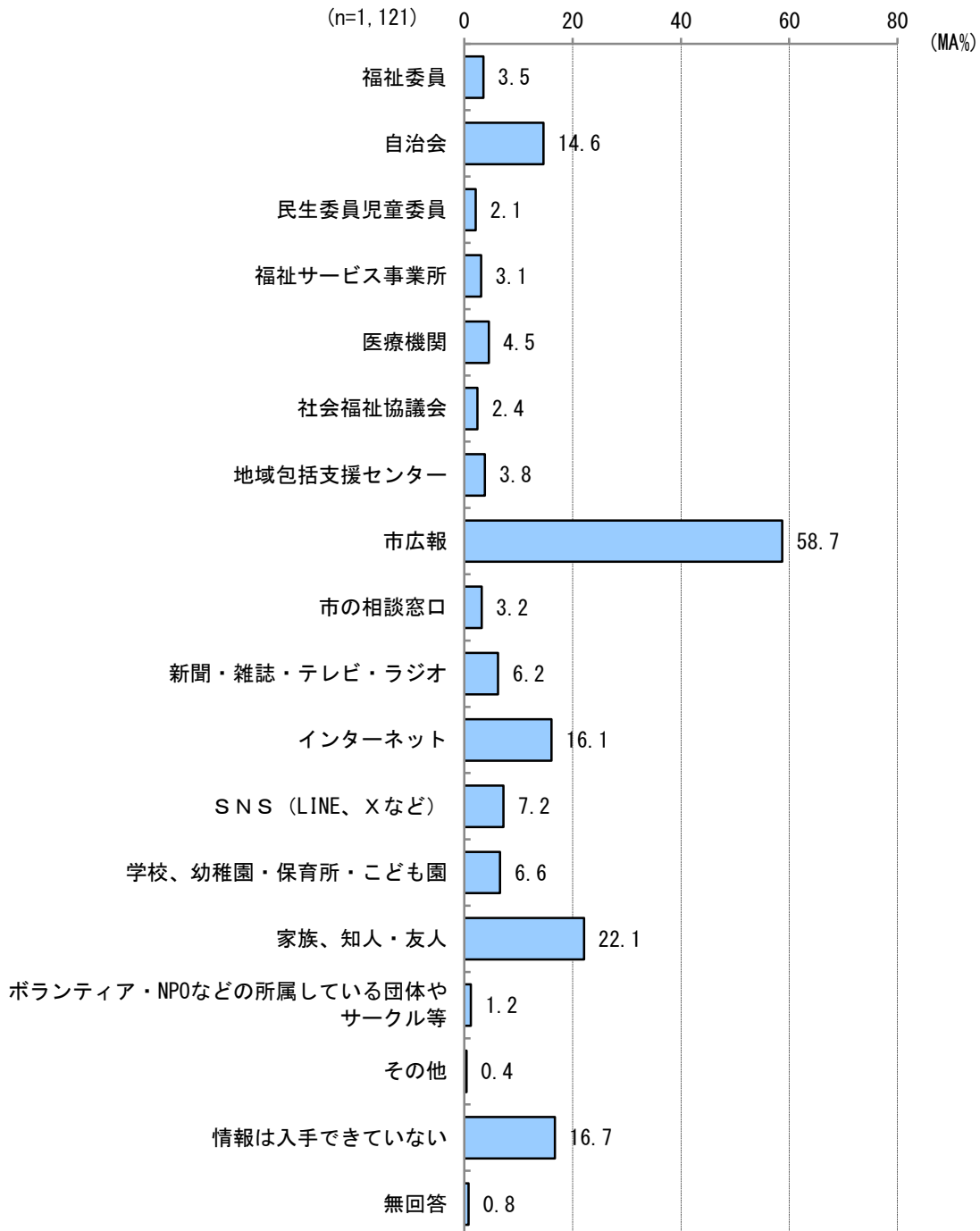
年齢別でみると、「どちらかというより得られるようになった」の割合は40～49歳が14.2%で最も高く、「どちらかというより得られなくなった」の割合は50～59歳が15.1%で最も高くなっている。



(9) 福祉サービスに関する情報の入手元

問9 福祉サービスに関する情報をどこ（誰）から入手していますか。（〇はいくつでも）

福祉サービスに関する情報の入手元については、「市広報」が58.7%で最も多く、次いで「家族、知人・友人」が22.1%、「インターネット」が16.1%、「自治会」が14.6%となっている。



【年齢別】

年齢別で見ると、「市広報」は70歳以上が66.4%で最も高く、次いで60～69歳が63.5%となっている。

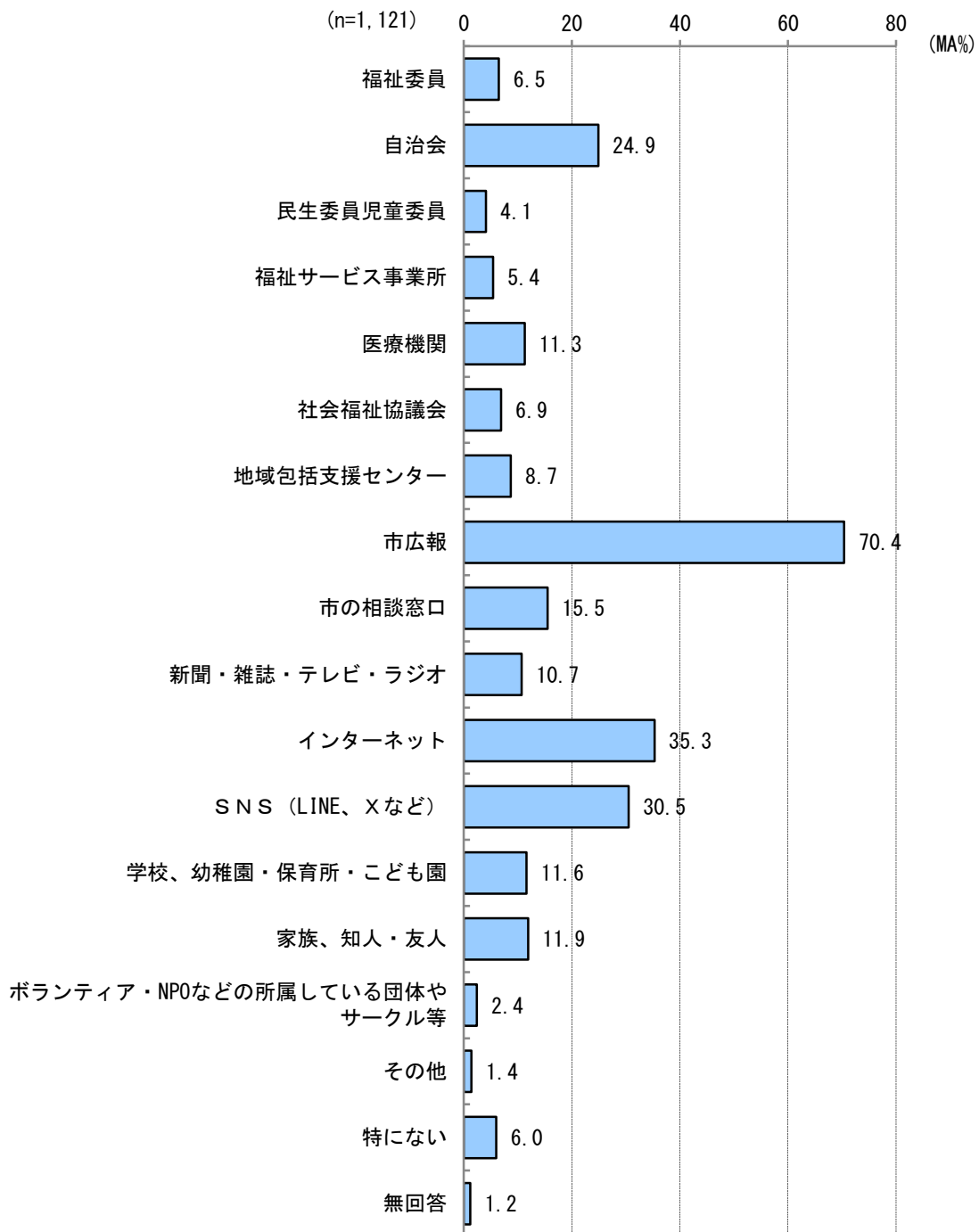
(MA%)

	n	福祉委員	自治会	民生委員児童委員	福祉サービス事業所	医療機関	社会福祉協議会	地域包括支援センター	市広報	市の相談窓口	新聞・雑誌・テレビ・ラジオ	インターネット	SNS（LINE、Xなど）	園 学校、幼稚園・保育所・こども	家族、知人・友人	ボランティア・NPOなどの所 属している団体やサークル等	その他	情報は入手できていない	無回答
18～29歳	86	1.2	2.3	-	-	3.5	-	-	39.5	2.3	2.3	16.3	11.6	7.0	17.4	1.2	-	32.6	2.3
30～39歳	112	0.9	2.7	-	3.6	0.9	0.9	-	55.4	1.8	2.7	18.8	14.3	25.0	29.5	0.9	-	17.0	-
40～49歳	183	0.5	12.6	1.1	2.2	6.6	0.5	-	54.6	3.3	1.1	26.2	14.2	18.0	24.6	0.5	0.5	16.9	-
50～59歳	219	0.9	11.0	-	4.6	5.5	2.3	5.0	56.6	2.7	5.0	18.7	5.0	1.8	25.6	0.9	-	17.4	0.5
60～69歳	230	4.3	18.7	2.2	3.0	3.0	3.9	6.5	63.5	3.0	6.1	15.7	6.1	0.4	19.1	1.3	1.3	17.4	-
70歳以上	286	8.4	24.1	5.9	3.5	5.6	3.8	5.9	66.4	4.5	13.3	7.0	1.4	0.7	18.9	2.1	-	10.1	1.7

(10) 福祉サービスに関する情報の今後希望する提供元

問10 地域活動や福祉サービスに関する情報は、今後、何によって提供されるのがよいと思いますか。(現在の入手先と重複しても構いません) (〇はいくつでも)

地域福祉に関する情報に対して希望する提供元については、「市広報」が70.4%で最も多く、次いで「インターネット」が35.3%、「SNS (LINE、Xなど)」が30.5%、「自治会」が24.9%となっている。



【年齢別】

年齢別で見ると、18～29歳は「SNS（LINE、Xなど）」が47.7%で最も多いが、30歳以上の年代では「市広報」が最も多くなっている。また、「自治会」の割合は、高齢になるほど割合が高くなっている。

															(MA%)				
	n	福祉委員	自治会	民生委員児童委員	福祉サービス事業所	医療機関	社会福祉協議会	地域包括支援センター	市広報	市の相談窓口	新聞・雑誌・テレビ・ラジオ	インターネット	SNS（LINE、Xなど）	園 学校、幼稚園・保育所・こども	家族、知人・友人	ボランティア・NPOなどの所 属している団体やサークル等	その他	特 に な い	無 回 答
18～29歳	86	2.3	5.8	1.2	-	7.0	1.2	3.5	46.5	4.7	7.0	41.9	47.7	10.5	8.1	2.3	3.5	20.9	1.2
30～39歳	112	0.9	9.8	1.8	6.3	11.6	4.5	5.4	69.6	12.5	8.9	57.1	54.5	37.5	17.0	0.9	0.9	6.3	0.9
40～49歳	183	4.9	18.0	4.9	4.4	12.6	6.6	9.3	62.3	16.4	10.9	44.8	47.0	31.1	14.8	2.2	2.2	7.7	0.5
50～59歳	219	3.7	20.1	3.2	5.5	11.9	7.3	6.8	68.9	16.9	10.5	43.4	33.8	5.0	8.7	1.8	1.8	5.0	1.8
60～69歳	230	6.5	30.9	1.3	7.4	9.1	5.7	9.6	78.3	16.1	9.6	35.2	25.7	3.0	8.7	2.6	0.9	2.6	0.4
70歳以上	286	13.3	39.9	8.4	5.9	13.3	10.5	12.2	78.0	17.8	13.6	13.3	7.3	1.4	14.3	3.5	0.3	3.5	1.7

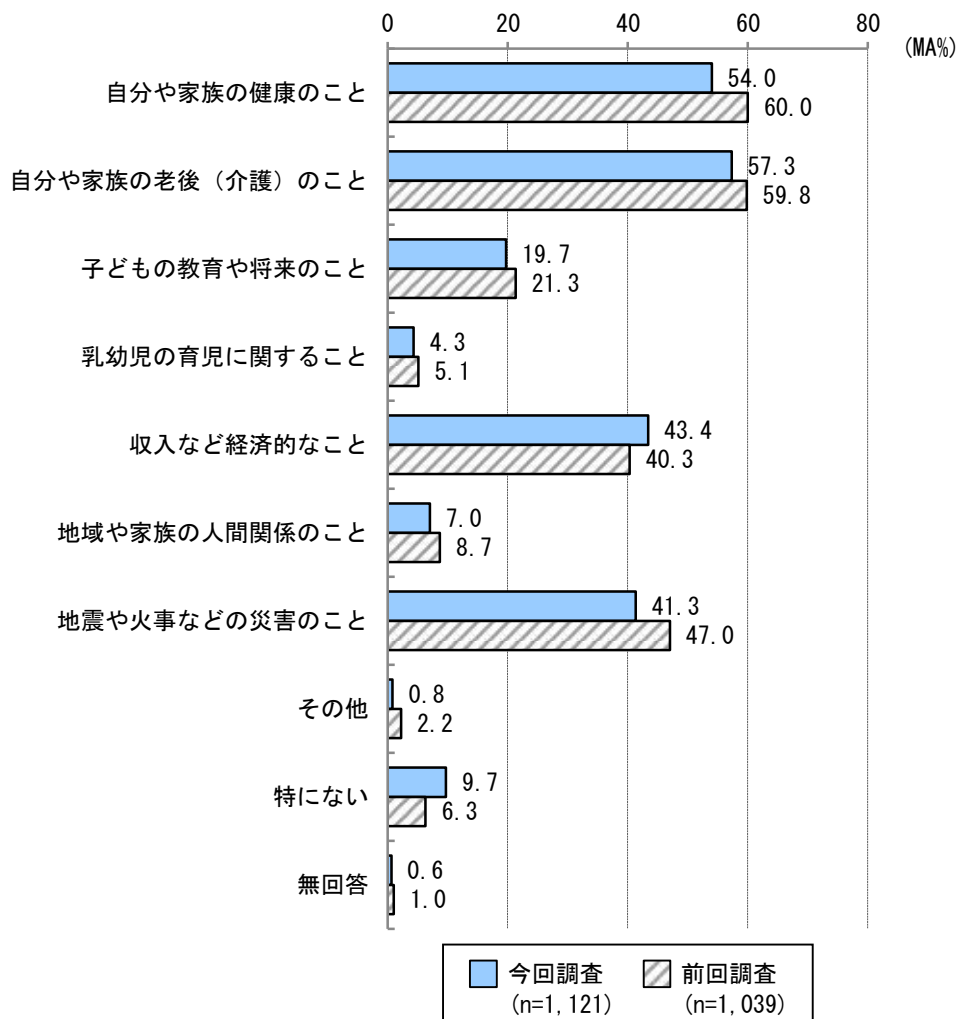
3. 生活課題や福祉について

(1) 日頃の生活で感じる悩みや不安

問11 あなたは日頃の生活でどのようなことに悩みや不安を感じていますか。(〇はいくつでも)

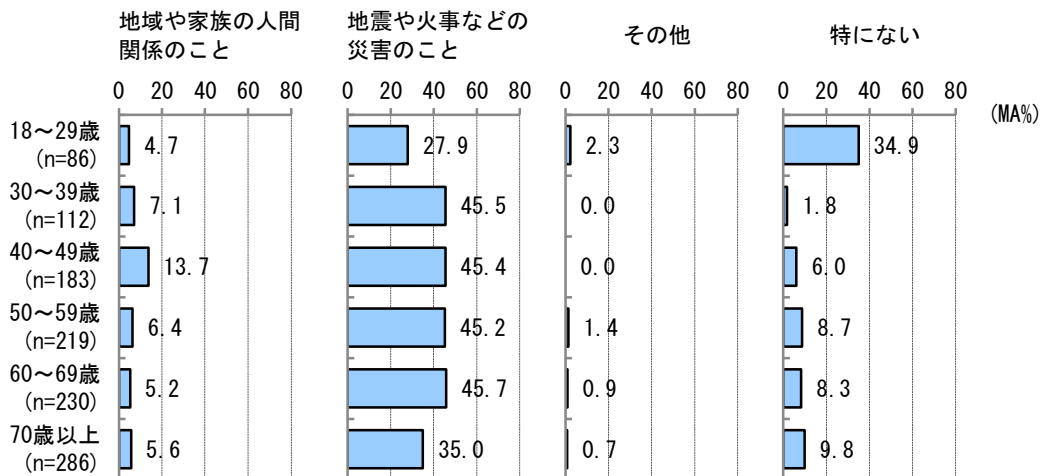
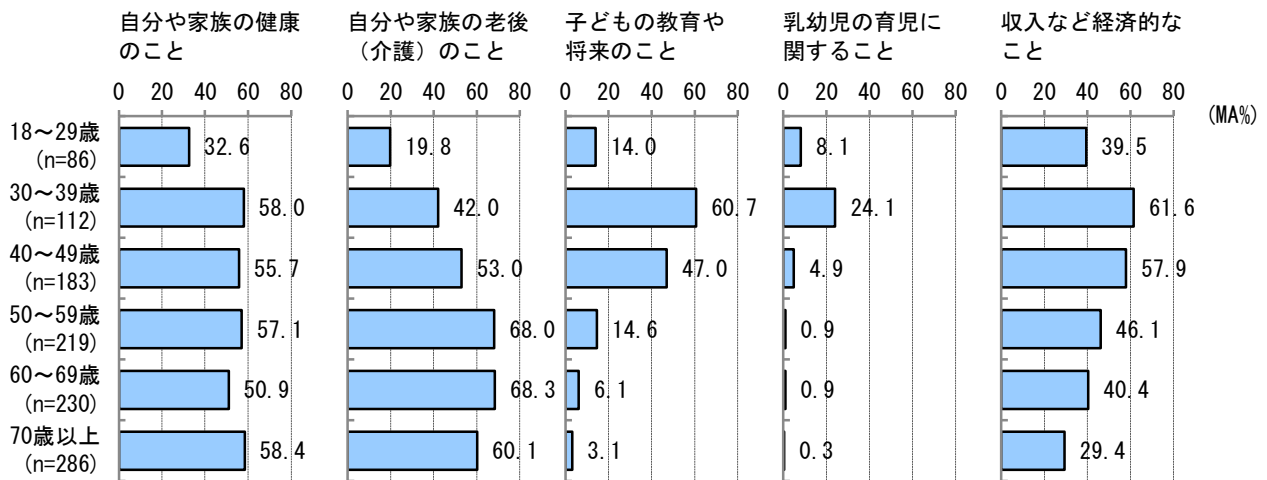
日頃の生活で感じる悩みや不安については、「自分や家族の老後（介護）のこと」が57.3%で最も多く、次いで「自分や家族の健康のこと」が54.0%、「収入など経済的なこと」が43.4%、「地震や火事などの災害のこと」が41.3%となっている。

前回調査と比較すると、「自分や家族の健康のこと」の割合が6.0ポイント、「地震や火事などの災害のこと」の割合が5.7ポイント、それぞれ前回より低くなっている。



【年齢別】

年齢別でみると、「子どもの教育や将来のこと」と「収入など経済的なこと」の割合は30～39歳が最も高く、40歳以降は高齢になるほど割合が低くなっている。



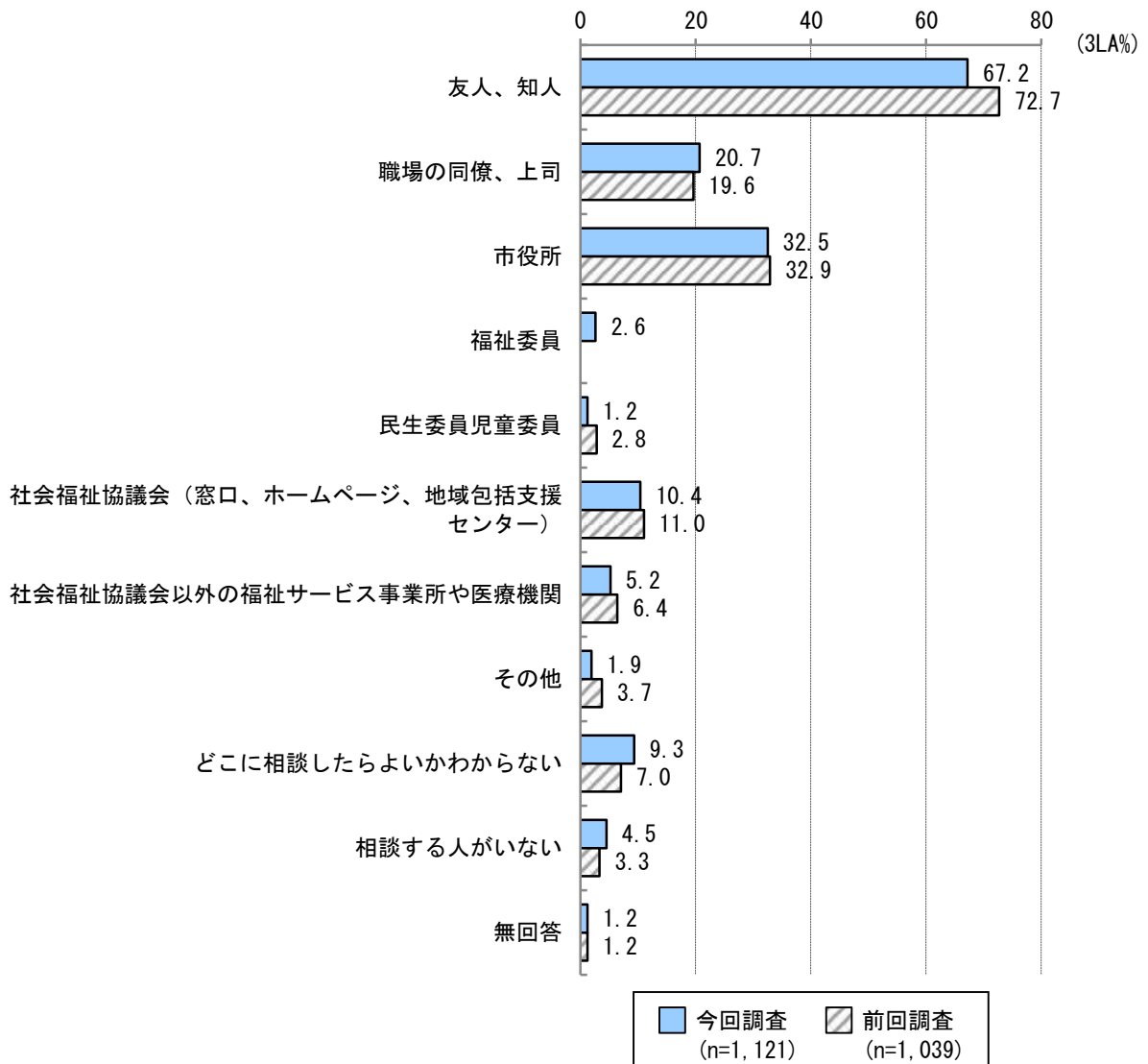
(2) 困った時の家族以外の相談先

① 困った時の家族以外の相談先

問12 もしあなた自身がさまざまな場面で困ったとき、家族以外の誰に相談しますか。(〇は3つまで)

困った時の家族以外の相談先については、「友人、知人」が67.2%で最も多く、次いで「市役所」が32.5%、「職場の同僚、上司」が20.7%となっている。

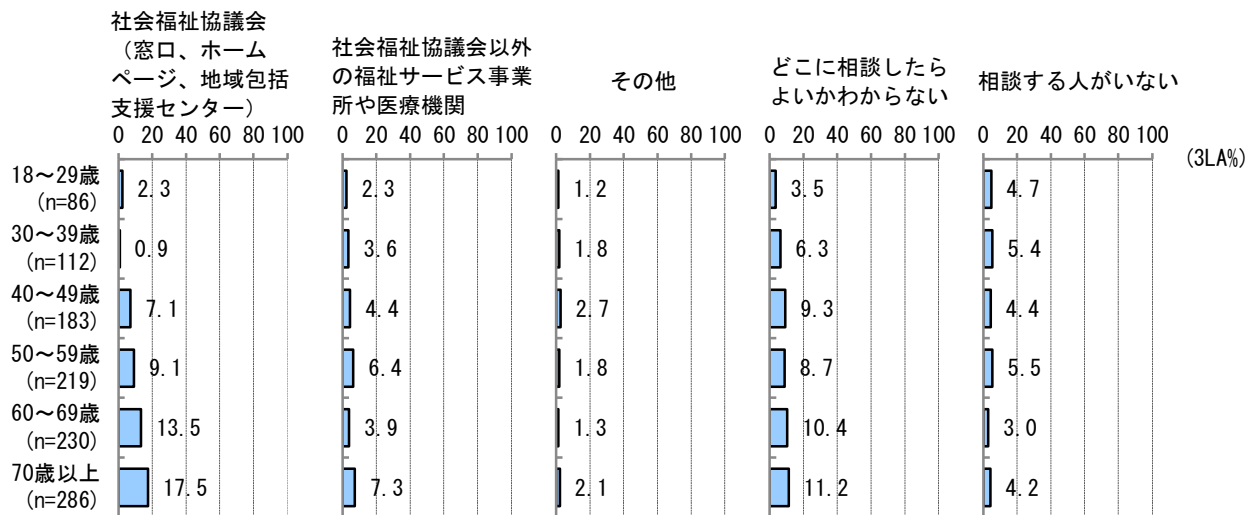
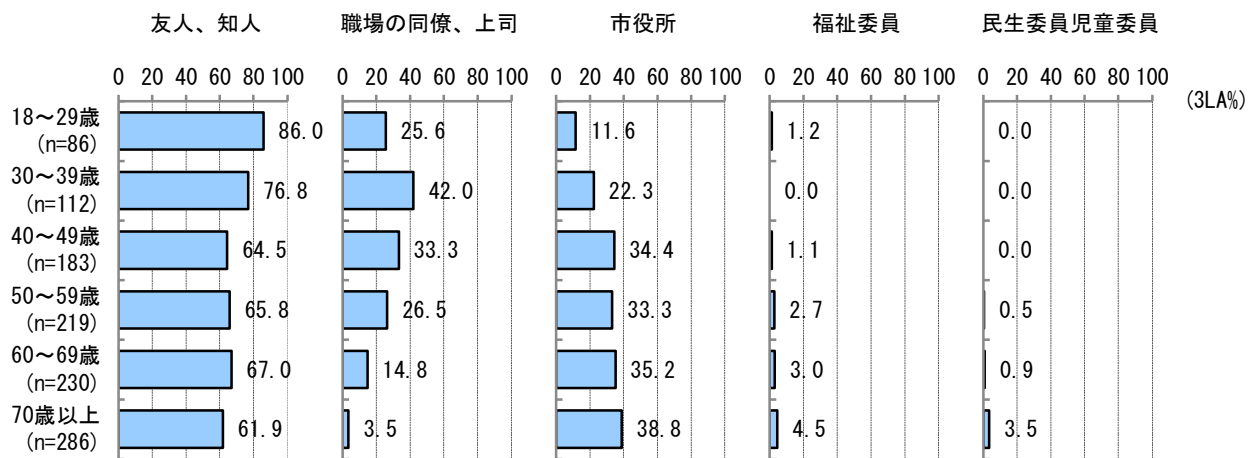
前回調査と比較すると、「友人、知人」の割合が前回より5.5ポイント低くなっている。



※「福祉委員」は今回調査の新規項目である。

【年齢別】

年齢別でみると、「友人、知人」は18～29歳が86.0%で最も高く、「職場の同僚、上司」は30～39歳が42.0%、「市役所」は70歳以上が38.8%で最も高くなっている。

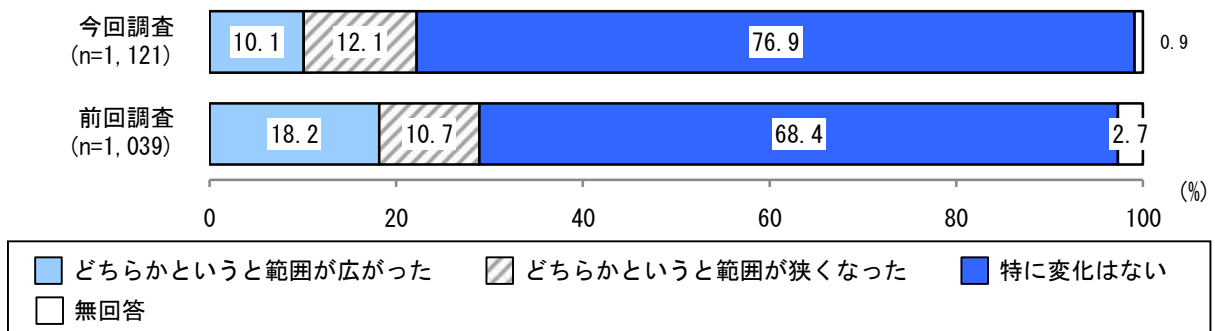


② 相談できる相手先の変化

問12ーア 相談できる相手先は、以前と比べて（約5年前と比べて）どのように変化したと感じますか。（○は1つ）

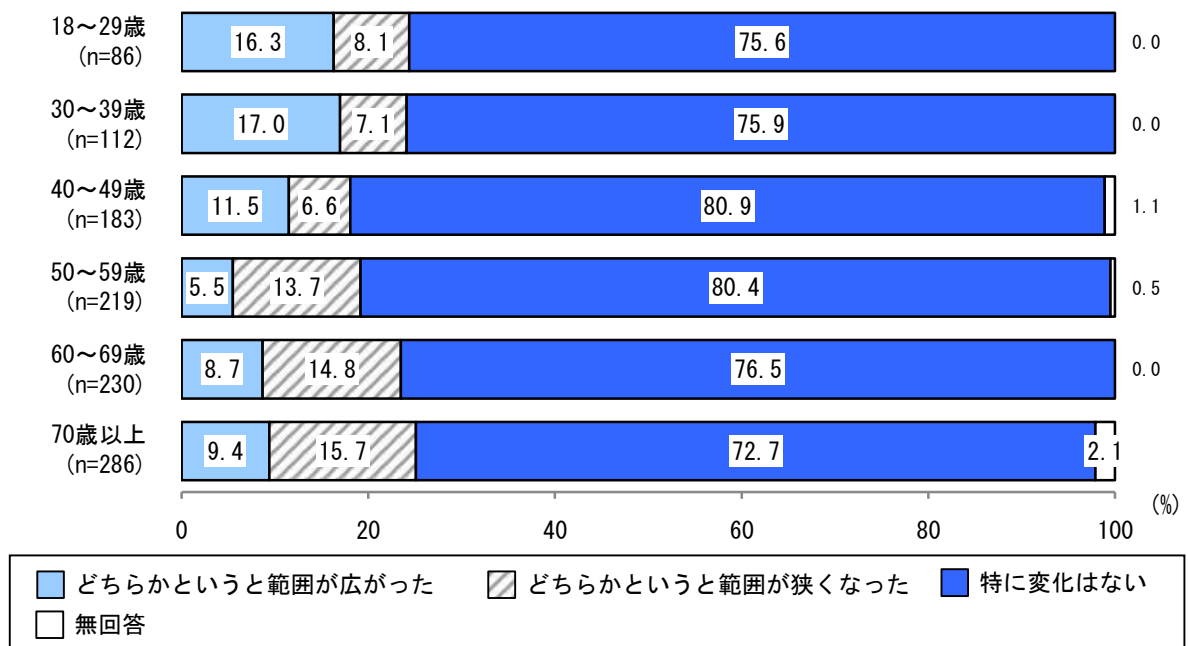
相談できる相手先の変化については、「特に変化はない」が76.9%で最も多く、次いで「どちらかという範囲が狭くなった」が12.1%、「どちらかという範囲が広がった」が10.1%となっている。

前回調査と比較すると、「特に変化はない」の割合は前回より8.5ポイント高いが、「どちらかという範囲が広がった」の割合は前回より8.1ポイント低くなっている。



【年齢別】

年齢別でみると、「どちらかという範囲が広がった」の割合は30～39歳が17.0%で最も高いが、「どちらかという範囲が狭くなった」の割合は70歳以上が15.7%で最も高くなっている。



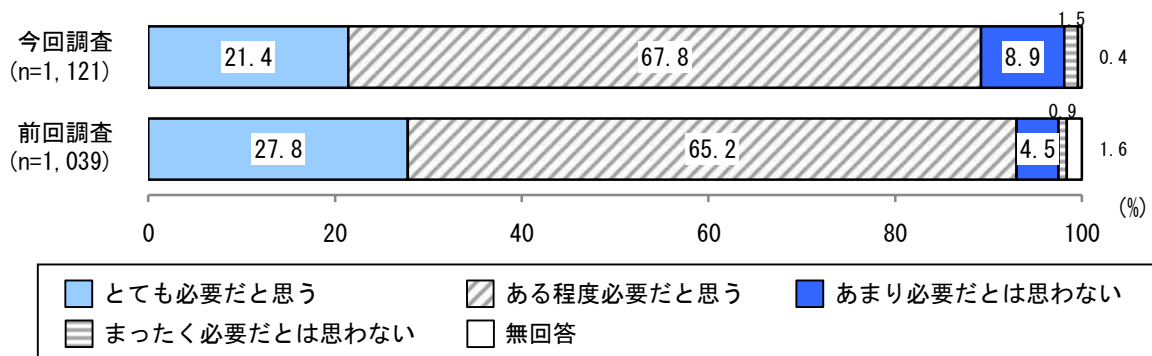
(3) 地域の福祉課題に対する、住民相互の自主的な支え合い、助け合いの必要性

① 地域の福祉課題に対する、住民相互の自主的な支え合い、助け合いの必要性

問13 あなたは、地域の福祉課題に対し、住民相互の自主的な支え合い、助け合いの必要性についてどう思いますか。(〇は1つ)

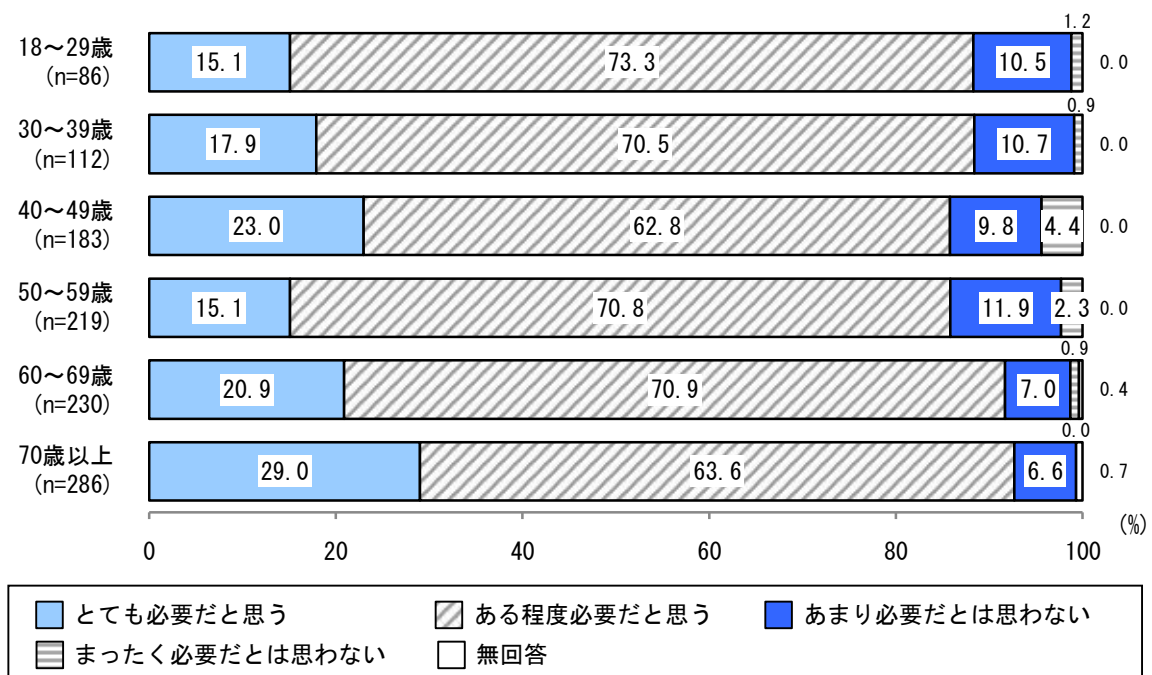
地域の福祉課題に対する、住民相互の自主的な支え合い、助け合いの必要性については、「ある程度必要だと思う」が67.8%で最も多く、次いで「とても必要だと思う」が21.4%、「あまり必要だとは思わない」が8.9%となっており、「とても必要だと思う」と「ある程度必要だと思う」をあわせた『必要』の割合は89.2%となっている。

前回調査と比較すると、『必要』の割合は前回より3.8ポイント低くなっている。



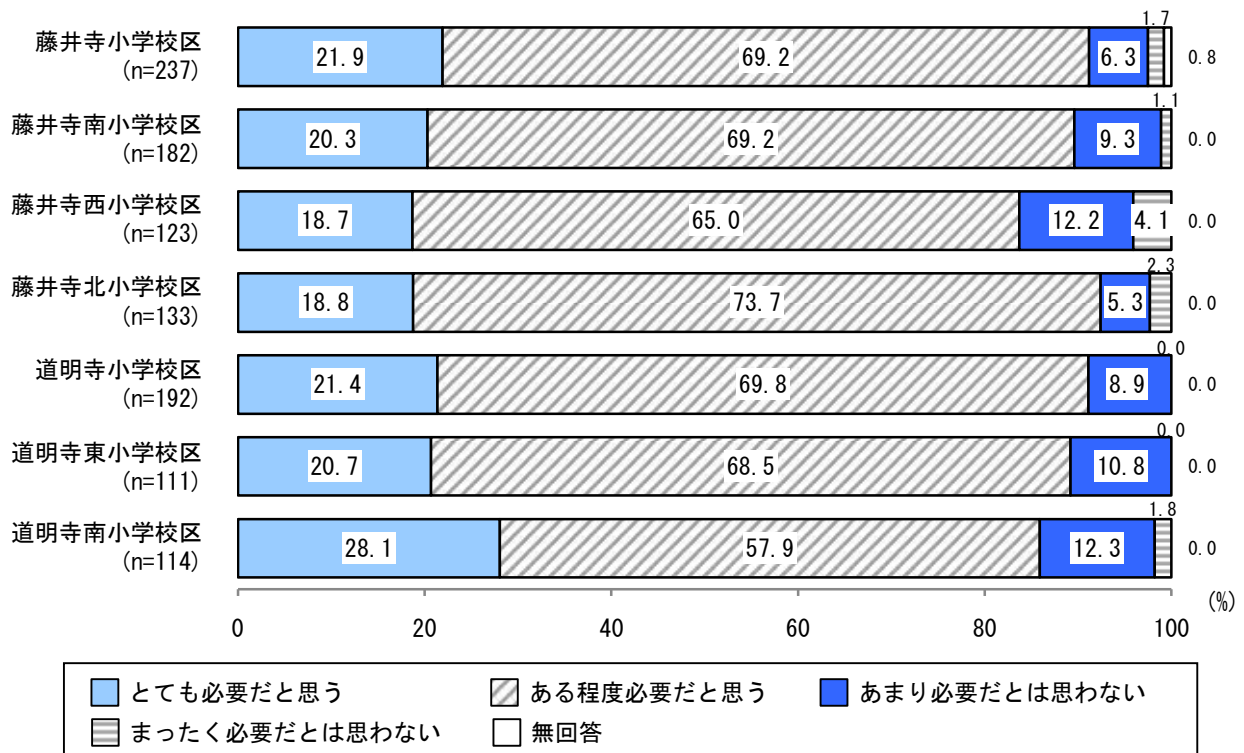
【年齢別】

年齢別でみると、『必要』の割合は70歳以上が92.6%で最も高く、次いで60～69歳が91.8%となっている。



【居住地区別】

居住地区別でみると、『必要』の割合は藤井寺北小学校区が92.5%で最も高く、次いで道明寺小学校区が91.2%、藤井寺小学校区が91.1%となっている。

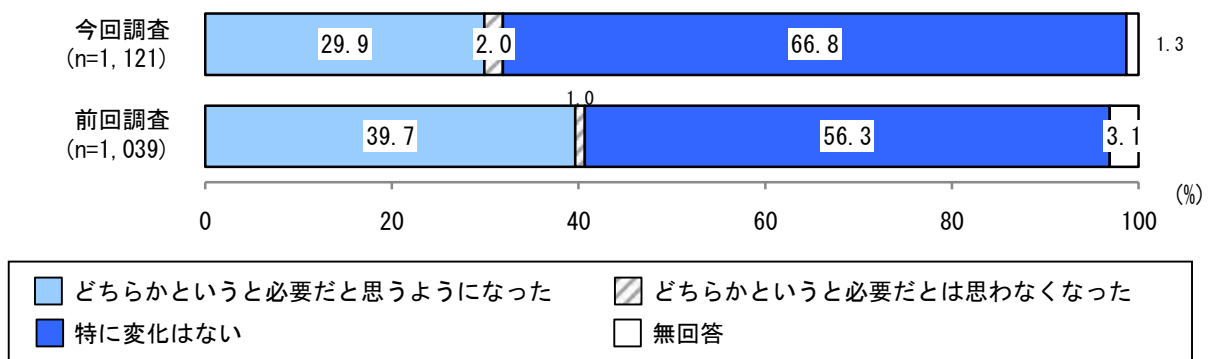


② 住民相互の自主的な支え合い、助け合いの必要性の変化

問13ーア 問13の答えは、以前と比べて（約5年前と比べて）どのように変化したと感じますか。（○は1つ）

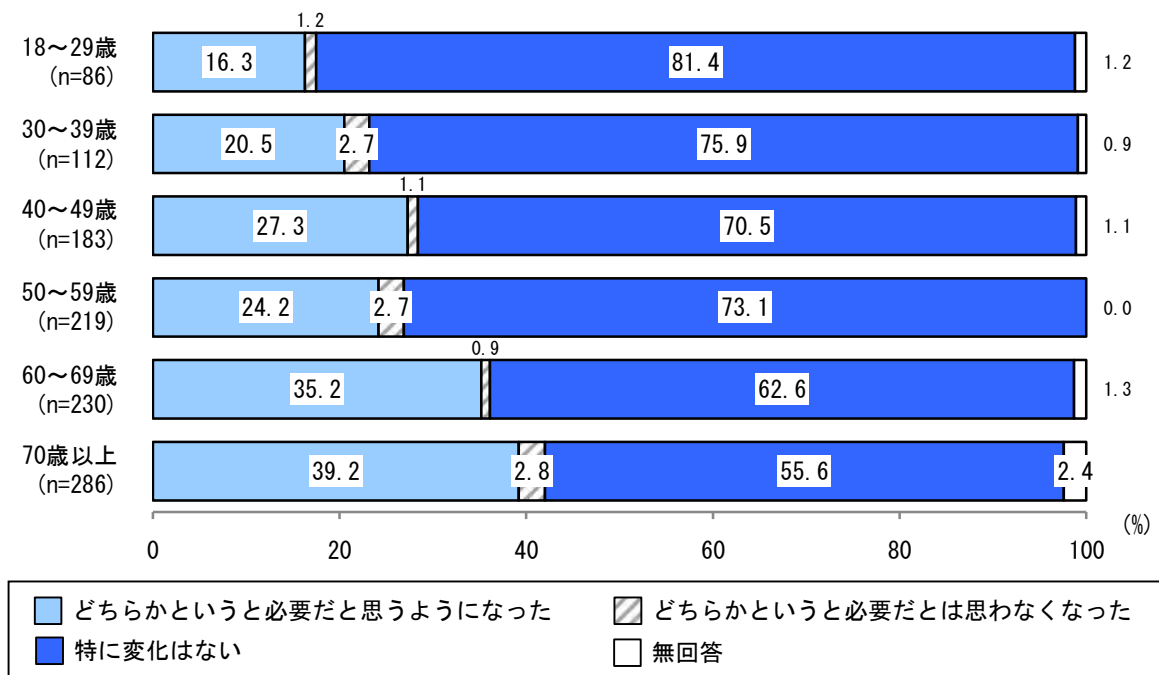
住民相互の自主的な支え合い、助け合いの必要性の変化については、「特に変化はない」が66.8%で最も多く、次いで「どちらかというとも必要だと思えるようになった」が29.9%、「どちらかというとも必要だとは思わなくなった」が2.0%となっている。

前回調査と比較すると、「特に変化はない」の割合は前回より10.5ポイント高いが、「どちらかというとも必要だと思えるようになった」の割合は前回より9.8ポイント低くなっている。



【年齢別】

年齢別で見ると、「どちらかというとも必要だと思えるようになった」の割合は70歳以上が39.2%で最も高く、次いで60～69歳が35.2%となっている。



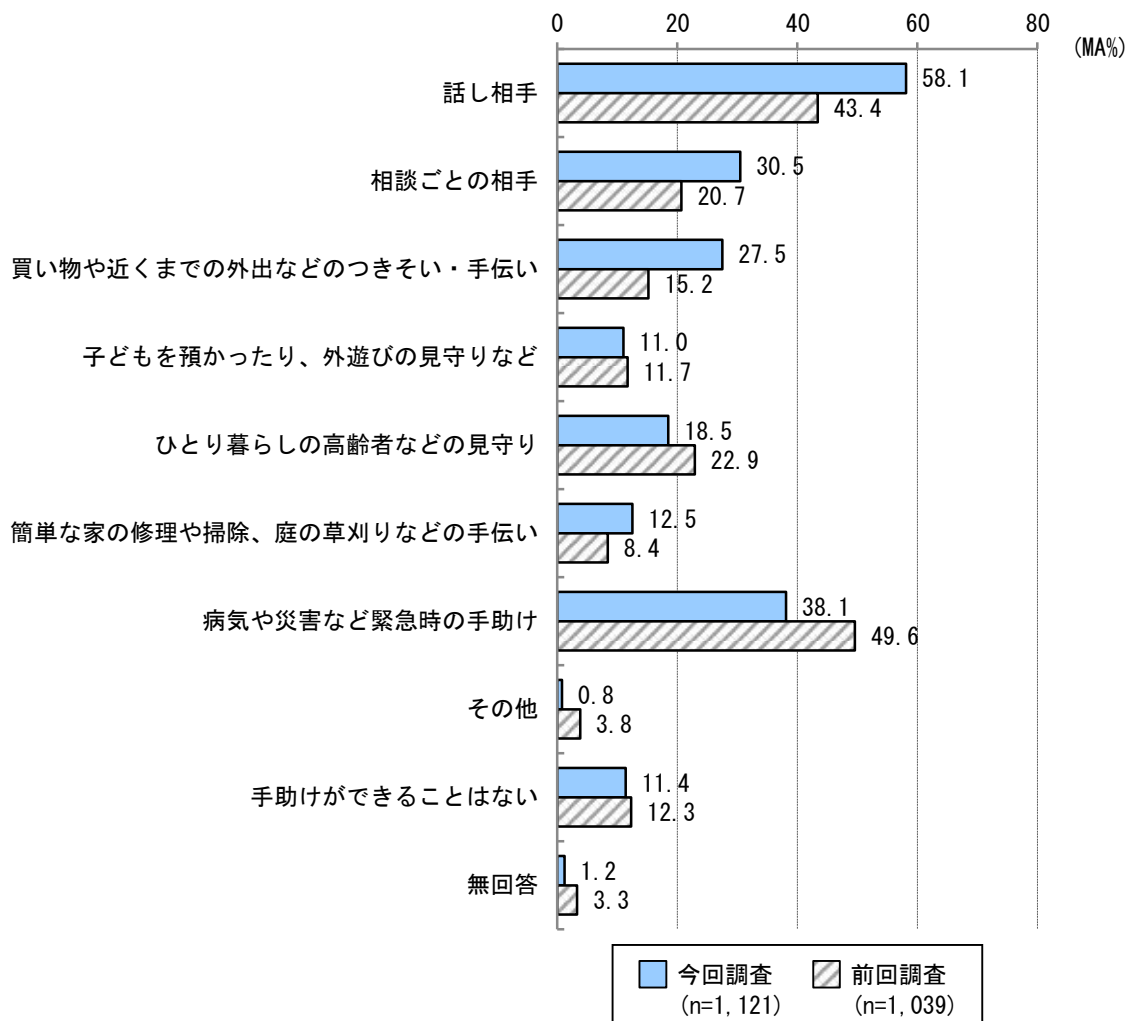
(4) 近所とのつきあいの中での相互の手助け

① 近所の人に手助けできること

問14 ご近所の人から頼まれた場合、あなたはどのような手助けができますか。(〇はいくつでも)

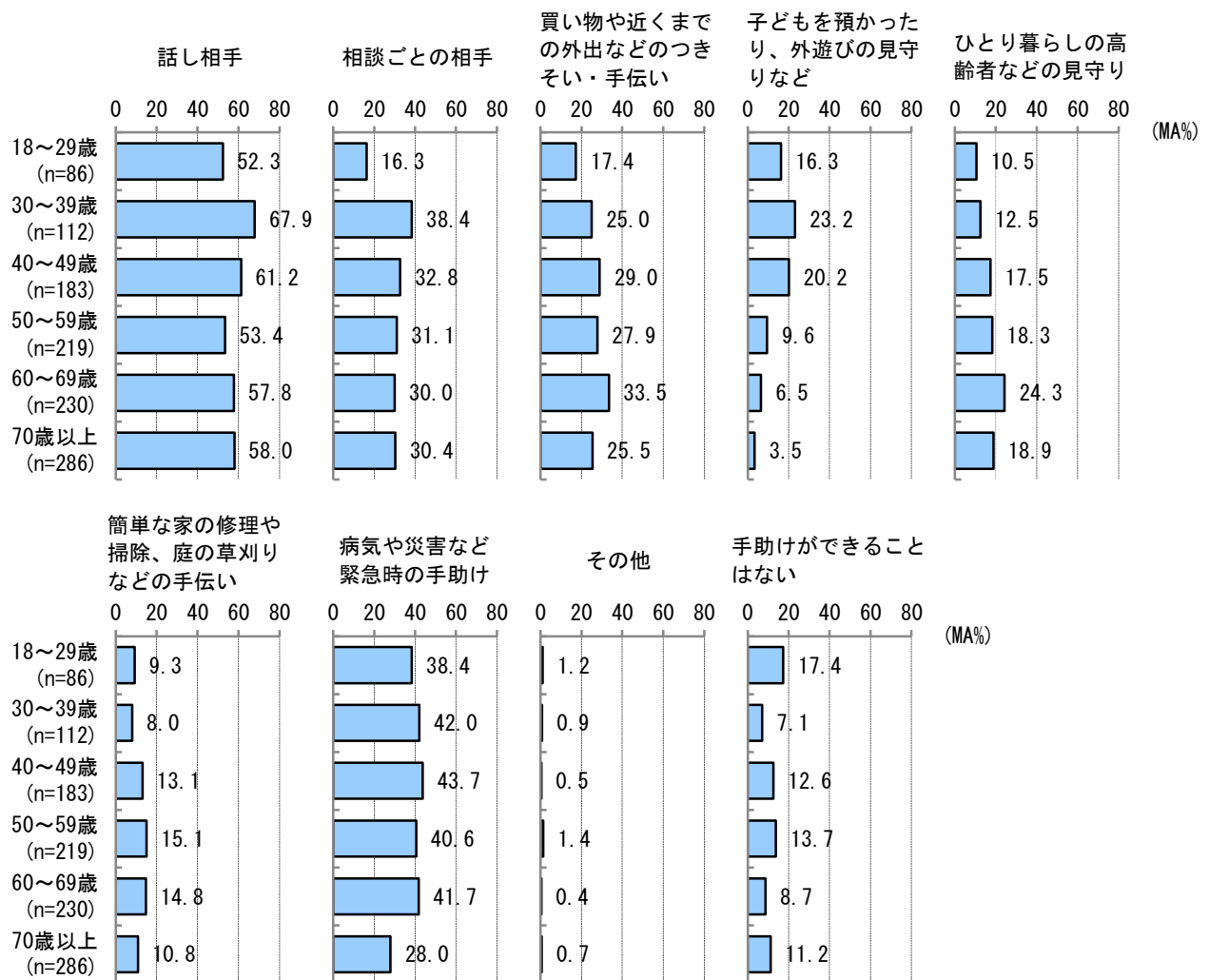
近所の人に手助けできることについては、「話し相手」が58.1%で最も多く、次いで「病気や災害など緊急時の手助け」が38.1%、「相談ごとの相手」が30.5%となっている。

前回調査と比較すると、「話し相手」の割合が14.7ポイント、「買い物や近くまでの外出などのつきそい・手伝い」の割合が12.3ポイント、「相談ごとの相手」の割合が9.8ポイント、それぞれ前回より高くなっている。



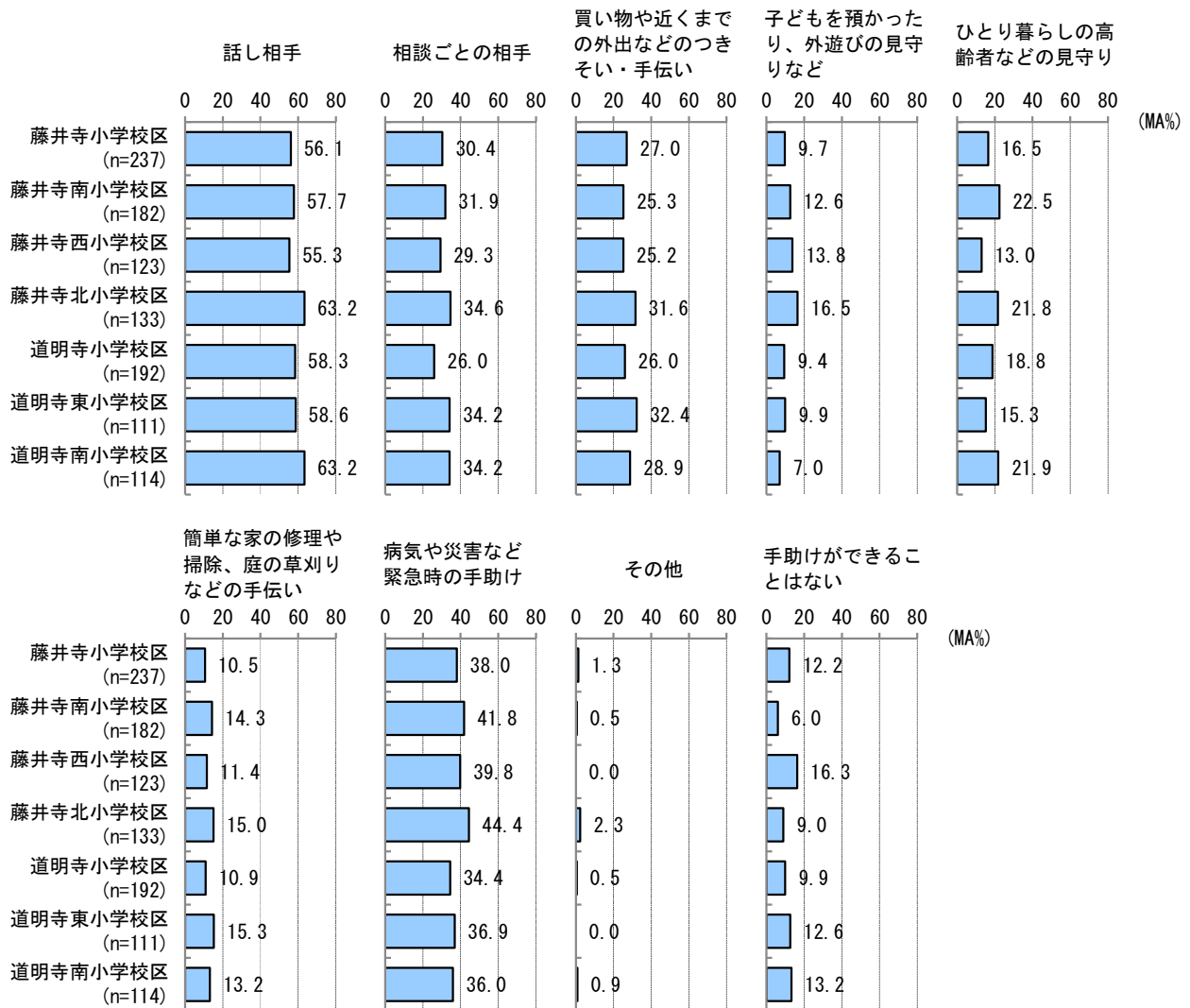
【年齢別】

年齢別でみると、「話し相手」、「相談ごとの相手」、「子どもを預かったり、外遊びの見守りなど」の割合は30～39歳が最も高くなっている。



【居住地区別】

居住地区別でみると、「話し相手」、「相談ごとの相手」、「子どもを預かったり、外遊びの見守りなど」、「病気や災害など緊急時の手助け」の割合はいずれも藤井寺北小学校区が最も高くなっている。

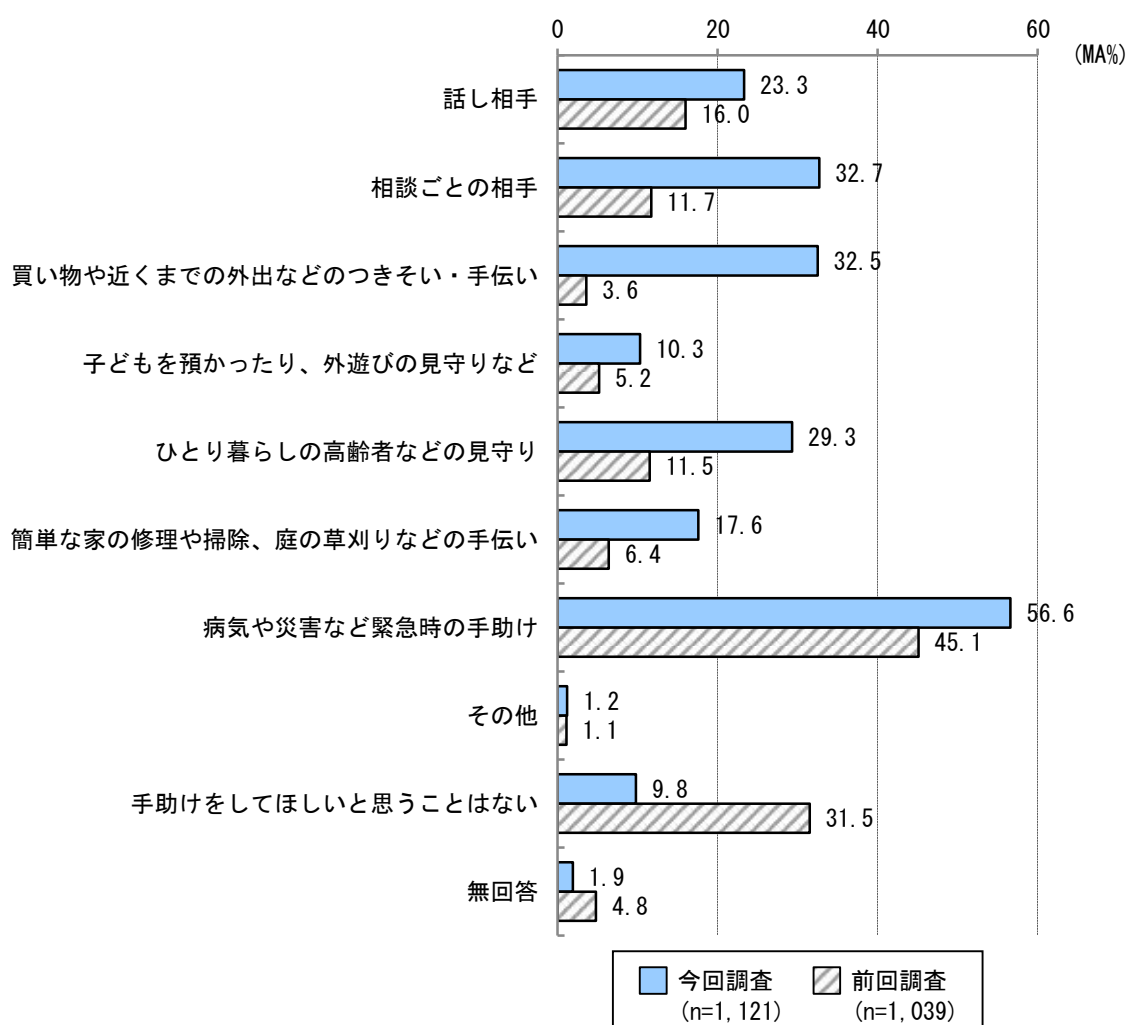


② 地域で手助けしてほしいこと

問14-ア あなたやご家族が、子育てや高齢、病気などで日常生活が不自由になったとき、地域でどのような手助けをしてほしいと思いますか。(〇はいくつでも)

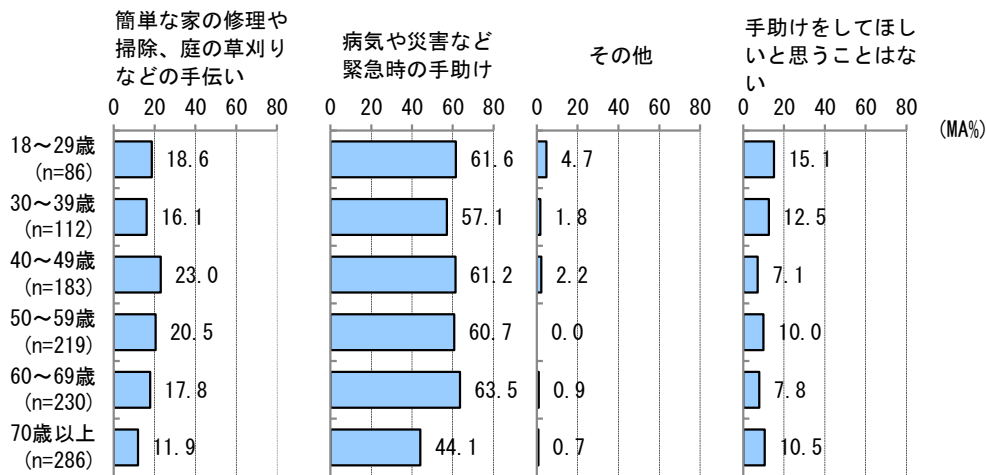
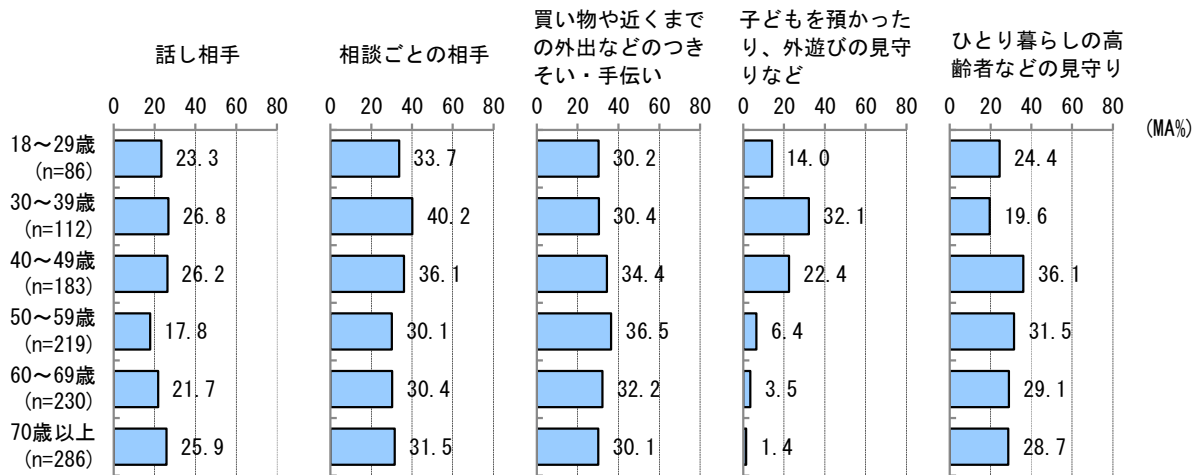
自身や家族が不自由になったときに地域で手助けしてほしいことについては、「病気や災害など緊急時の手助け」が56.6%で最も多く、次いで「相談ごとの相手」が32.7%、「買い物や近くまでの外出などのつきそい・手伝い」が32.5%、「ひとり暮らしの高齢者などの見守り」が29.3%となっている。

前回調査と比較すると、「買い物や近くまでの外出などのつきそい・手伝い」の割合が28.9ポイント、「相談ごとの相手」の割合が21.0ポイント、「ひとり暮らしの高齢者などの見守り」の割合が17.8ポイント、それぞれ前回より高くなっている。



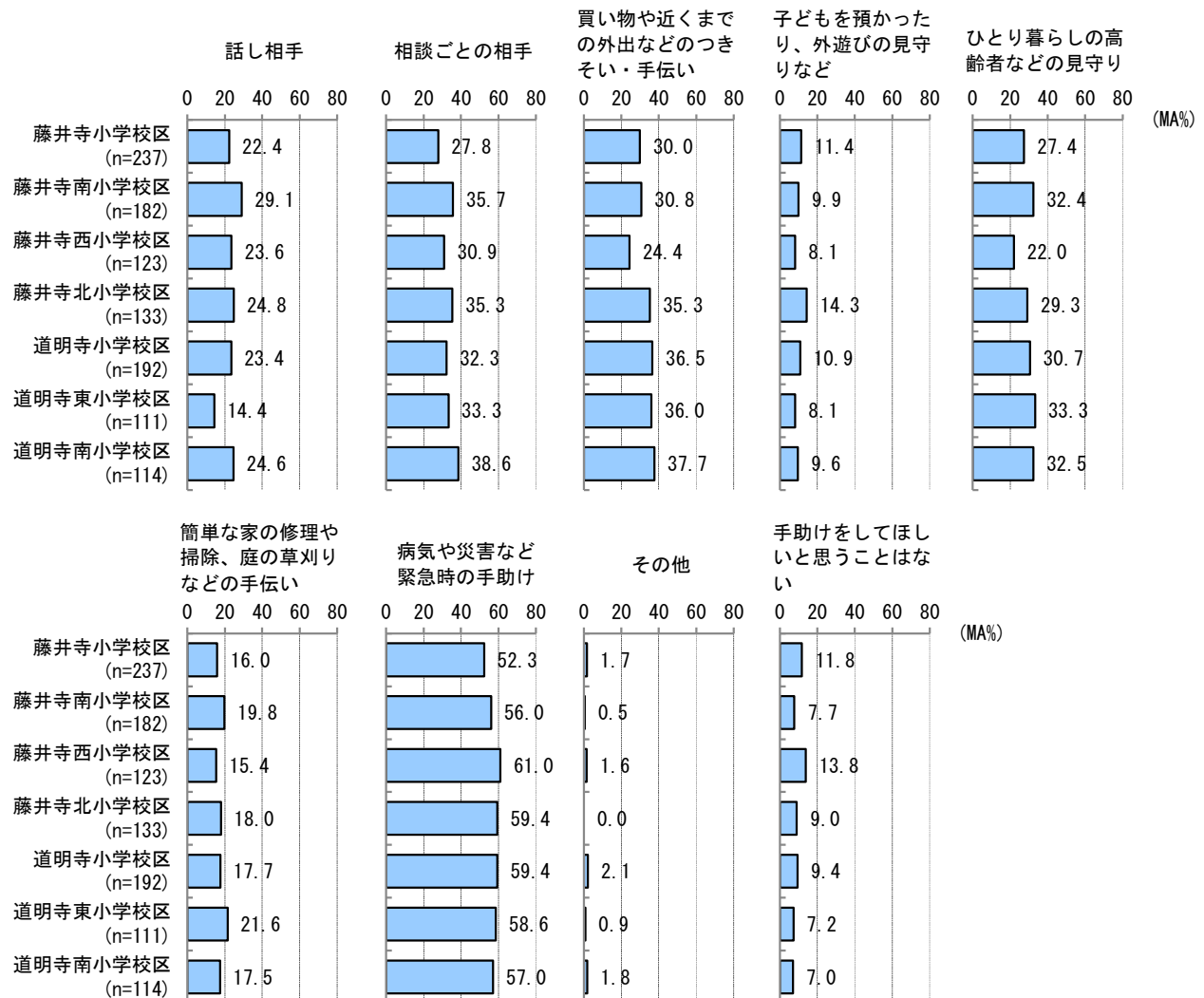
【年齢別】

年齢別でみると、「話し相手」、「相談ごとの相手」、「子どもを預かったり、外遊びの見守りなど」の割合は30～39歳が最も高くなっている。



【居住地区別】

居住地区別でみると、「相談ごとの相手」と「買い物や近くまでの外出などのつきそい・手伝い」は道明寺南小学校区が最も高く、「ひとり暮らしの高齢者などの見守り」と「簡単な家の修理や掃除、庭の草刈りなどの手伝い」は道明寺東小学校区が最も高くなっている。

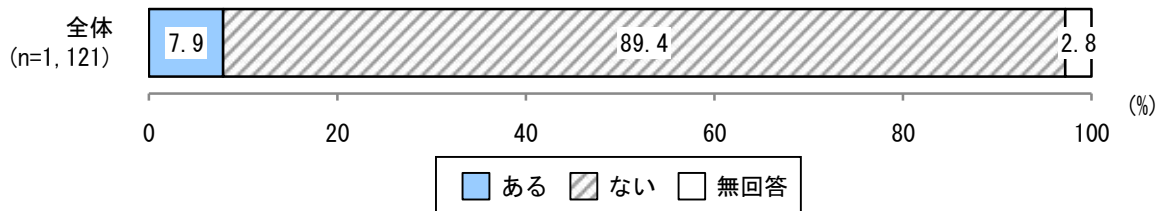


(5) 福祉に関する市役所の相談窓口がわからなくて困ったこと

① 福祉に関する市役所の相談窓口がわからなくて困ったことの有無

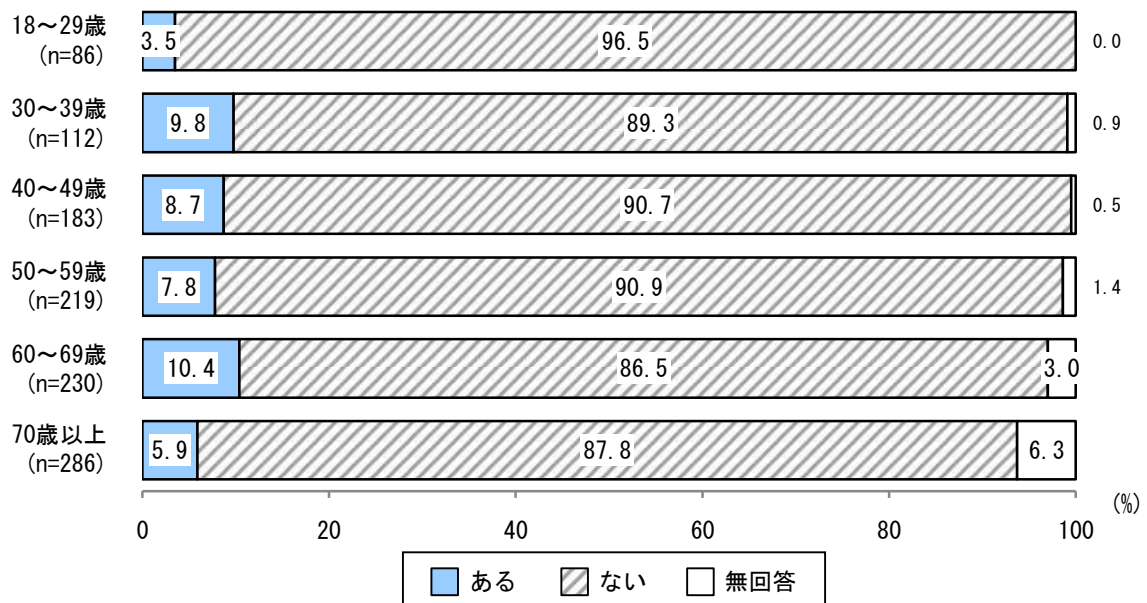
問15 あなたは、福祉（高齢・障害・子ども・生活の困窮・ひきこもり・虐待など）に関することについて、市役所の相談窓口がわからなくて困ったことがありますか。（○は1つ）

福祉に関する市役所の相談窓口がわからなくて困ったことの有無は、「ある」が7.9%、「ない」が89.4%となっている。



【年齢別】

年齢別でみると、「ある」の割合は60～69歳が10.4%で最も高く、次いで30～39歳が9.8%となっている。

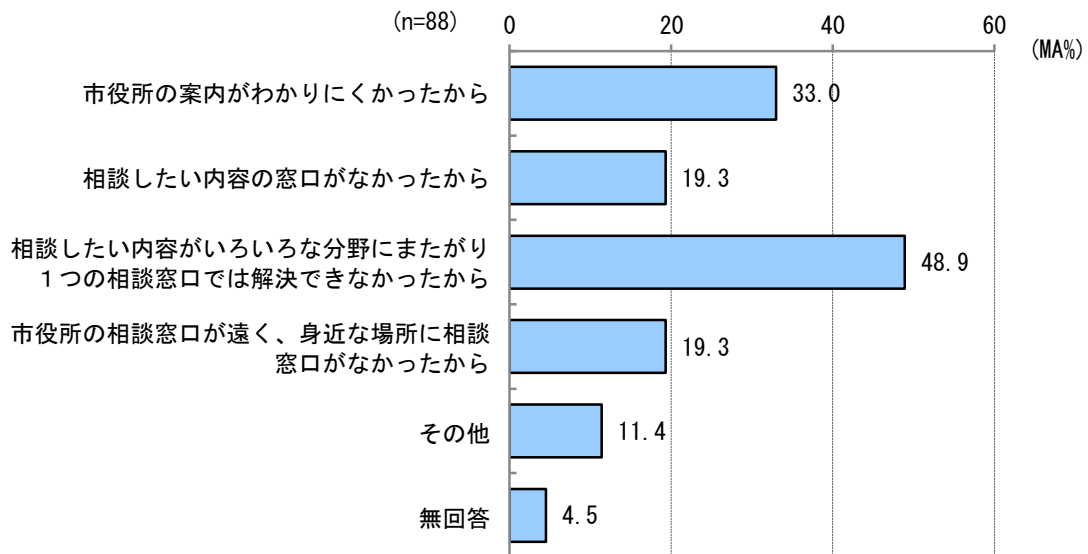


② 福祉に関する市役所の相談窓口がわからなくて困った理由

問15で「1. ある」と回答した方に

問15-ア それはどのような理由からですか。(〇はいくつでも)

福祉に関する市役所の相談窓口がわからなくて困ったことがあると回答した人に、その理由をたずねると、「相談したい内容がいろいろな分野にまたがり1つの相談窓口では解決できなかったから」が48.9%で最も多く、次いで「市役所の案内がわかりにくかったから」が33.0%、「相談したい内容の窓口がなかったから」と「市役所の相談窓口が遠く、身近な場所に相談窓口がなかったから」がともに19.3%となっている。

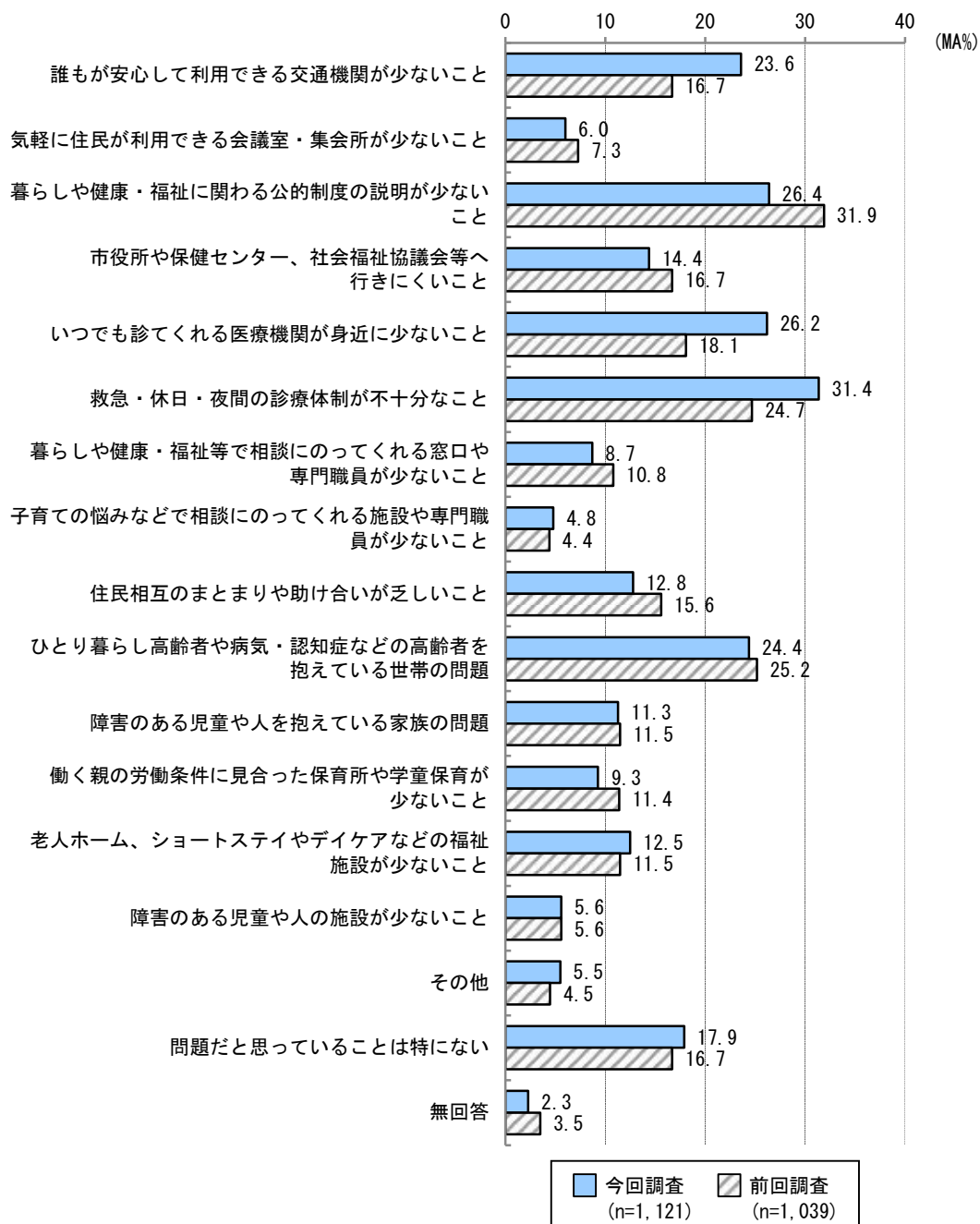


(6) 日頃問題だと思っていること

問16 あなたが日頃問題だと思っていることがありますか。(〇はいくつでも)

日頃問題だと思っていることについては、「救急・休日・夜間の診療体制が不十分なこと」が31.4%で最も多く、次いで「暮らしや健康・福祉に関わる公的制度の説明が少ないこと」が26.4%、「いつでも診てくれる医療機関が身近に少ないこと」が26.2%、「ひとり暮らし高齢者や病気・認知症などの高齢者を抱えている世帯の問題」が24.4%となっている。

前回調査と比較すると、「いつでも診てくれる医療機関が身近に少ないこと」の割合が8.1ポイント、「誰もが安心して利用できる交通機関が少ないこと」の割合が6.9ポイント、それぞれ前回より高くなっている。



※前回調査の「市役所や保健センター、社会福祉協議会、市民病院等へ行きにくいこと」は、今回調査では「市役所や保健センター、社会福祉協議会等へ行きにくいこと」に変更している。

【年齢別】

年齢別でみると、18～29歳では「問題だと思っていることは特にない」が最も多く、30～59歳までの年代は「救急・休日・夜間の診療体制が不十分なこと」、60～69歳では「暮らしや健康・福祉に関わる公的制度の説明が少ないこと」、70歳以上では「誰もが安心して利用できる交通機関が少ないこと」が最も多くなっている。

		(MA%)								
	n	誰もが安心して利用できる交通機関が少ないこと	気軽に住民が利用できる会議室・集会所が少ないこと	暮らしや健康・福祉に関わる公的制度的説明が少ないこと	市役所や保健センター、社会福祉協議会等へ行きにくいこと	いつでも診てくれる医療機関が身近に少ないこと	救急・休日・夜間の診療体制が不十分なこと	暮らしや健康・福祉等に相談にのつてくれる窓口や専門職員が少ないこと	子育ての悩みなどで相談にのつてくれる施設や専門職員が少ないこと	住民相互のまとめりや助け合いが乏しいこと
18～29歳	86	14.0	2.3	18.6	12.8	26.7	26.7	2.3	5.8	7.0
30～39歳	112	13.4	6.3	24.1	12.5	26.8	34.8	6.3	5.4	8.0
40～49歳	183	21.9	9.8	25.1	14.2	30.6	39.3	9.8	13.7	9.8
50～59歳	219	24.2	3.7	26.9	14.2	32.4	37.4	11.0	3.7	10.5
60～69歳	230	22.6	4.8	37.8	18.3	25.7	30.9	7.0	1.7	15.7
70歳以上	286	31.8	7.0	21.0	12.6	18.9	22.4	10.5	2.1	17.5

	n	ひとり暮らし高齢者や病気で世帯の問題	家族の問題	障害のある児童や人を抱えている	働く親の労働条件に見合った保育所や学童保育が少ないこと	老人ホーム、ショートステイやデイケアなどの福祉施設が少ないこと	障害のある児童や人の施設が少ないこと	その他	問題だと思っていることは特にな	無回答
18～29歳	86	11.6	10.5	9.3	2.3	5.8	7.0	30.2	-	
30～39歳	112	15.2	17.0	25.0	4.5	8.9	8.9	21.4	-	
40～49歳	183	29.0	15.3	16.4	12.6	9.8	6.6	14.2	1.1	
50～59歳	219	28.3	9.6	5.9	11.9	4.1	5.9	16.4	0.9	
60～69歳	230	29.1	11.7	6.5	14.8	5.7	4.3	14.8	1.3	
70歳以上	286	22.0	8.0	3.5	17.1	2.8	3.8	18.9	6.3	

【居住地区別】

居住地区別でみると、藤井寺小学校区では「暮らしや健康・福祉に関わる公的制度の説明が少ないこと」が最も多く、藤井寺南小学校区では「誰もが安心して利用できる交通機関が少ないこと」が最も多くなっている。また、「いつでも診てくれる医療機関が身近に少ないこと」の割合は道明寺小学校区と道明寺東小学校区、道明寺南小学校区で高くなっている。

	n	誰もが安心して利用できる交通機関が少ないこと	気軽に住民が利用できる会議室・集会所が少ないこと	暮らしや健康・福祉に関わる公的制度の説明が少ないこと	市役所や保健センター、社会福祉協議会等へ行きにくいこと	いつでも診てくれる医療機関が身近に少ないこと	救急・休日・夜間の診療体制が不十分なこと	暮らしや健康・福祉等で相談にのってくれず窓口に専門職員が少ないこと	子育ての悩みなどで相談にのってくれず専門職員が少ないこと	住民相互のまとまりや助け合いが乏しいこと
藤井寺小学校区	237	19.8	4.2	26.6	7.2	18.6	24.9	6.8	3.0	15.6
藤井寺南小学校区	182	26.4	6.6	23.1	13.2	22.0	25.3	11.0	6.0	8.2
藤井寺西小学校区	123	18.7	5.7	26.8	12.2	25.2	31.7	10.6	4.9	13.8
藤井寺北小学校区	133	24.8	6.8	33.8	12.0	25.6	35.3	9.8	6.8	13.5
道明寺小学校区	192	26.6	6.3	25.5	19.8	31.3	36.5	6.8	5.2	12.5
道明寺東小学校区	111	25.2	7.2	27.9	20.7	34.2	37.8	7.2	2.7	9.9
道明寺南小学校区	114	26.3	7.0	24.6	23.7	35.1	35.1	10.5	6.1	18.4

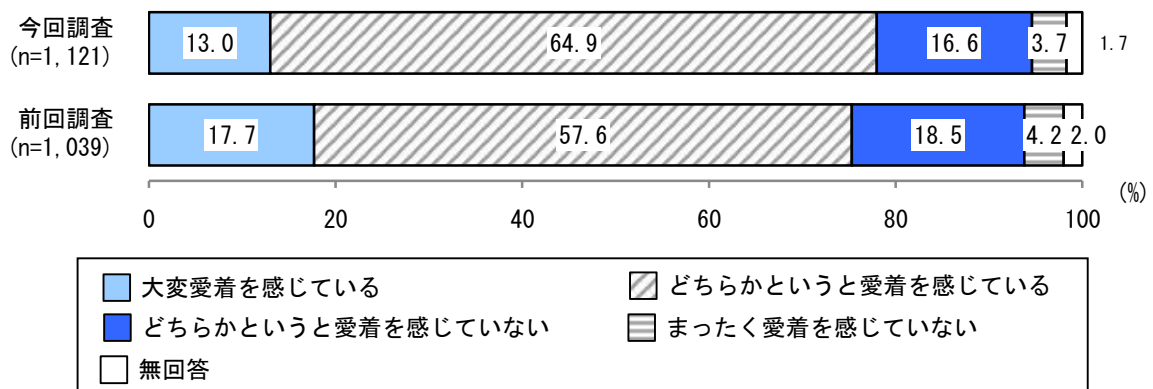
	n	ひとり暮らし高齢者や病気の世帯などの高齢者を抱えている問題	障害のある児童や人を抱えている家族の問題	働く親の労働条件に見合った保育所や学童保育が少ないこと	老人ホーム、ショートステイやデイケアなどの福祉施設が少ないこと	障害のある児童や人の施設が少ないこと	その他	問題だと思っていることは特にな	無回答
藤井寺小学校区	237	26.2	8.0	6.3	10.1	3.8	5.9	20.3	2.5
藤井寺南小学校区	182	20.9	12.6	13.2	12.6	7.1	4.4	20.3	1.1
藤井寺西小学校区	123	21.1	9.8	6.5	12.2	7.3	4.9	25.2	2.4
藤井寺北小学校区	133	24.8	13.5	11.3	14.3	4.5	9.0	17.3	2.3
道明寺小学校区	192	22.4	13.5	8.9	10.4	4.7	6.3	13.0	1.6
道明寺東小学校区	111	27.9	11.7	9.9	17.1	5.4	2.7	11.7	2.7
道明寺南小学校区	114	32.5	14.0	12.3	15.8	8.8	5.3	16.7	2.6

(7)「自分のまち」と感じる地域に対する愛着感

問17 あなたは、「自分のまち」と感じる地域にどの程度の愛着をもっていますか。
(○は1つ)

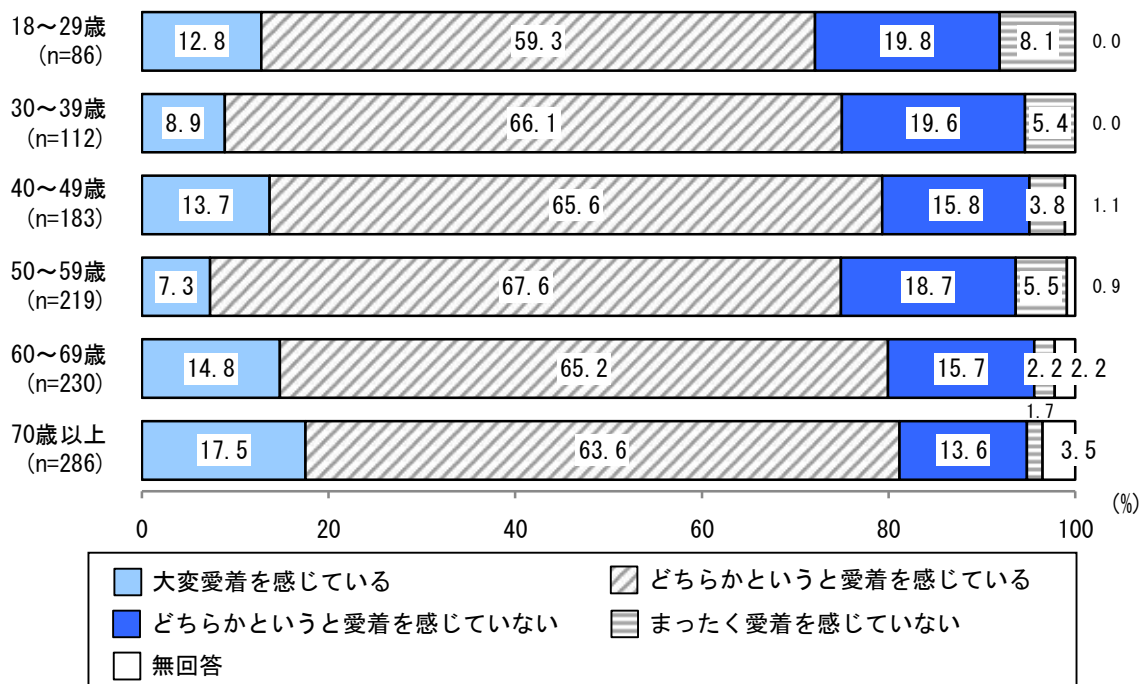
「自分のまち」と感じる地域に対する愛着感については、「どちらかというとな愛着を感じている」が64.9%で最も多く、次いで「どちらかというとな愛着を感じていない」が16.6%、「大変愛着を感じている」が13.0%となっており、「大変愛着を感じている」と「どちらかというとな愛着を感じている」をあわせた『愛着を感じている』の割合は77.9%となっている。

前回調査と比較すると、『愛着を感じている』の割合は前回より2.6ポイント高くなっている。



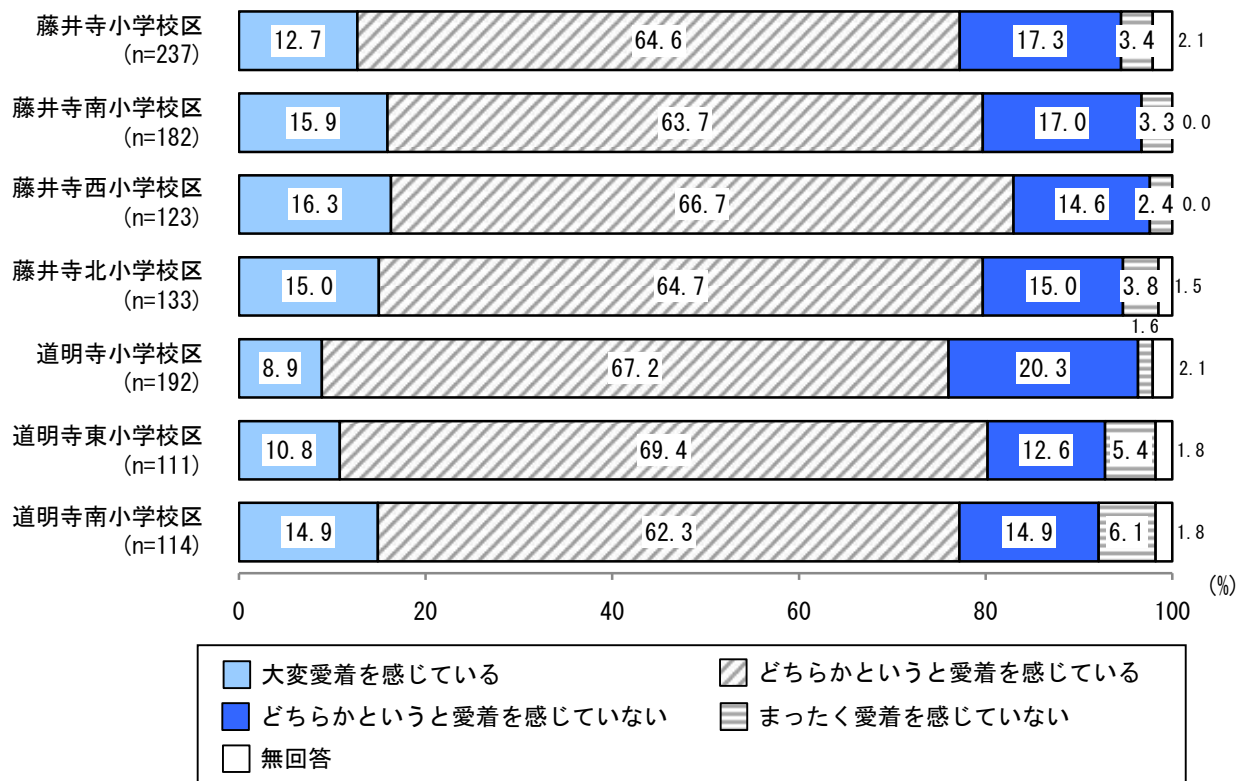
【年齢別】

年齢別で見ると、『愛着を感じている』の割合は70歳以上が81.1%で最も高く、次いで60～69歳が80.0%となっている。



【居住地区別】

居住地区別でみると、『愛着を感じている』の割合は藤井寺西小学校区が83.0%で最も高く、次いで道明寺東小学校区が80.2%となっている。



4. 地域福祉にかかわる機関や団体について

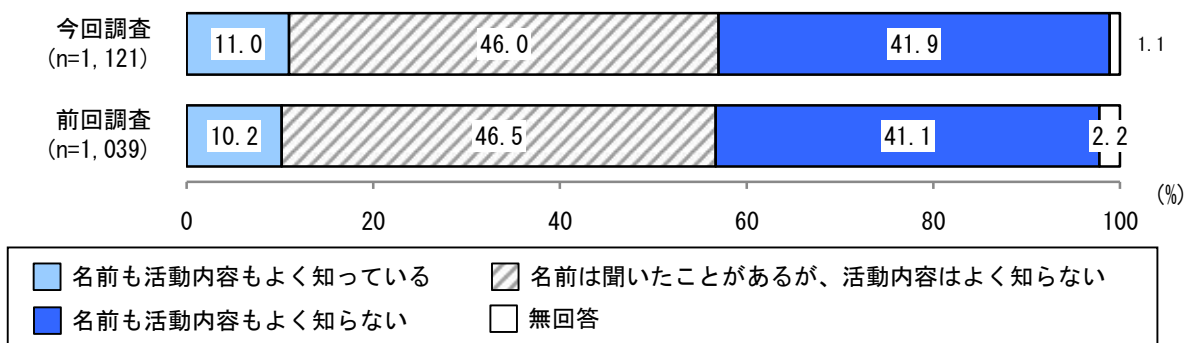
(1) 社会福祉協議会について

① 藤井寺市社会福祉協議会（市社協）の認知度

問18 「藤井寺市社会福祉協議会（市社協）」の活動についてご存知ですか。（○は1つ）

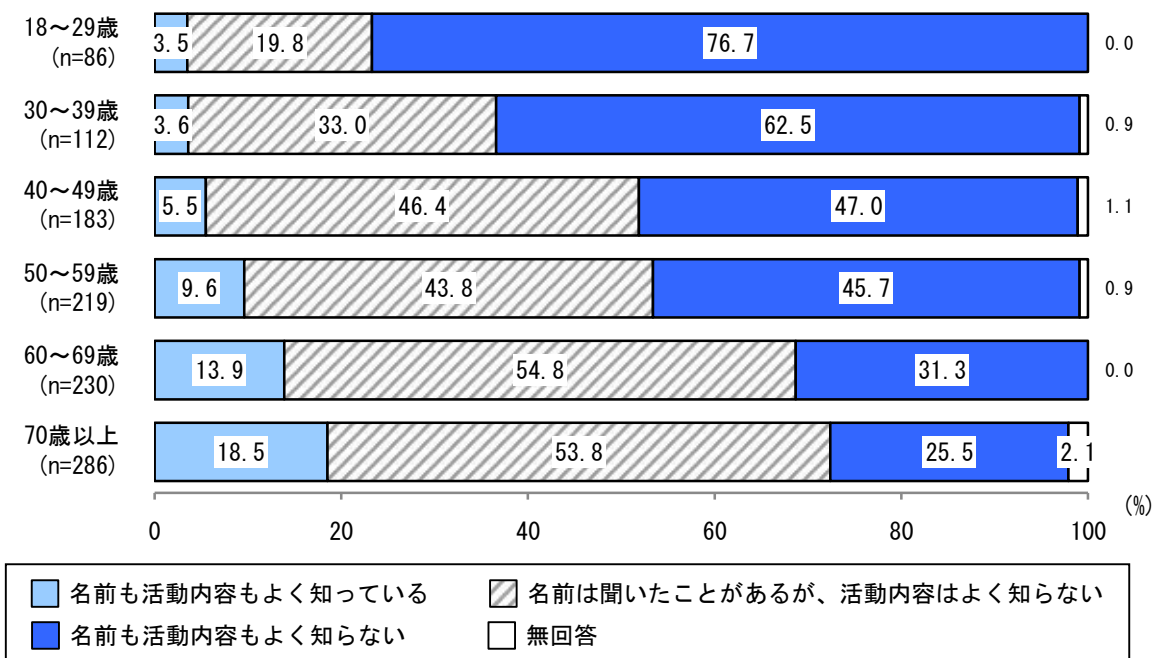
藤井寺市社会福祉協議会（市社協）の認知度については、「名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない」が46.0%で最も多く、次いで「名前も活動内容もよく知らない」が41.9%、「名前も活動内容もよく知っている」が11.0%となっている。

前回調査と比較しても大きな差はみられない。



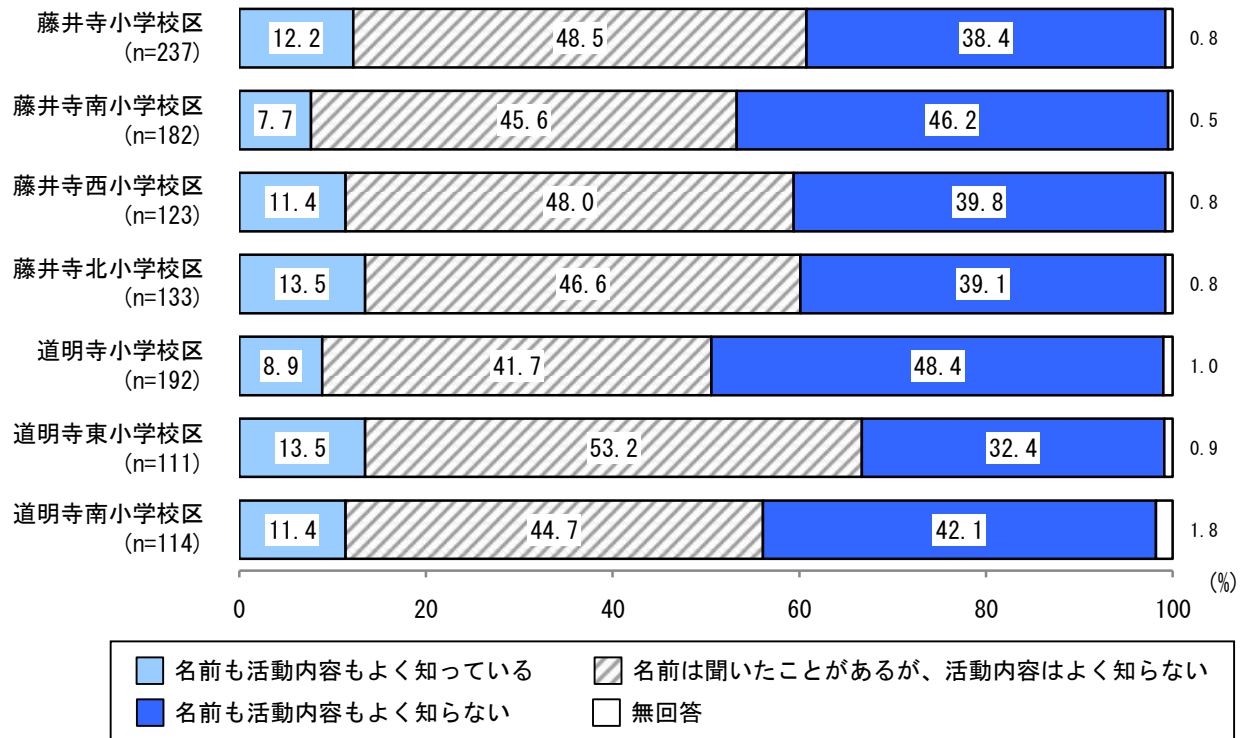
【年齢別】

年齢別でみると、「名前も活動内容もよく知っている」の割合は高齢になるほど割合が高く、70歳以上が18.5%で最も高くなっている。一方、「名前も活動内容もよく知らない」は若い年代ほど割合が高く、18～29歳が76.7%で最も高くなっている。



【居住地区別】

居住地区別で見ると、藤井寺南小学校区と道明寺小学校区は「名前も活動内容もよく知らない」が最も多いが、それ以外の小学校区では「名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない」が最も多くなっている。

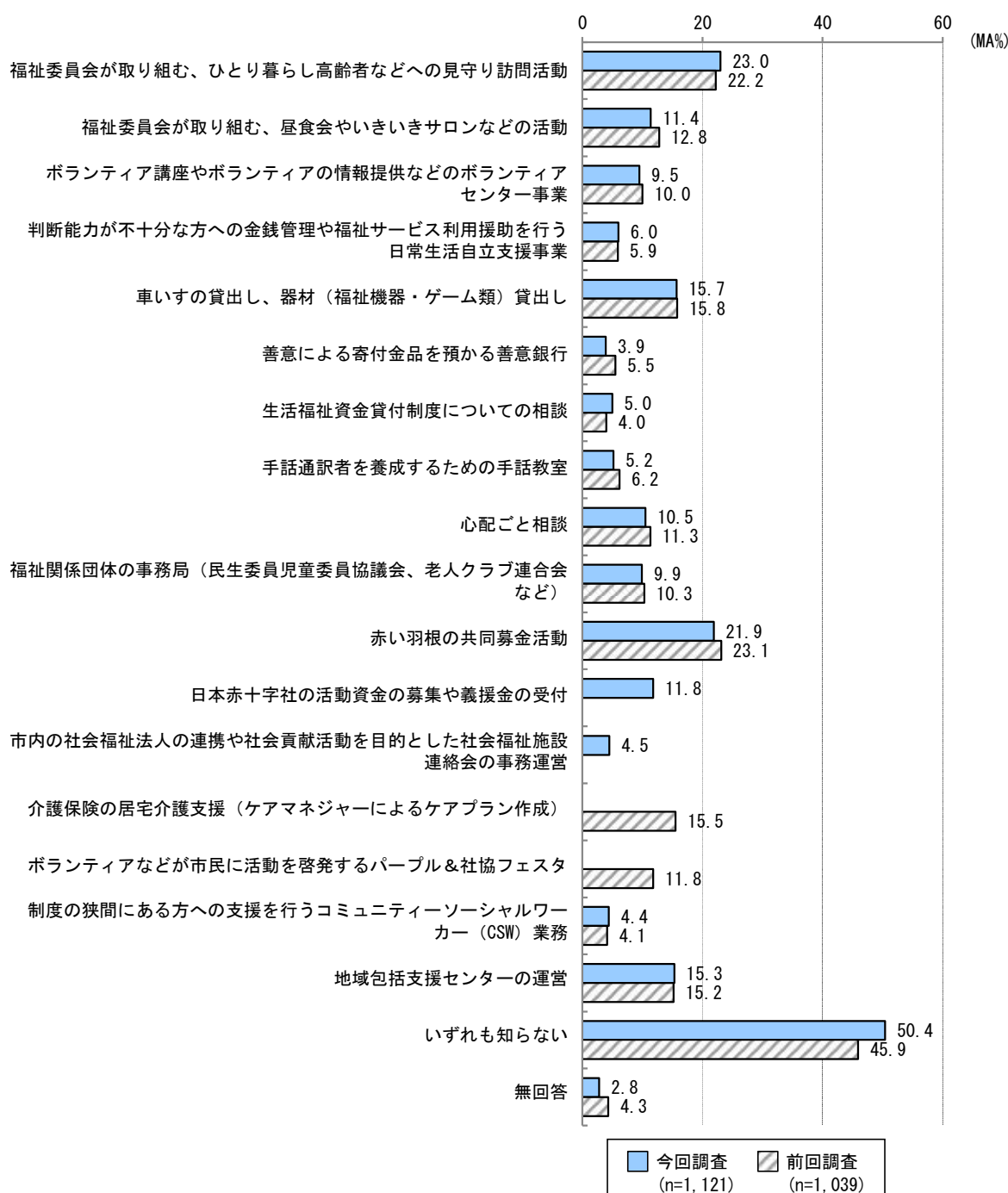


② 知っている市社協の事業

問19 あなたは、市社協の事業についてご存知ですか。(〇はいくつでも)

知っている市社協の事業については、「いずれも知らない」が50.4%で最も多く、次いで「福祉委員会が取り組む、ひとり暮らし高齢者などへの見守り訪問活動」が23.0%、「赤い羽根の共同募金活動」が21.9%、「車いすの貸出し、器材（福祉機器・ゲーム類）貸出し」が15.7%となっている。

前回調査と比較しても大きな差はみられない。

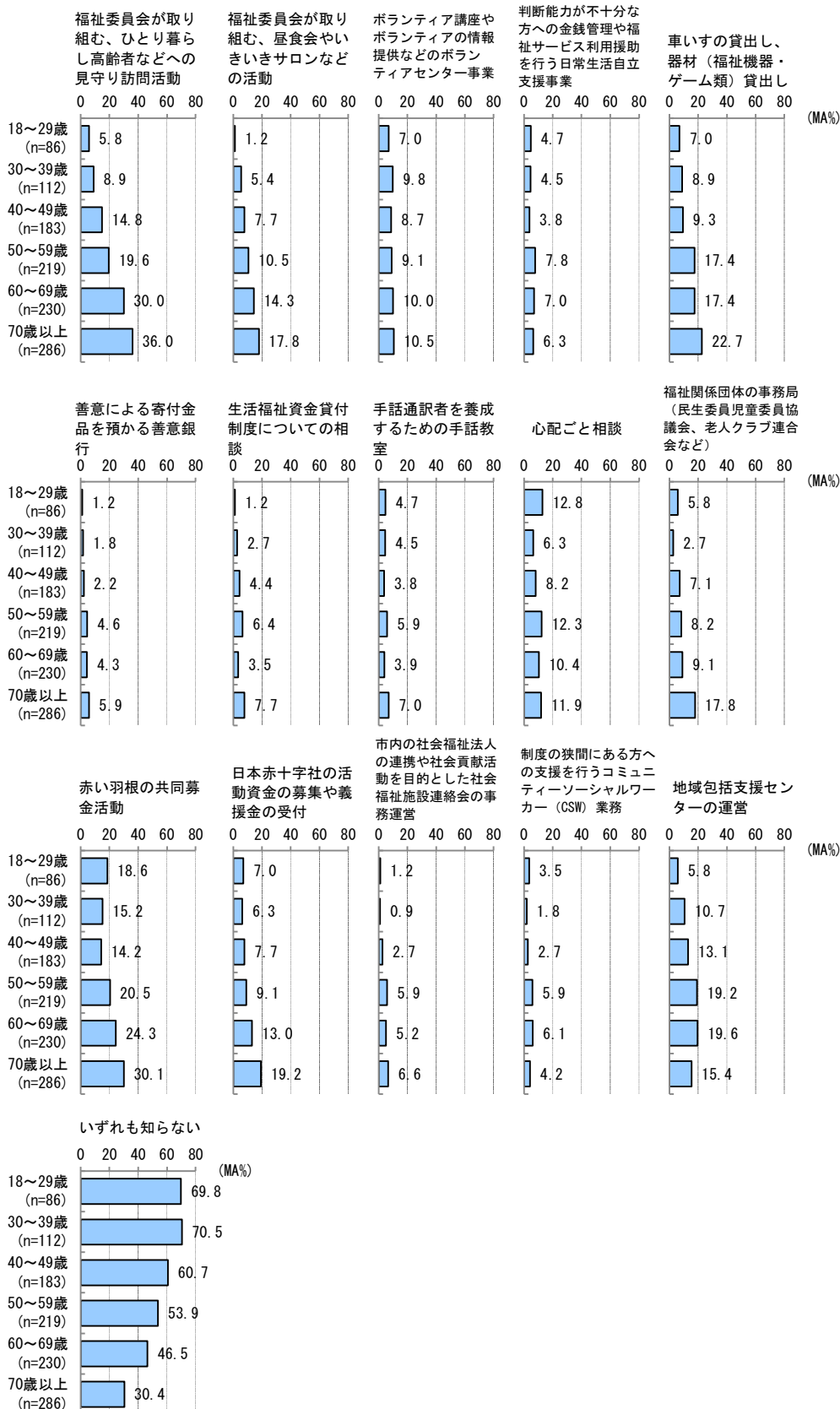


※「日本赤十字社の活動資金の募集や義援金の受付」と「市内の社会福祉法人の連携や社会貢献活動を目的とした社会福祉施設連絡会の事務運営」は、今回調査の新規項目である。

※前回調査の「介護保険の居宅介護支援（ケアマネジャーによるケアプラン作成）」と「ボランティアなどが市民に活動を啓発するパープル&社協フェスタ」は、今回調査では設けていない。

【年齢別】

年齢別でみると、69歳までの年代では「いずれも知らない」が最も多いが、知っている人では、18～29歳、30～39歳、50～59歳では「赤い羽根の共同募金活動」が最も多く、それ以外の年代では「福祉委員会が取り組む、ひとり暮らし高齢者などへの見守り訪問活動」が最も多くなっている。

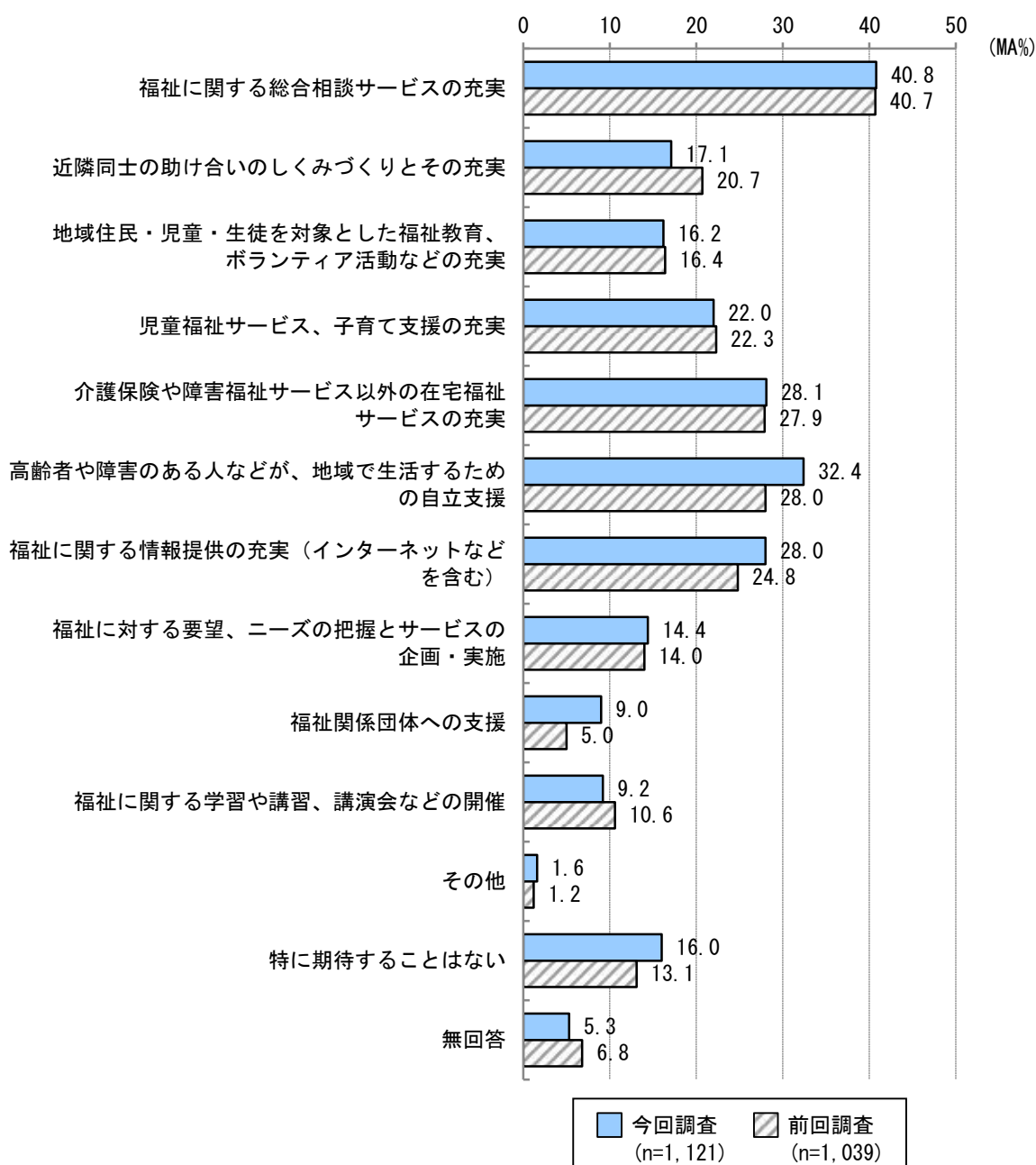


③ 市社協に期待すること

問20 市社協にどのようなことを期待しますか。(〇はいくつでも)

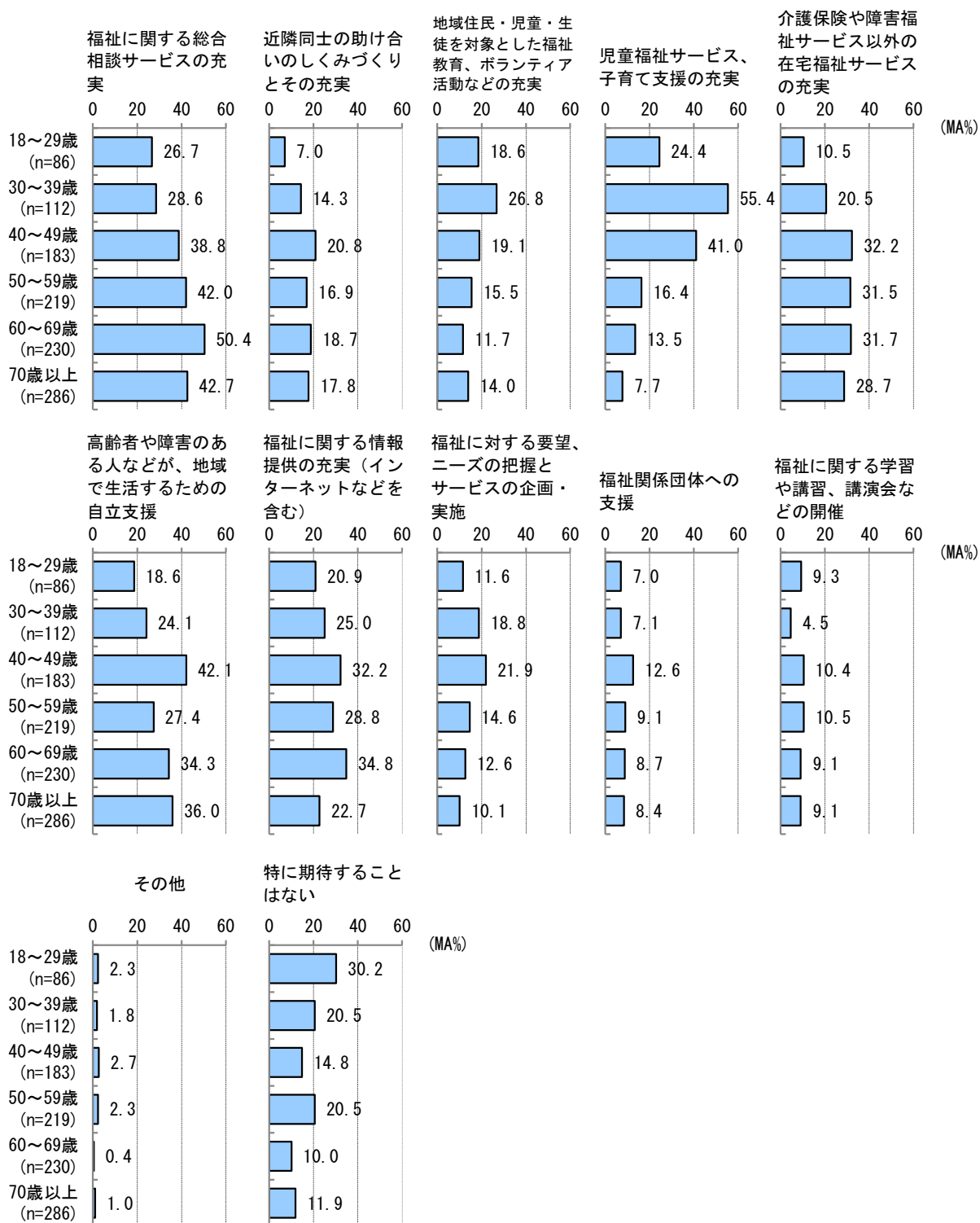
市社協に期待することは、「福祉に関する総合相談サービスの充実」が40.8%で最も多く、次いで「高齢者や障害のある人などが、地域で生活するための自立支援」が32.4%、「介護保険や障害福祉サービス以外の在宅福祉サービスの充実」が28.1%、「福祉に関する情報提供の充実（インターネットなどを含む）」が28.0%となっている。

前回調査と比較すると、「高齢者や障害のある人などが、地域で生活するための自立支援」の割合が4.4ポイント、「福祉関係団体への支援」の割合が4.0ポイント、それぞれ前回より高くなっている。



【年齢別】

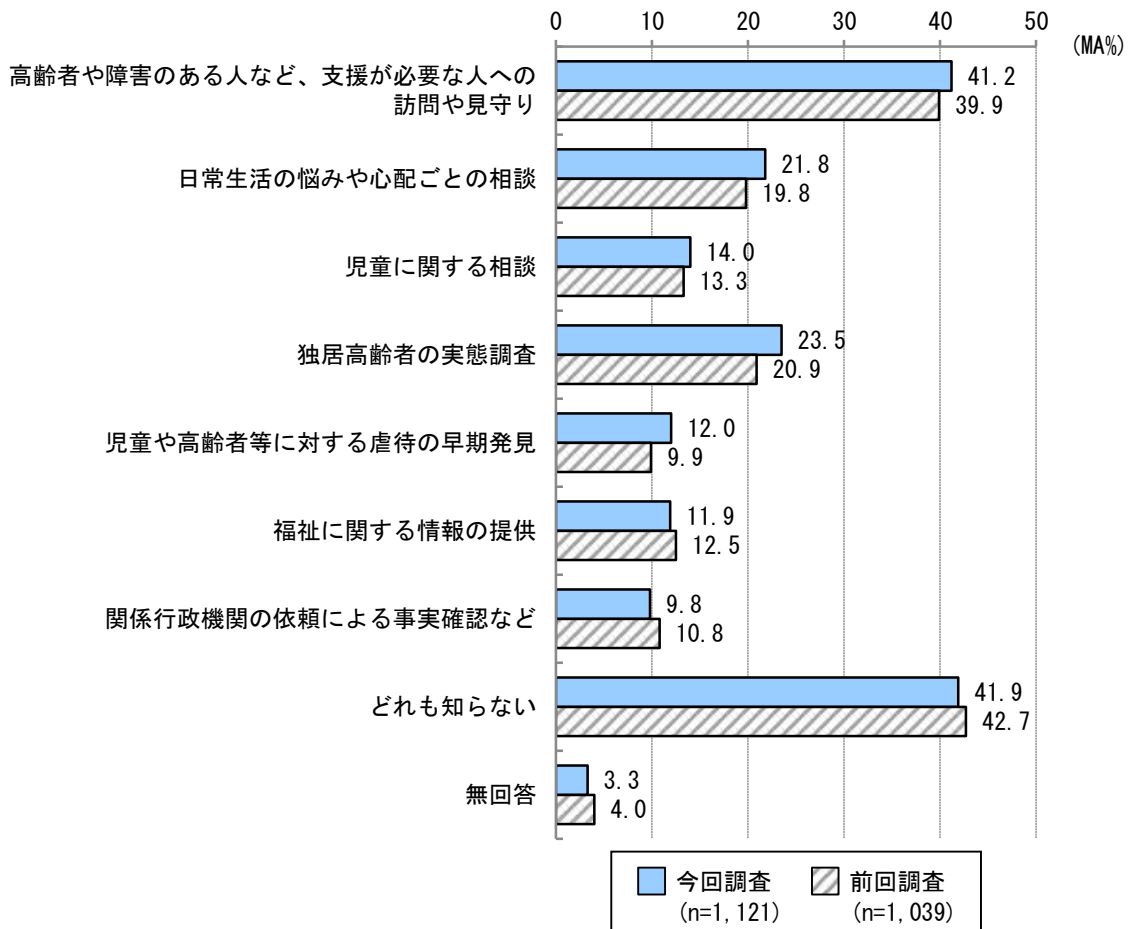
年齢別で見ると、18～29歳では「特に期待することはない」が最も多いが、30～39歳では「児童福祉サービス、子育て支援の充実」、40～49歳では「高齢者や障害のある人などが、地域で生活するための自立支援」、50歳以上の年代では「福祉に関する総合相談サービスの充実」が最も多くなっている。



(2) 知っている民生委員児童委員の活動内容

問21 民生委員児童委員が行う活動として、あなたをご存知の内容は、次のどれですか。
(〇はいくつでも)

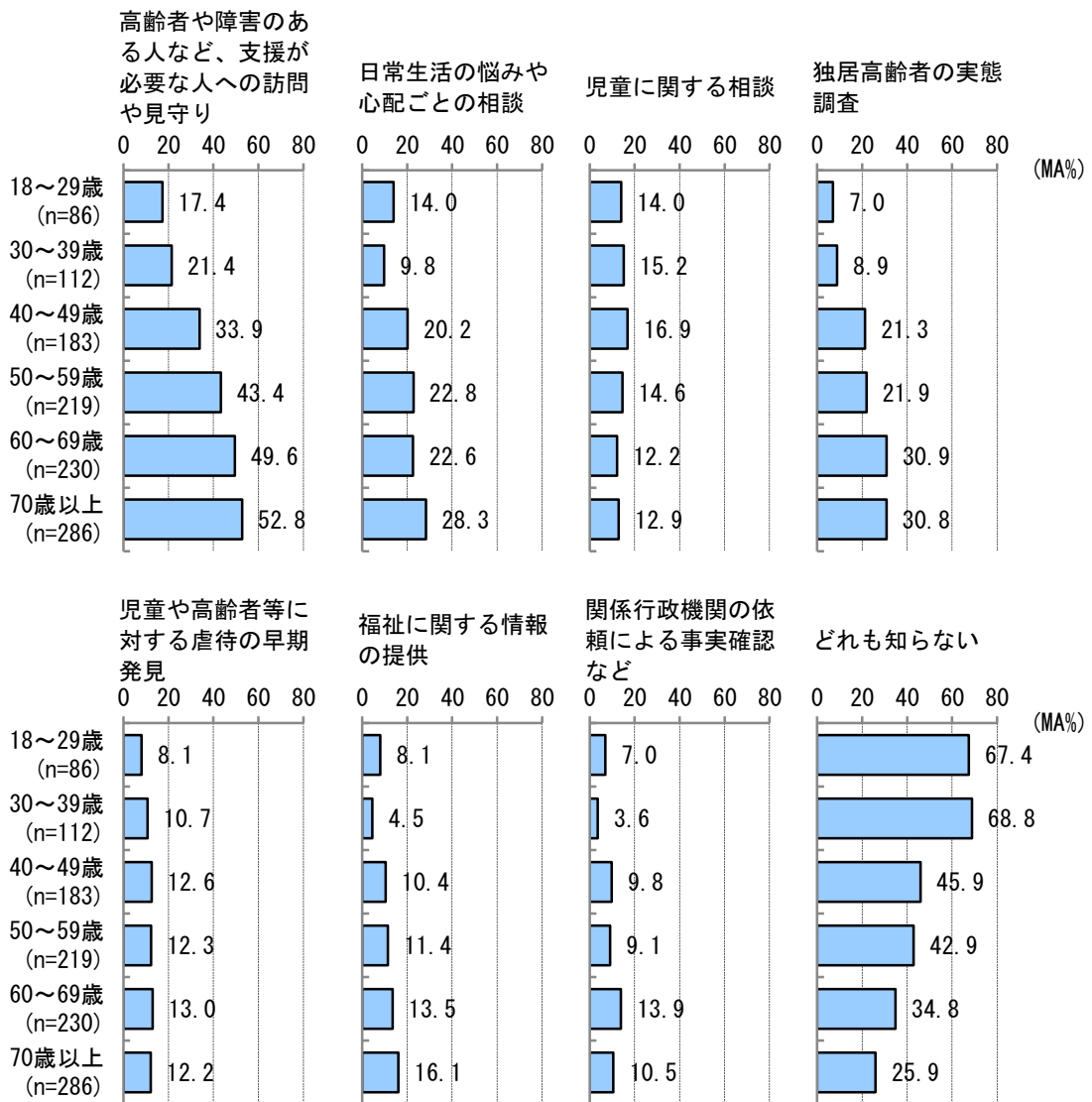
知っている民生委員児童委員の活動内容については、「どれも知らない」が41.9%で最も多く、次いで「高齢者や障害のある人など、支援が必要な人への訪問や見守り」が41.2%、「独居高齢者の実態調査」が23.5%、「日常生活の悩みや心配ごとの相談」が21.8%となっている。前回調査と比較しても、大きな差はみられない。



※前回調査の「高齢者の実態調査」は、今回調査では「独居高齢者の実態調査」に変更している。

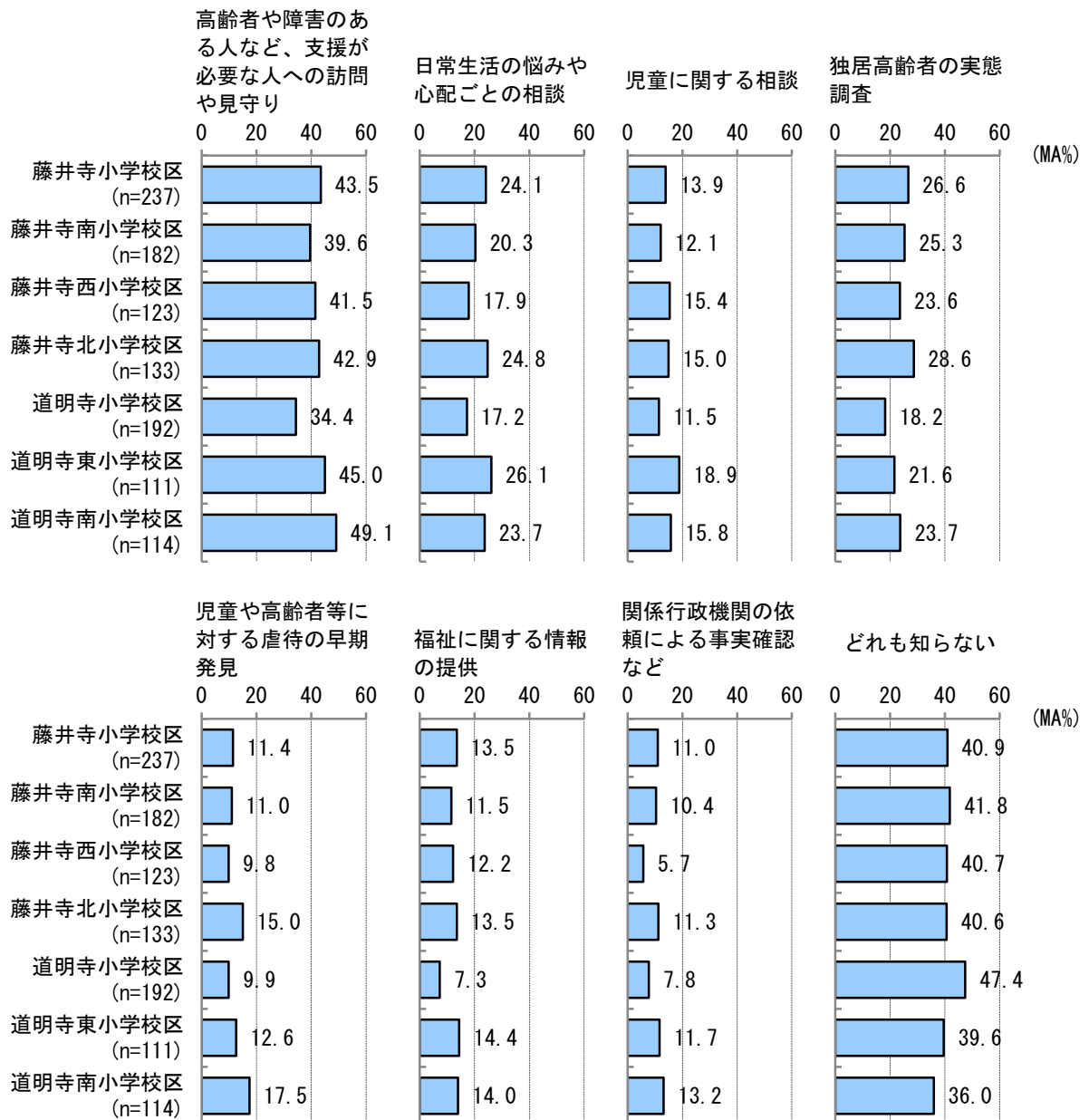
【年齢別】

年齢別でみると、18～39歳までの年代では「どれも知らない」が最も多く、6割台となっている。また、「高齢者や障害のある人など、支援が必要な人への訪問や見守り」の割合は高齢になるほど割合が高く、70歳以上が52.8%で最も高くなっている。



【居住地区別】

居住地区別でみると、藤井寺小学校区、藤井寺西小学校区、藤井寺北小学校区、道明寺東小学校区、道明寺南小学校区では「高齢者や障害のある人など、支援が必要な人への訪問や見守り」が最も多いが、それ以外の地区では「どれも知らない」が最も多くなっている。

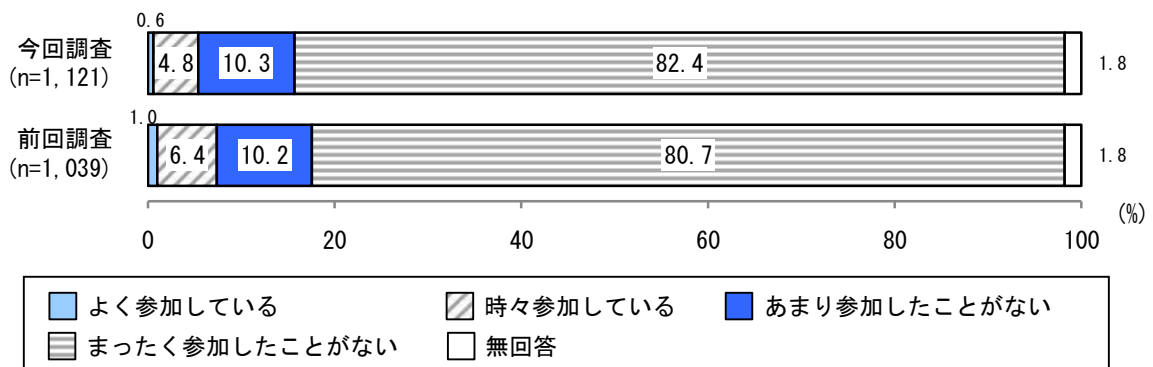


(3) 福祉に関する研修会、ボランティア講座、セミナーなどへの参加経験

問22 あなたは、福祉に関する研修会やボランティア講座、セミナーなどに参加したことがありますか。(○は1つ)

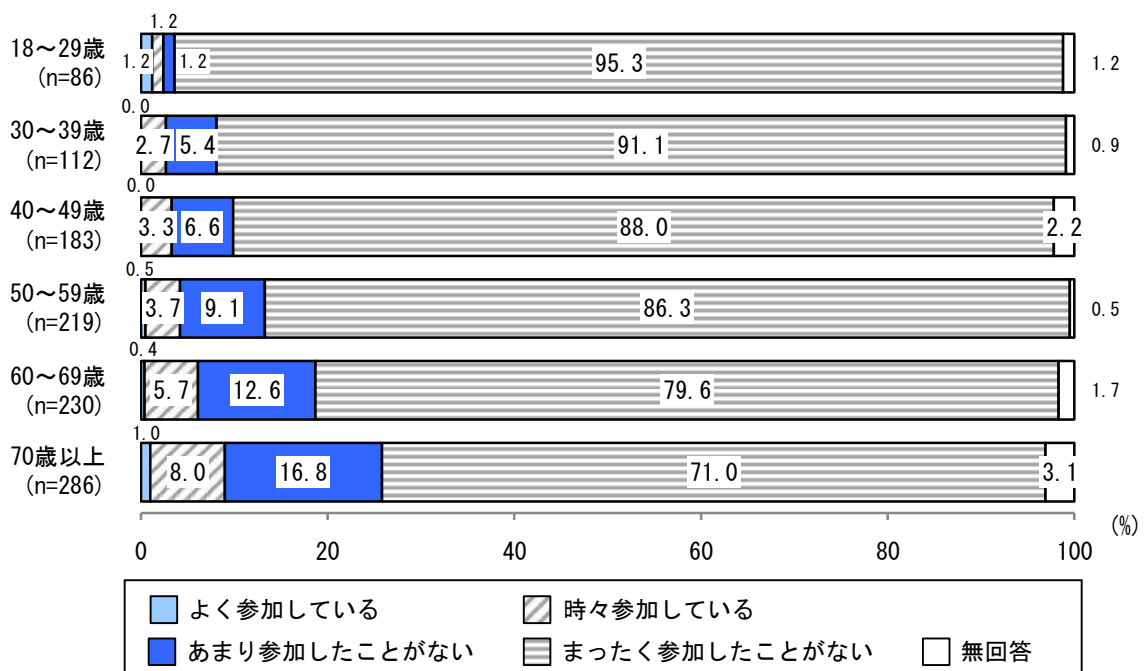
福祉に関する研修会、ボランティア講座、セミナーなどへの参加経験については、「まったく参加したことがない」が82.4%で最も多く、次いで「あまり参加したことがない」が10.3%、「時々参加している」が4.8%となっており、「よく参加している」と「時々参加している」をあわせた『参加したことがある』の割合は5.4%となっている。

前回調査と比較しても、大きな差はみられない。



【年齢別】

年齢別でみると、『参加したことがある』と「あまり参加したことがない」の割合は高齢になるほど高くなっており、「まったく参加したことがない」は若い年代ほど割合が高くなっていく。

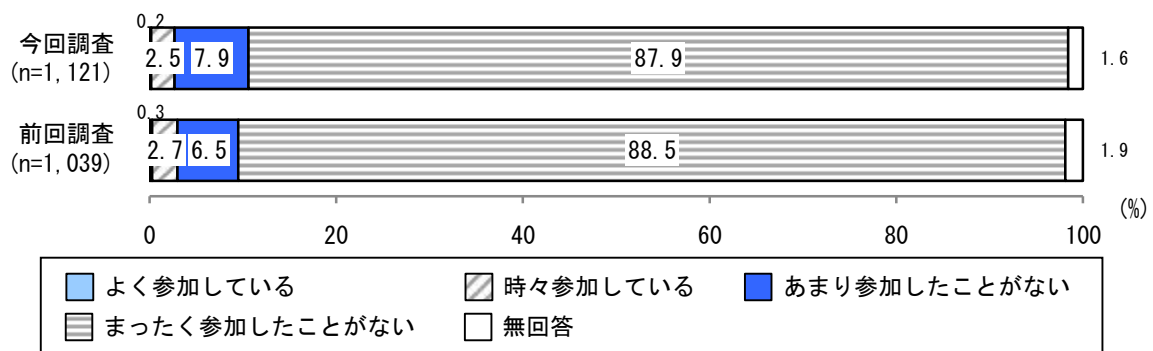


(4) 地域の福祉課題を話し合う会議や懇談会への参加経験

問23 あなたは、地域の福祉課題を話し合う会議や懇談会（ワークショップ等）に参加したことがありますか。（○は1つ）

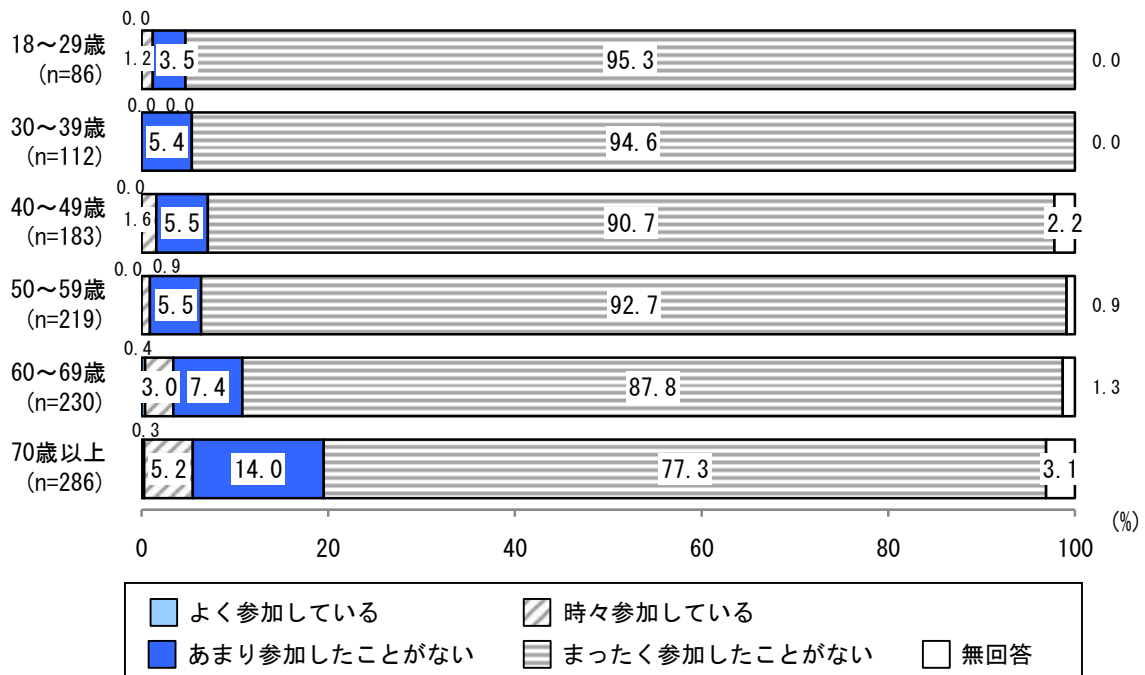
地域の福祉課題を話し合う会議や懇談会への参加経験については、「まったく参加したことがない」が87.9%で最も多く、次いで「あまり参加したことがない」が7.9%、「時々参加している」が2.5%となっており、「よく参加している」と「時々参加している」をあわせた『参加したことがある』の割合は2.7%となっている。

前回調査と比較しても、大きな差はみられない。



【年齢別】

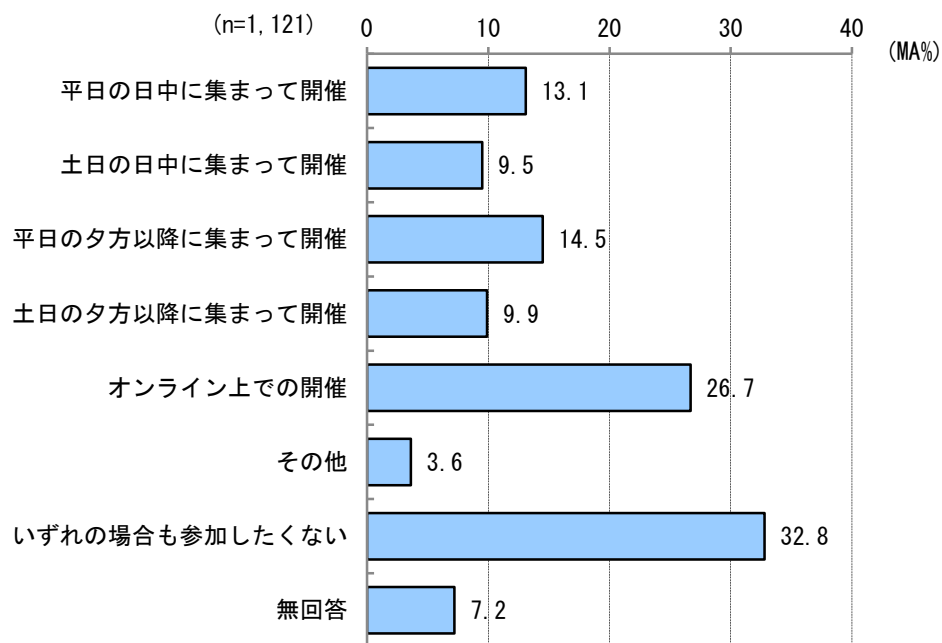
年齢別で見ると、『参加したことがある』の割合は70歳以上が5.5%で最も高く、「まったく参加したことがない」の割合は18～29歳が95.3%で最も高くなっている。



(5) 研修会や懇談会に参加できる開催方法

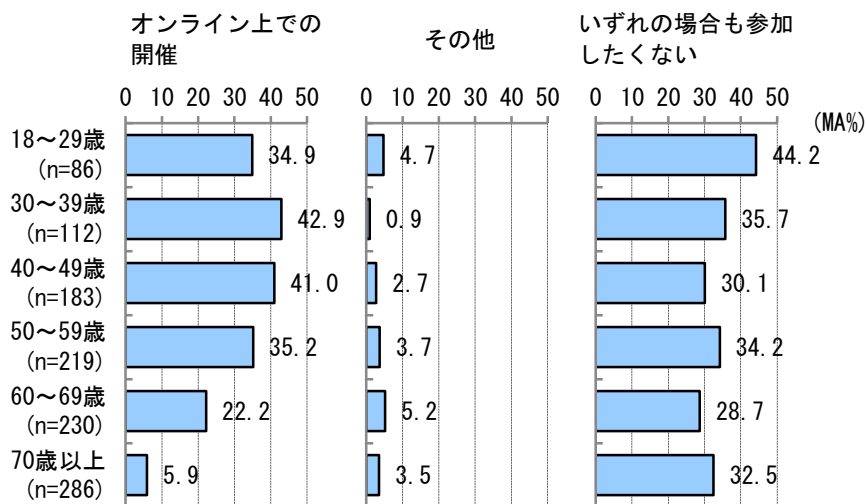
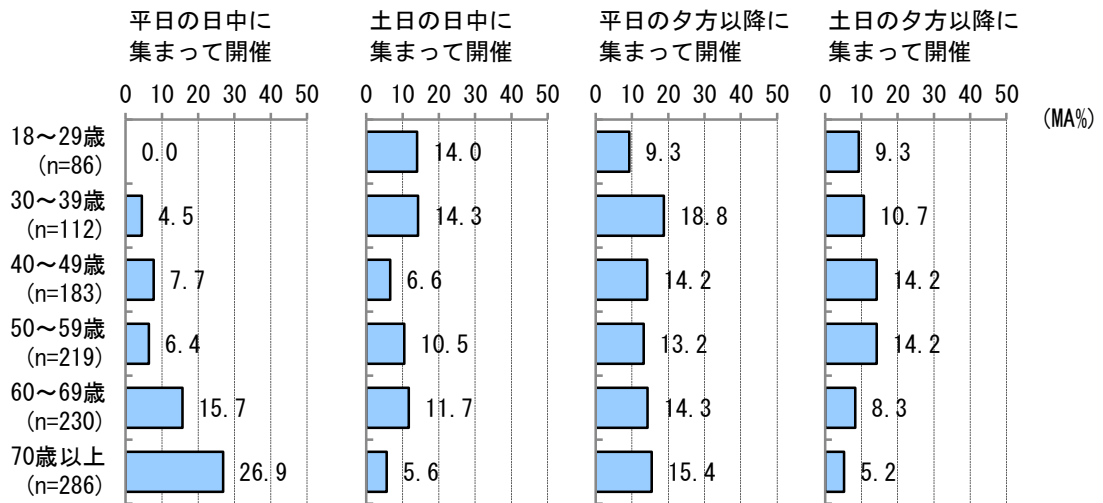
問24 どのような方法での開催であれば、研修会や懇談会（ワークショップ等）に参加することができますか。（〇はいくつでも）

研修会や懇談会に参加できる開催方法については、「いずれの場合も参加したくない」が32.8%で最も多く、次いで「オンライン上での開催」が26.7%、「平日の夕方以降に集まって開催」が14.5%、「平日の日中に集まって開催」が13.1%となっている。



【年齢別】

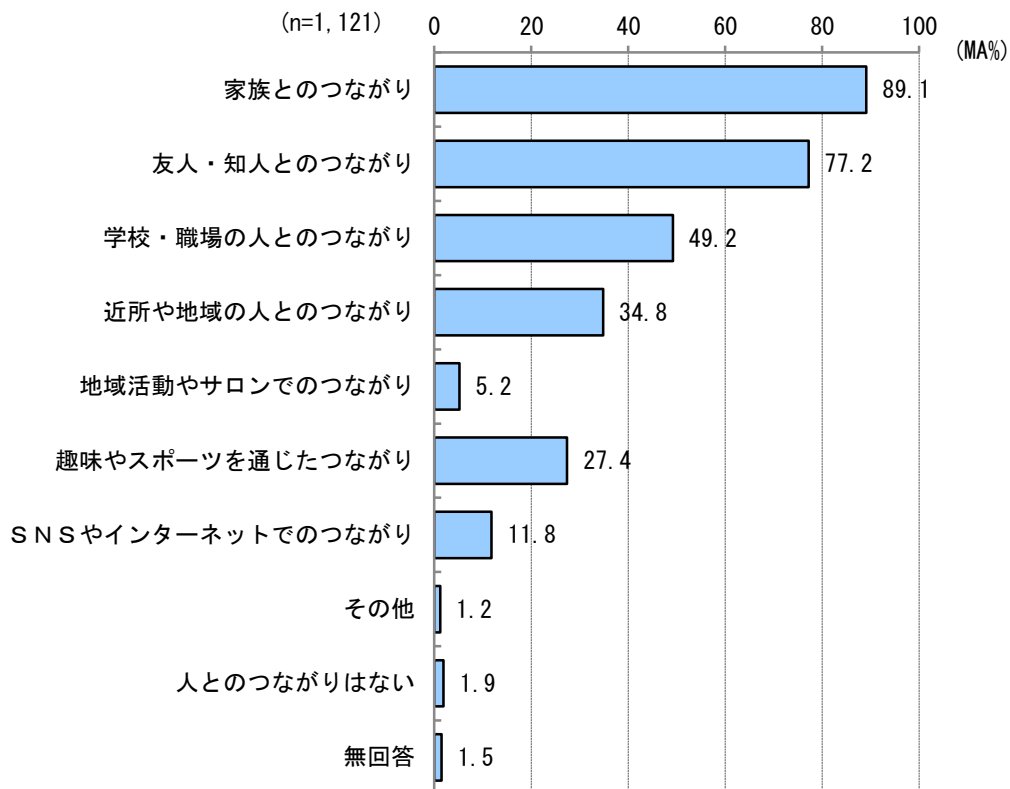
年齢別で見ると、18～29歳と60歳以上の年代では「いずれの場合も参加したくない」が最も多く、それ以外の年代では「オンライン上での開催」が最も多くなっている。



(6) 持っている“人とのつながり”

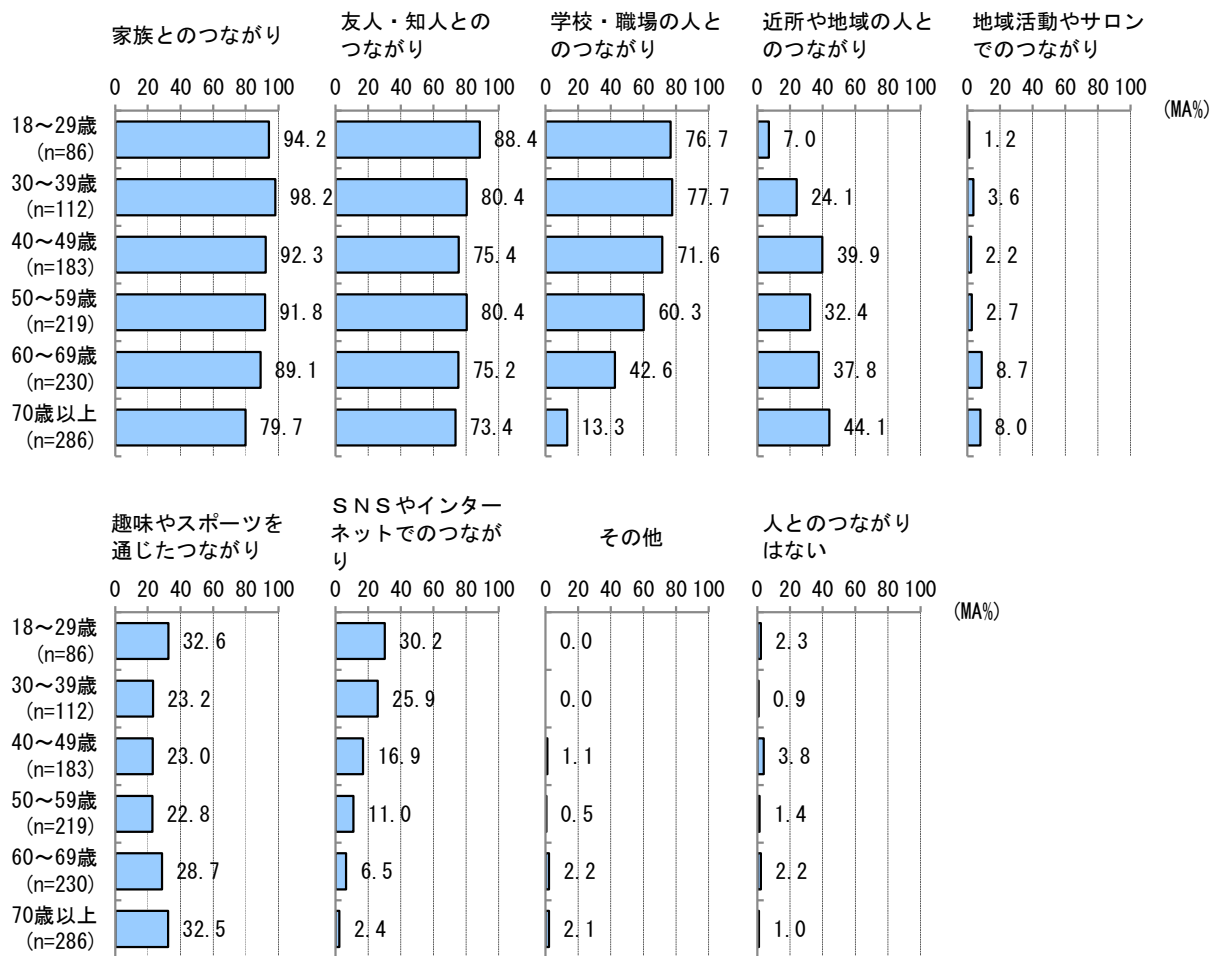
問25 あなたは、どのような“人とのつながり”をお持ちですか。(〇はいくつでも)

持っている“人とのつながり”については、「家族とのつながり」が89.1%で最も多く、次いで「友人・知人とのつながり」が77.2%、「学校・職場の人とのつながり」が49.2%となっている。



【年齢別】

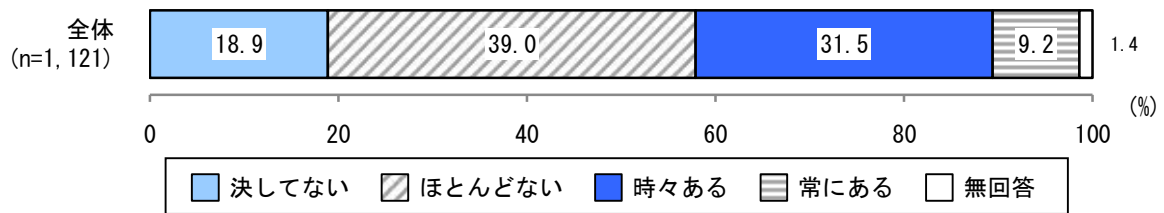
年齢別でみると、「友人・知人とのつながり」、「趣味やスポーツを通じたつながり」、「SNSやインターネットでのつながり」の割合は18～29歳が最も高くなっている。



(7) 人とのつきあいがないと感じること

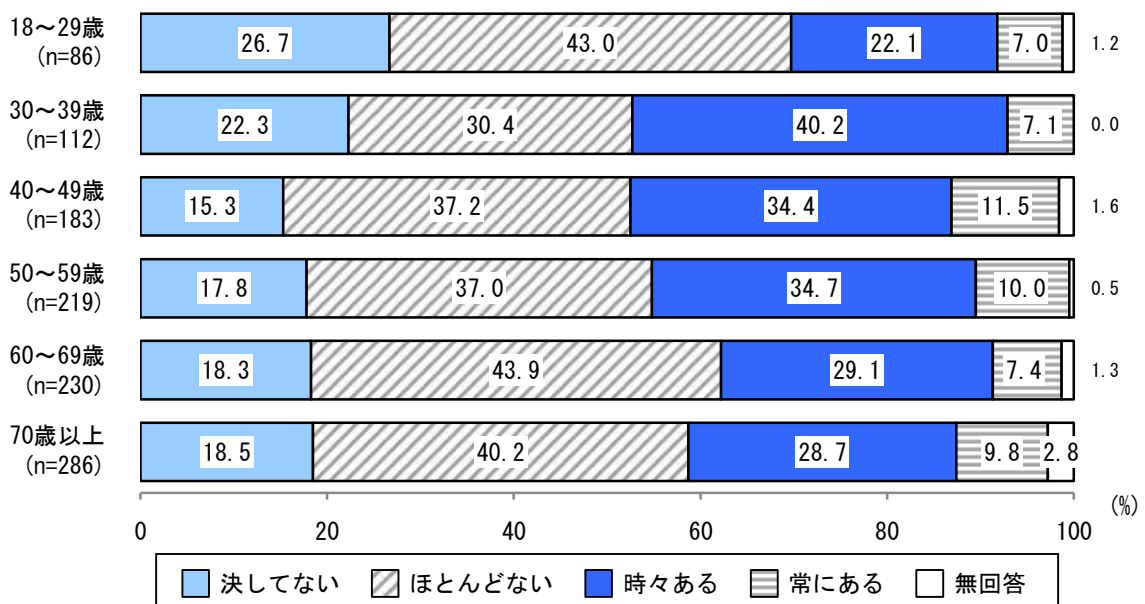
問26 あなたは、自分には人とのつきあいがないと感じることはありませんか。
(○は1つだけ)

人とのつきあいがないと感じることについては、「ほとんどない」が39.0%で最も多く、次いで「時々ある」が31.5%、「決してない」が18.9%、「常にある」が9.2%となっており、「時々ある」と「常にある」をあわせた『つきあいがないと感じることもある』割合は40.7%となっている。



【年齢別】

年齢別でみると、『つきあいがないと感じることもある』割合は30～39歳が47.3%で最も高く、次いで40～49歳が45.9%となっている。



(8) “人とのつながり”を持つために必要な取り組み

問27 “人とのつながり”を持つためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。
個人での取り組みや、まわりからの必要な手助けについて、それぞれお答えください。

“人とのつながり”を持つために必要な取り組みについての自由意見では、各個人での取り組みが463件、まわりからの必要な手助けが322件の意見が寄せられ、意見内容としては下表のような内容となっている。(1つの自由意見で複数に分類されている意見があるため、件数の合計は各個人での取り組みが547件、まわりからの必要な手助けが363件となっている。)

《各個人での取り組み》

カテゴリー	件数	カテゴリー	件数
地域の行事等に参加する	83件	情報を入手する	13件
人とコミュニケーションを取る	78件	電話・SNS等での交流をする	11件
あいさつをする	64件	コミュニティに参加する	8件
趣味活動をする	56件	友人との会話・交流をもつ	7件
近所・地域等との会話・交流をもつ	45件	余裕をもつ	6件
自分から動くこと、連絡をとる	44件	情報を発信する	5件
声かけをする	34件	家族等との会話・交流をもつ	4件
外出する(外へ出る)	32件	仕事をする、働く	4件
相手への思いやりを持つ	14件	その他	39件
合 計			547件

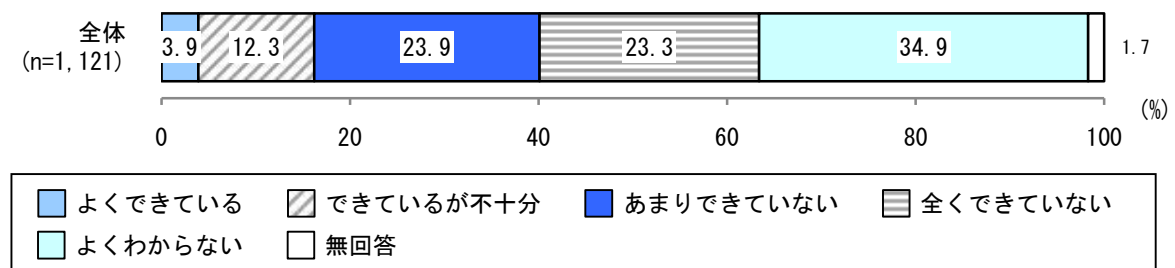
《まわりからの必要な手助け》

カテゴリー	件数	カテゴリー	件数
声かけをする	51件	見守りをする	8件
集まる機会を提供する	51件	思いやりを持つ	8件
コミュニケーションを取る	39件	災害時に助け合う	7件
情報提供をする	36件	公共交通機関の充実	6件
あいさつをする	21件	身の回りや家事育児の手伝い	5件
近所・地域の支え合い	21件	孤立した人へのサポート	5件
場所を提供・共有する	23件	資金援助する	3件
相談にのる	14件	プライバシーの問題	2件
訪問する	9件	その他、手助けの内容	34件
必要になった時に手助けする	9件	特にない、必要がない	11件
合 計			363件

(9) ひとり暮らし高齢者や障害者に対する声かけや安否確認の状況

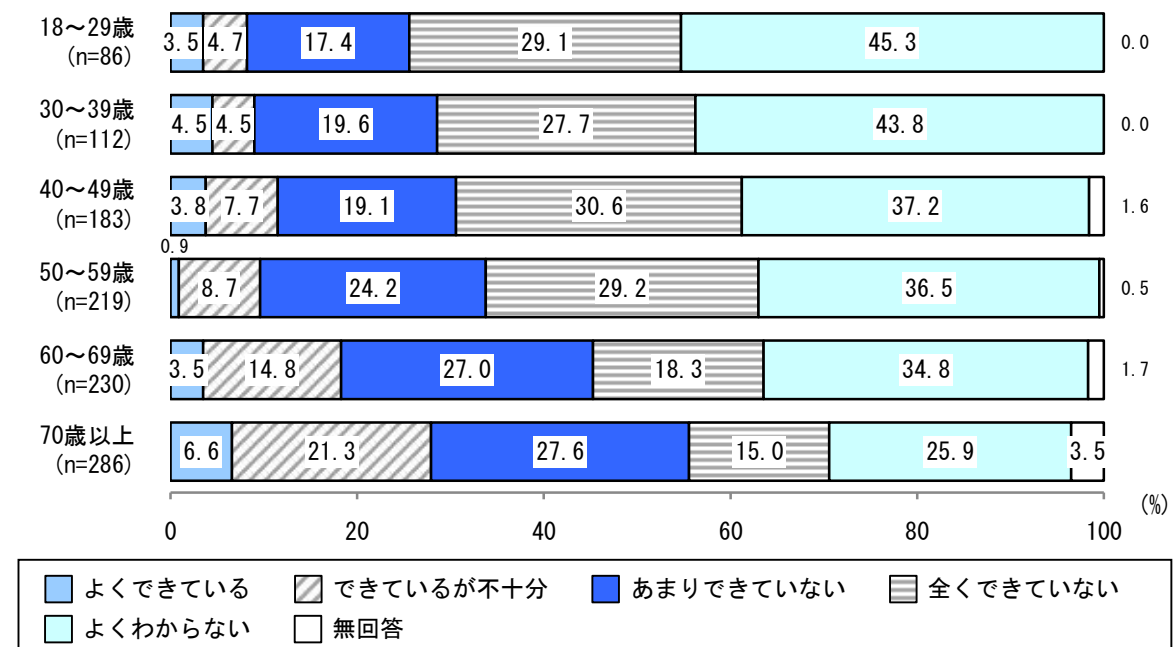
問28 あなたのご近所では、ひとり暮らしの高齢者や障害者などに対して、日頃から声かけや安否確認ができていますか。(○は1つ)

ひとり暮らし高齢者や障害者に対する声かけや安否確認の状況については、「よくわからない」が34.9%で最も多く、次いで「あまりできていない」が23.9%、「全くできていない」が23.3%となっており、「よくできている」と「できているが不十分」をあわせた『できている』の割合が16.2%、「あまりできていない」と「全くできていない」をあわせた『できていない』の割合は47.2%となっている。



【年齢別】

年齢別でみると、『できている』の割合は70歳以上が27.9%で最も高く、一方で、『できていない』の割合は50～59歳が53.4%で最も高くなっている。

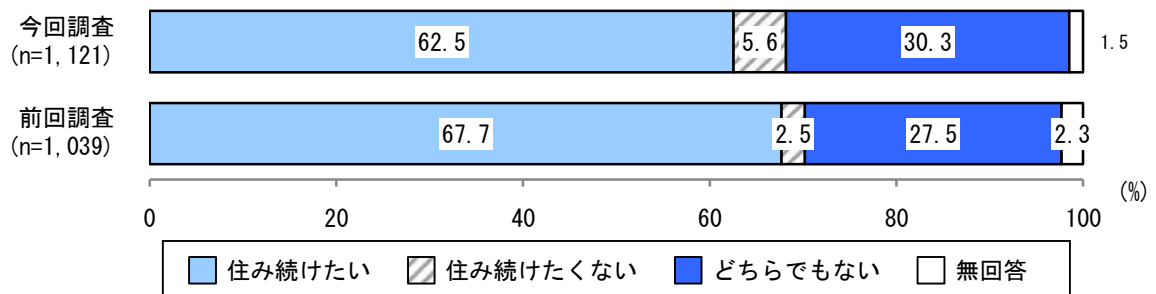


(10) 今後の藤井寺市への居留意向について

問29 あなたは、今後も藤井寺市に住み続けたいと思いますか。(〇は1つ)
 ※今後の転居予定に関わらず、あなたのお気持ちをお答えください。

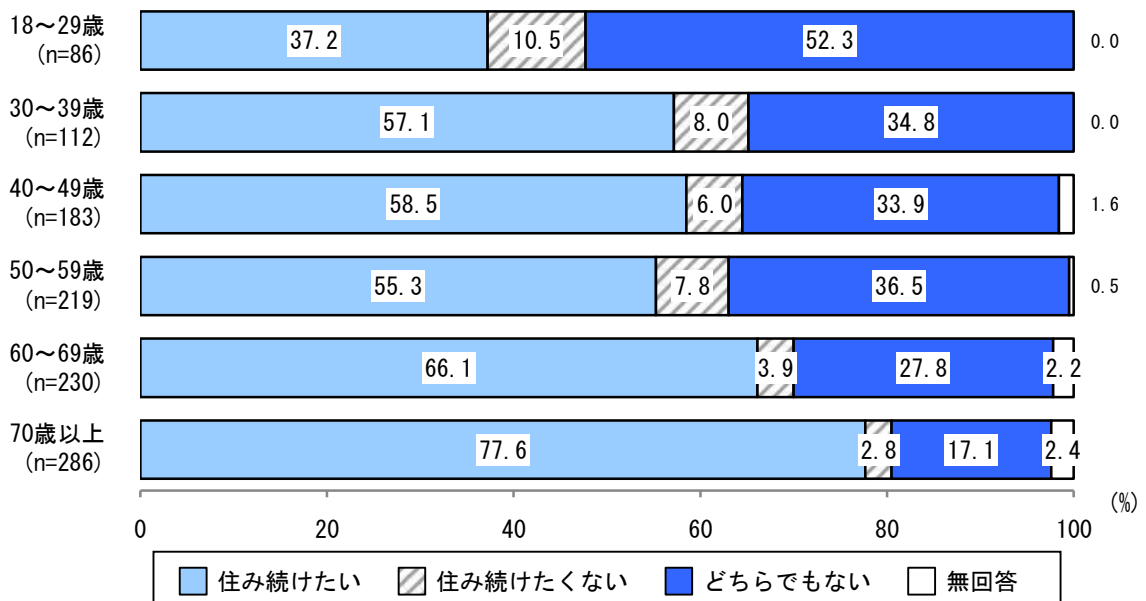
今後の藤井寺市への居留意向については、「住み続けたい」が62.5%で最も多く、次いで「どちらでもない」が30.3%、「住み続けたくない」が5.6%となっている。

前回調査と比較すると、「住み続けたい」の割合が前回より5.2ポイント低くなっている。



【年齢別】

年齢別で見ると、「住み続けたい」の割合は70歳以上が77.6%で最も高く、次いで60～69歳が66.1%となっている。一方で、「住み続けたくない」の割合は18～29歳が10.5%で最も高くなっている。



5. 自由記述

地域福祉推進についての自由意見では251件の意見が寄せられ、意見内容としては下表のような内容となっている。(1つの自由意見で複数に分類されている意見があるため、件数の合計は333件となっている。)

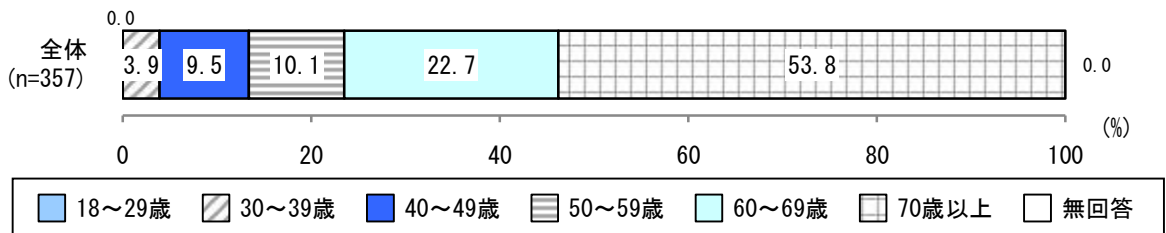
自由意見カテゴリー	件数
(1) 地域福祉への関心・考え	83
(2) 近所・地域とのつながりについて	34
(3) 住環境・交通環境の整備	27
(4) 情報提供の充実	25
(5) 市役所、地域福祉に関わる機関・団体について	21
(6) 子育てサービスの充実	21
(7) ボランティア・福祉活動について	20
(8) 高齢者・介護サービスの充実	16
(9) 市からの支援について	13
(10) 医療施設の充実	12
(11) 相談体制の整備	10
(12) アンケートについて	7
(13) 福祉についての教育・啓発	7
(14) 障害者福祉の充実	4
(15) 藤井寺市への居留意向について	3
(16) 防災対策や災害時の支援等について	3
(17) その他	27
合 計	333

Ⅲ 福祉関係者アンケート調査結果

1. 回答者の属性、活動団体について

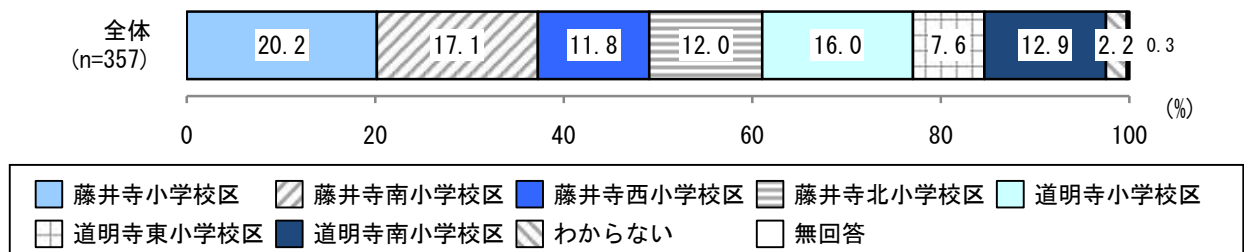
(1) 年齢

回答者の年齢は、「70歳以上」が53.8%で最も多く、次いで「60～69歳」が22.7%、「50～59歳」が10.1%、「40～49歳」が9.5%となっている。



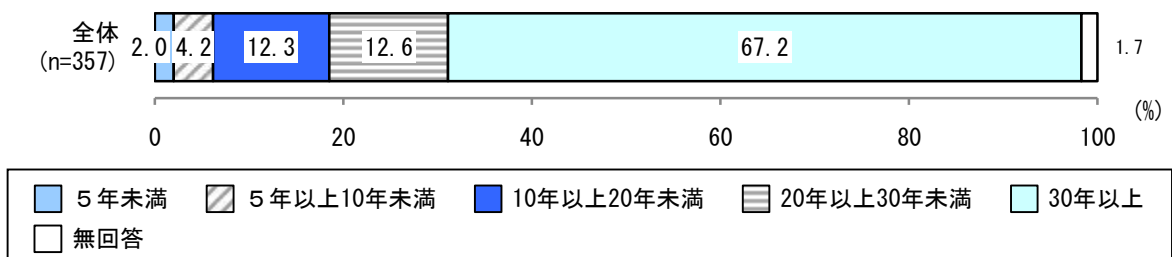
(2) 居住地区（小学校区）

回答者の居住地区（小学校区）は、「藤井寺小学校区」が20.2%で最も多く、次いで「藤井寺南小学校区」が17.1%、「道明寺小学校区」が16.0%、「道明寺南小学校区」が12.9%となっている。



(3) 現在の小学校区での居住年数

現在の小学校区での居住年数については、「30年以上」が67.2%で最も多く、次いで「20年以上30年未満」が12.6%、「10年以上20年未満」が12.3%となっている。



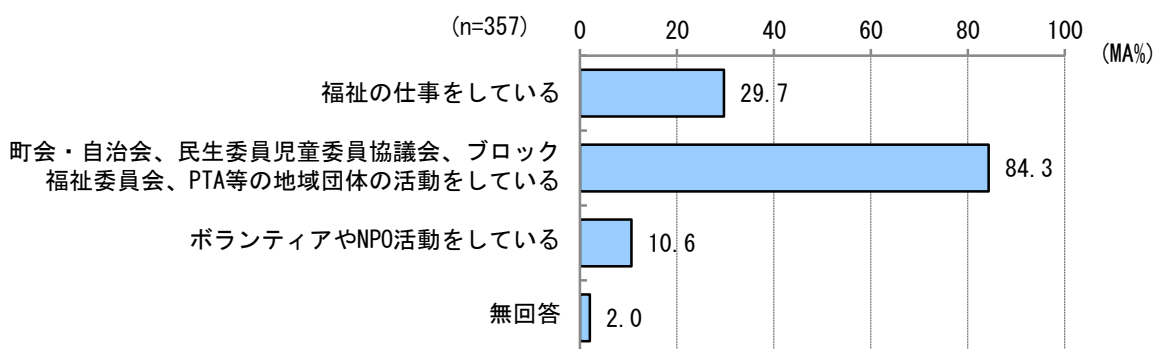
(4) 福祉とのかかわりについて

① 福祉とのかかわりとその年数

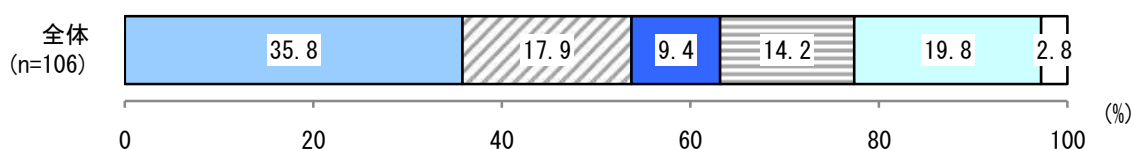
(4) 現在、あなたと福祉とのかかわりは、次のどれにあてはまりますか。また、そのかかわりは何年くらいになりますか。(あてはまるものすべてに○をし、期間を記入)

福祉とのかかわりについては、「町会・自治会、民生委員児童委員協議会、ブロック福祉委員会、PTA等の地域団体の活動をしている」が84.3%で最も多く、次いで「福祉の仕事をしている」が29.7%、「ボランティアやNPO活動をしている」が10.6%となっている。

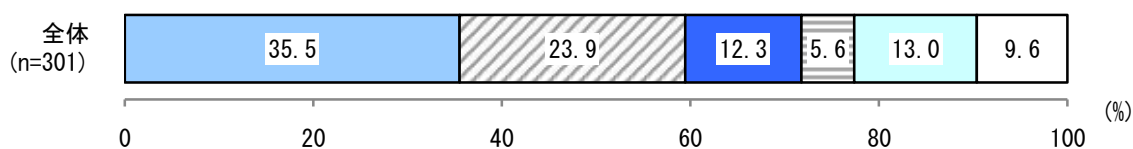
また、それぞれにかかわった年数については、福祉の仕事については、「5年未満」が35.8%で最も多く、次いで「20年以上」が19.8%、「5年以上10年未満」が17.9%となっている。地域団体の活動については、「5年未満」が35.5%で最も多く、次いで「5年以上10年未満」が23.9%、「20年以上」が13.0%となっている。ボランティアやNPO活動については、「20年以上」が31.6%で最も多く、次いで「5年未満」が28.9%、「10年以上15年未満」が15.8%となっている。



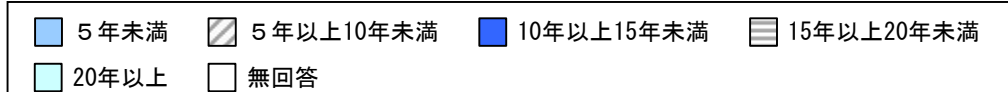
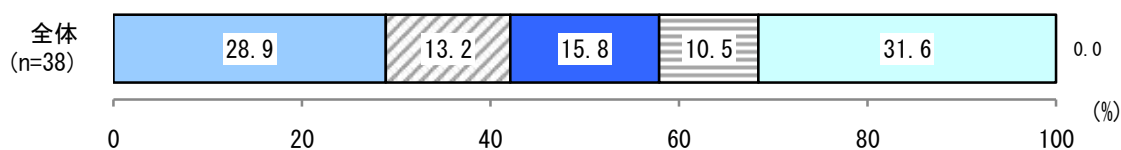
〔福祉の仕事の年数〕



〔地域団体の活動の年数〕



〔ボランティアやNPO活動の年数〕

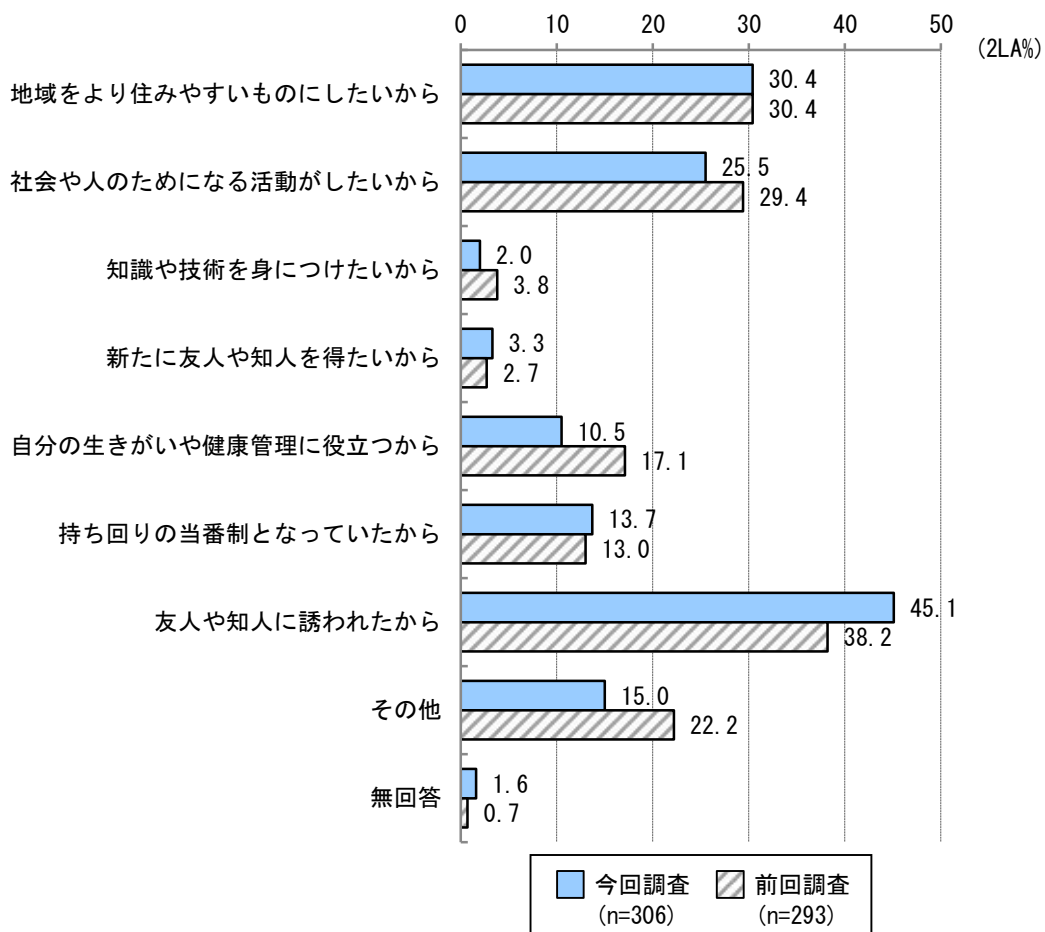


② 活動のきっかけ

(4)で「2. 町会・自治会、民生委員児童委員協議会、ブロック福祉委員会、PTA等の地域団体の活動をしている」「3. ボランティアやNPO活動をしている」と回答した方に
(4-ア) 活動のきっかけはどのような理由からですか。(〇は2つまで)

活動するきっかけの理由については、「友人や知人に誘われたから」が45.1%で最も多く、次いで「地域をより住みやすいものにしたいから」が30.4%、「社会や人のためになる活動がしたいから」が25.5%となっている。

前回調査と比較すると、「友人や知人に誘われたから」の割合が前回より6.9ポイント高くなっている。

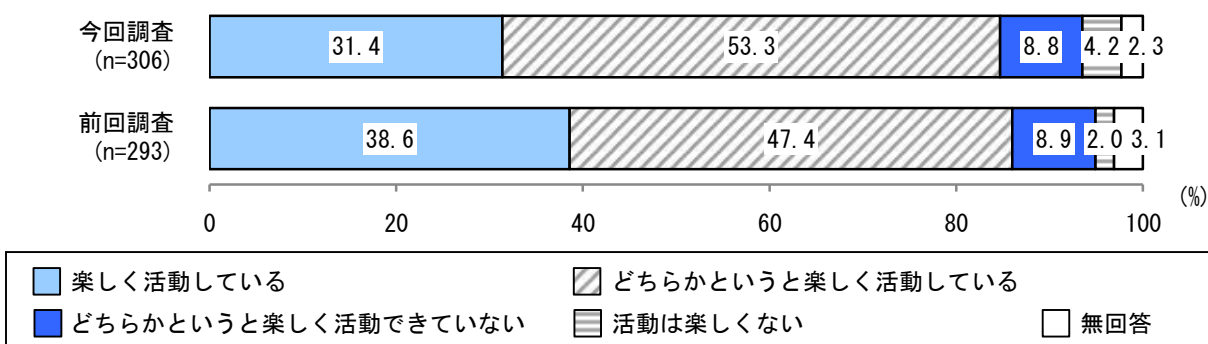


③ 楽しく活動しているか

(4) で「2. 町会・自治会、民生委員児童委員協議会、ブロック福祉委員会、PTA等の地域団体の活動をしている」「3. ボランティアやNPO活動をしている」と回答した方に
(4-イ) あなたは、楽しく活動されていますか。(〇は1つ)

楽しく活動しているかについては、「どちらかという楽しく活動している」が53.3%で最も多く、次いで「楽しく活動している」が31.4%で、両者をあわせた『活動は楽しい』割合は84.7%となっている。

前回調査と比較しても、大きな差はみられない。

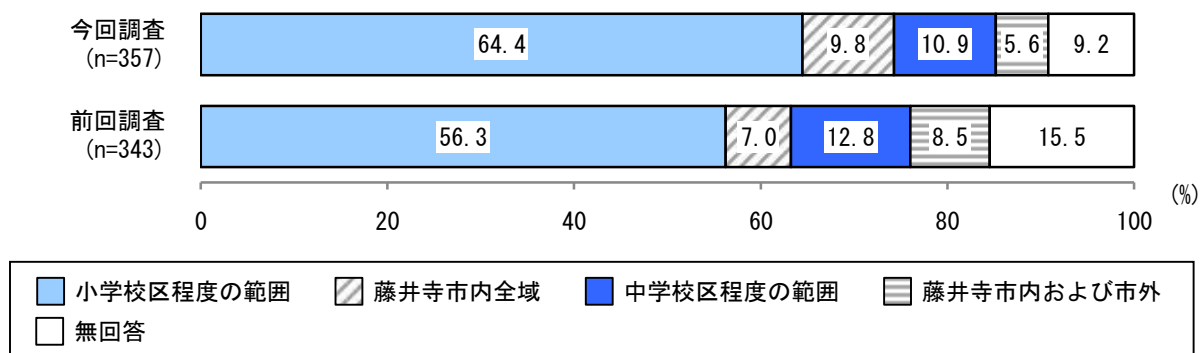


(5) 所属している事業所・団体の活動範囲

(5) 貴事業所・貴団体の活動範囲は、概ねどの程度ですか。(〇は1つ)

所属している事業所・団体の活動範囲については、「小学校区程度の範囲」が64.4%で最も多く、次いで「中学校区程度の範囲」が10.9%、「藤井寺市内全域」が9.8%となっている。

前回調査と比較すると、「小学校区程度の範囲」の割合が前回より8.1ポイント高くなっている。



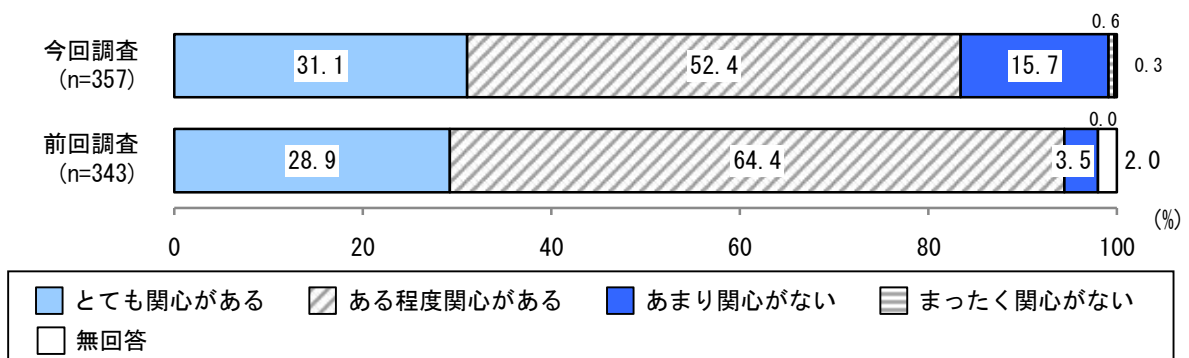
2. 地域や福祉に関する意識について

(1) 社会的立場の弱い人々をとりまく地域の福祉課題への関心

問1 あなたは、高齢者や子ども、障害のある人、その他のさまざまな社会的立場の弱い人々をとりまく地域の福祉課題に関心がありますか。(○は1つ)

地域の福祉課題に対する関心度は、「ある程度関心がある」が52.4%で最も多く、次いで「とても関心がある」が31.1%、「あまり関心がない」が15.7%となっており、「とても関心がある」と「ある程度関心がある」をあわせた『関心がある』割合は83.5%となっている。

前回調査と比較すると、『関心がある』割合は前回より9.8ポイント低くなっている。



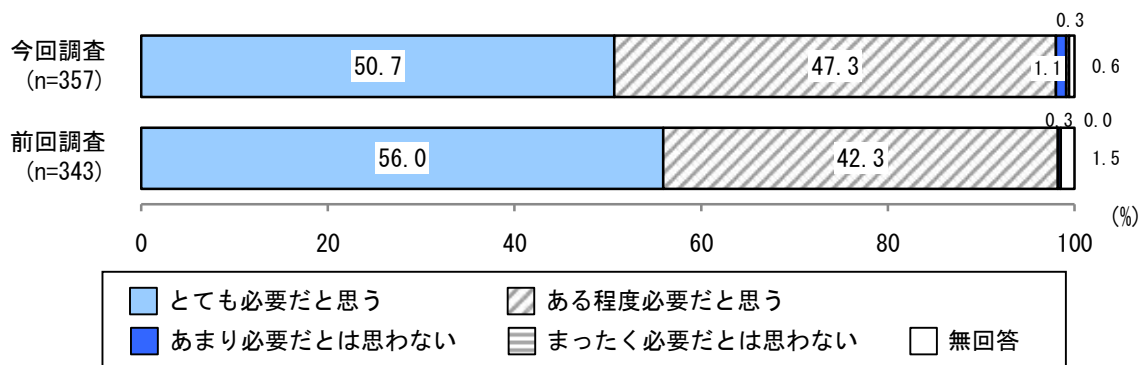
(2) 地域の福祉課題に対する、住民相互の自主的な支え合い、助け合いの必要性

① 地域の福祉課題に対する、住民相互の自主的な支え合い、助け合いの必要性

問2 あなたは、地域の福祉課題に対し、住民相互の自主的な支え合い、助け合いの必要性についてどう思いますか。(○は1つ)

地域の福祉課題に対する、住民相互の自主的な支え合い、助け合いの必要性については、「とても必要だと思う」が50.7%で最も多く、次いで「ある程度必要だと思う」が47.3%となっており、両者をあわせた『必要だと思う』割合は98.0%となっている。

前回調査と比較しても、大きな差はみられない。

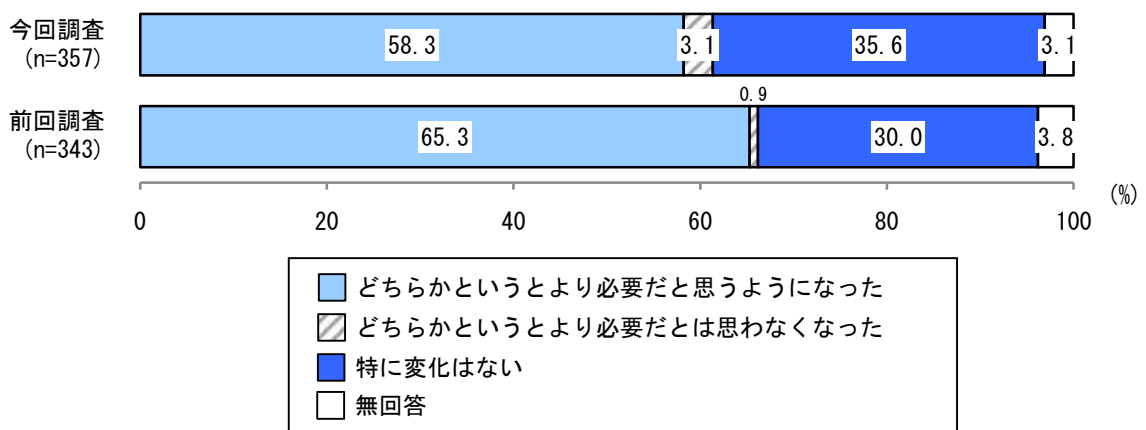


② 地域の福祉課題に対する、住民相互の自主的な支え合い、助け合いの必要性の変化

問2-ア 問2の答えは、以前と比べて（約5年前と比べて）どのように変化したと感じますか。(○は1つ)

地域の福祉課題に対する、住民相互の自主的な支え合い、助け合いの必要性の変化については、「どちらかというより必要だと思うようになった」が58.3%で最も多く、次いで「特に変化はない」が35.6%、「どちらかというより必要だとは思わなくなった」が3.1%となっている。

前回調査と比較すると、「どちらかというより必要だと思うようになった」の割合は前回より7.0ポイント低くなっている。

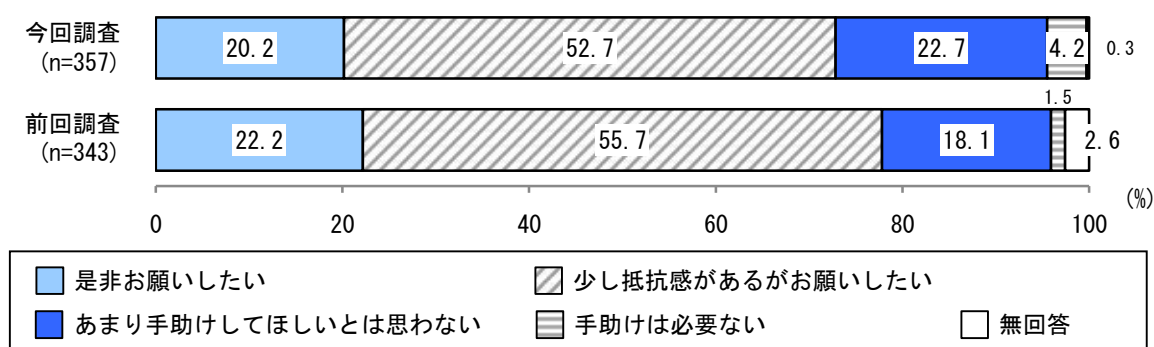


(3) 日常生活で介助や支援が必要になった場合、近所の人などから手助けしてもらうことについて

問3 あなたやご家族が日常生活で介助や支援が必要になった場合、近所の人などから手助けしてもらうことについてどう思いますか。(○は1つ)

日常生活で介助や支援が必要になった場合、近所の人などから手助けしてもらうことについては、「少し抵抗感があるがお願いしたい」が52.7%で最も多く、次いで「あまり手助けしてほしいとは思わない」が22.7%、「是非お願いしたい」が20.2%となっており、「是非お願いしたい」と「少し抵抗感があるがお願いしたい」をあわせた『手助けしてほしい』割合は72.9%となっている。

前回調査と比較すると、『手助けしてほしい』割合は前回より5.0ポイント低くなっている。

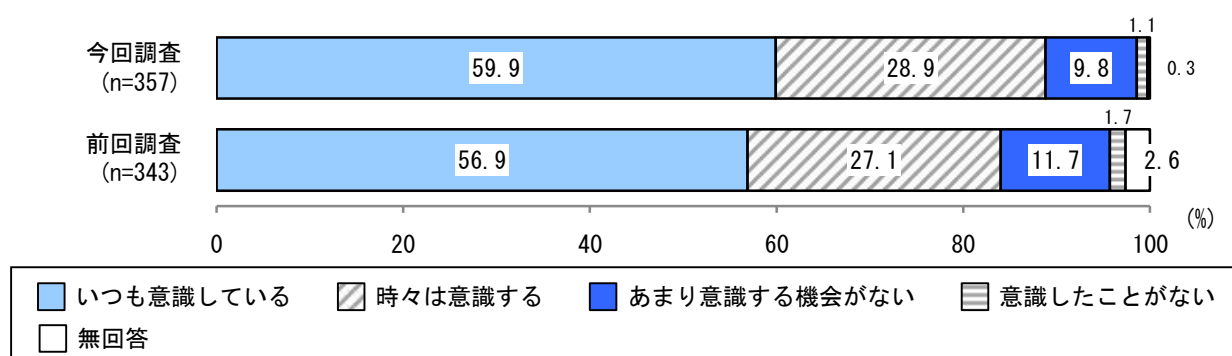


(4) 日頃、人権尊重を意識して活動しているか

問4 あなたは、日頃、一人ひとりの人権を尊重することについて、意識して活動していますか。(○は1つ)

日頃、人権尊重を意識して活動しているかについては、「いつも意識している」が59.9%で最も多く、次いで「時々意識する」が28.9%、「あまり意識する機会がない」が9.8%となっており、「いつも意識している」と「時々意識する」をあわせた『意識している』割合は88.8%となっている。

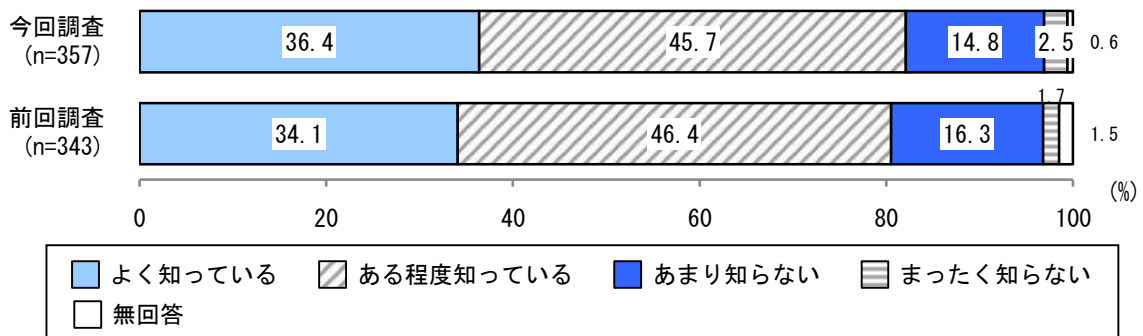
前回調査と比較すると、『意識している』割合は前回より4.8ポイント高くなっている。



(5) 民生委員児童委員の役割の認知度

問5 あなたは、民生委員児童委員の役割をご存知ですか。(○は1つ)

民生委員児童委員の役割の認知度については、「ある程度知っている」が45.7%で最も多く、次いで「よく知っている」が36.4%、「あまり知らない」が14.8%となっており、「よく知っている」と「ある程度知っている」をあわせた『知っている』の割合は82.1%となっている。前回調査と比較しても、大きな差はみられない。

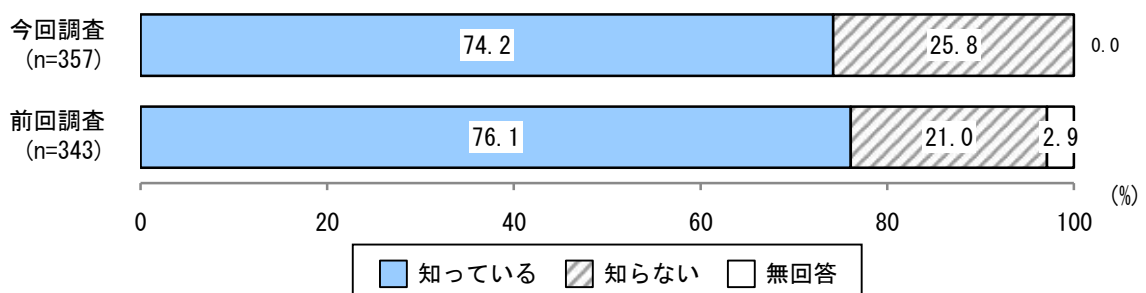


(6) CSWが市社協に配置されていることの認知度

問6 あなたは、福祉の総合相談員であるコミュニティソーシャルワーカー（CSW）が藤井寺市社会福祉協議会に配置されていることをご存知ですか。(○は1つ)

CSWが市社協に配置されていることの認知度については、「知っている」が74.2%、「知らない」が25.8%となっている。

前回調査と比較しても、大きな差はみられない。



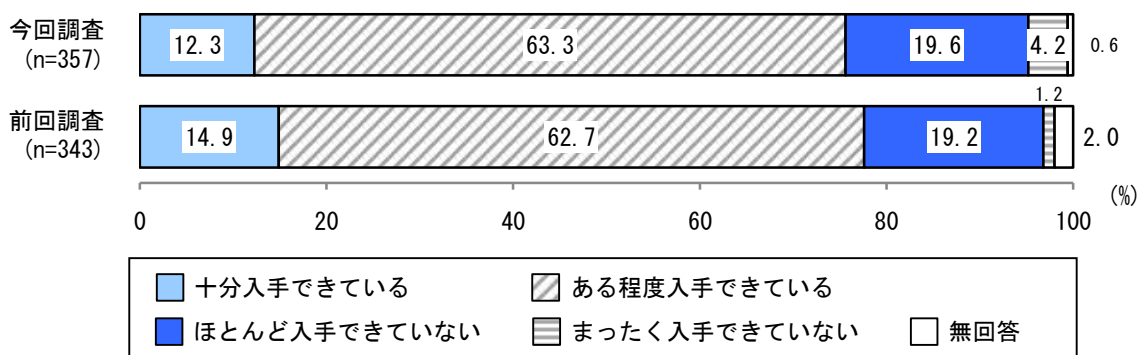
(7) 福祉の相談窓口や福祉サービス情報など、情報の入手について

① 福祉の相談窓口や福祉サービス情報など、情報の入手状況

問7 あなたは、福祉の相談窓口や福祉サービス情報などの必要な情報は、十分入手できていますか。(○は1つ)

福祉の相談窓口や福祉サービス情報など、情報の入手状況については、「ある程度入手できている」が63.3%で最も多く、次いで「ほとんど入手できていない」が19.6%、「十分入手できている」が12.3%となっており、「十分入手できている」と「ある程度入手できている」をあわせた『入手できている』の割合は75.6%となっている。

前回調査と比較すると、『入手できている』の割合は前回より2.0ポイント低くなっている。

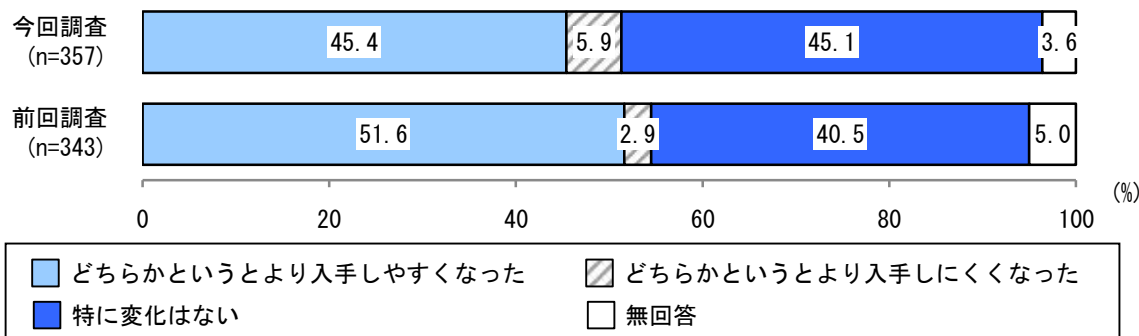


② 福祉の相談窓口や福祉サービス情報など、情報の入手の変化

問7-ア 問7の答えは、以前と比べて(約5年前と比べて)どのように変化したと感じますか。(○は1つ)

福祉の相談窓口や福祉サービス情報など、情報の入手の変化については、「どちらかというより入手しやすくなった」が45.4%で最も多く、次いで「特に変化はない」が45.1%、「どちらかというより入手しにくくなった」が5.9%となっている。

前回調査と比較すると、「どちらかというより入手しやすくなった」の割合は前回より6.2ポイント低くなっている。

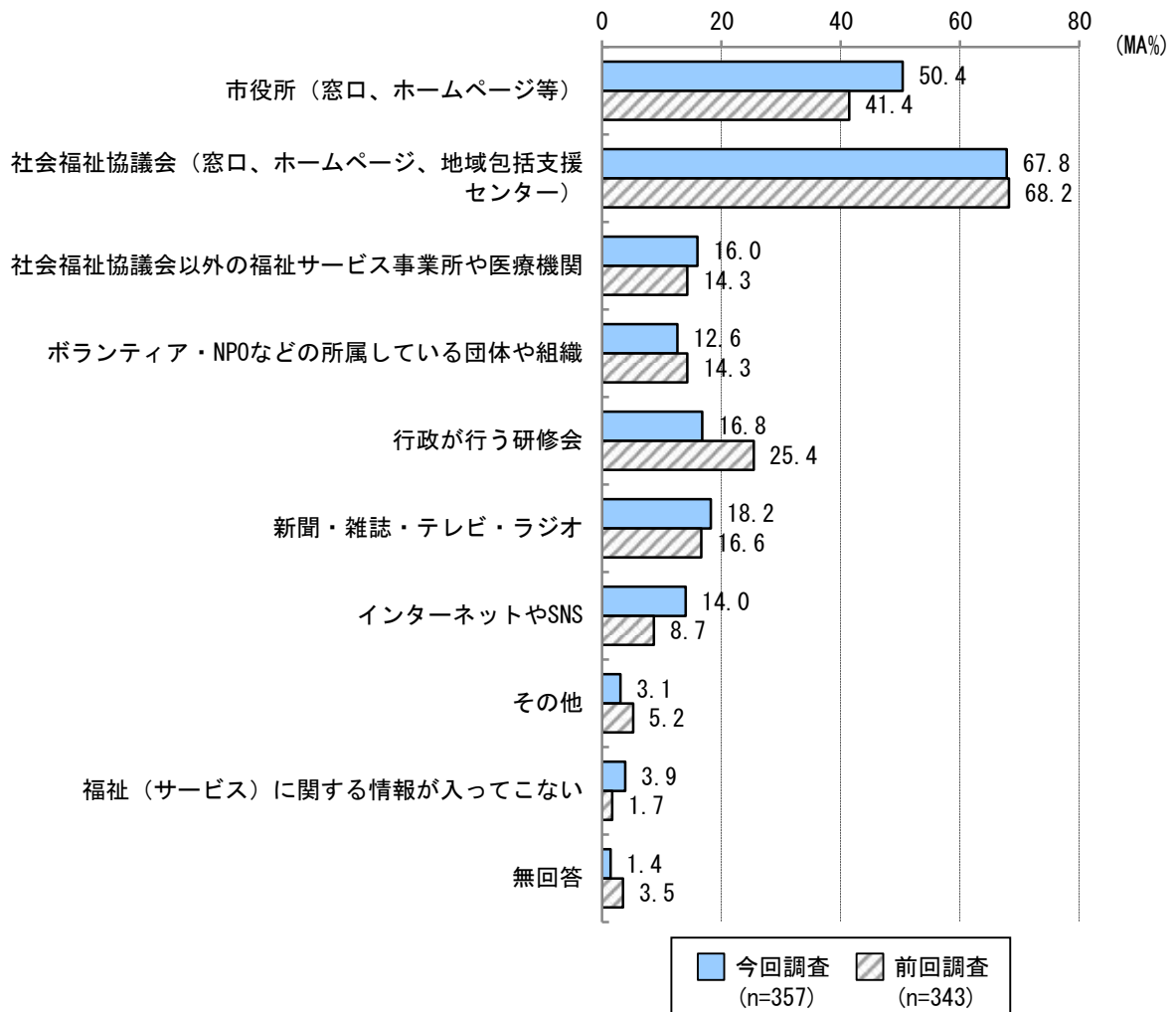


(8) 福祉サービス情報の入手源

問8 福祉サービスに関する情報をどこ（誰）から入手していますか。（〇はいくつでも）

福祉サービス情報の入手源については、「社会福祉協議会（窓口、ホームページ、地域包括支援センター）」が67.8%で最も多く、次いで「市役所（窓口、ホームページ等）」が50.4%、「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」が18.2%となっている。

前回調査と比較すると、「市役所（窓口、ホームページ等）」の割合は前回より9.0ポイント高いが、「行政が行う研修会」の割合は前回より8.6ポイント低くなっている。



3. 地域や福祉に関する行動について

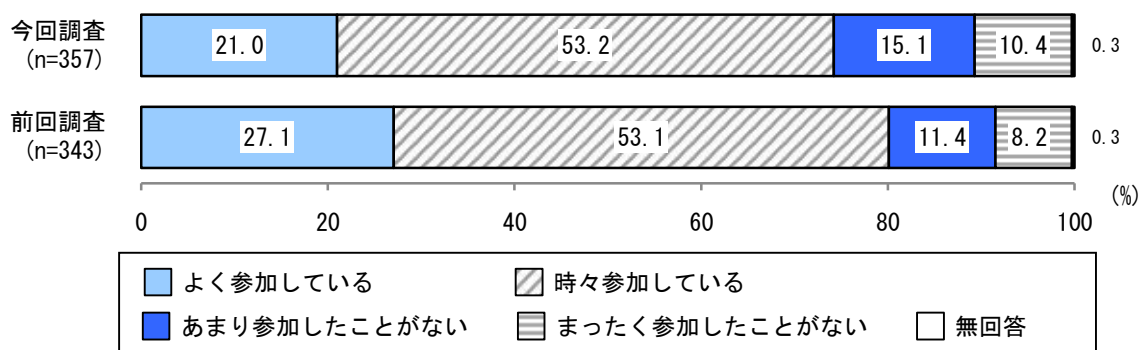
(1) 福祉に関する研修会やボランティア講座、セミナーなどへの参加について

① 福祉に関する研修会やボランティア講座、セミナーなどへの参加経験

問9 あなたは、福祉に関する研修会やボランティア講座、セミナーなどに参加したことがありますか。(○は1つ)

福祉に関する研修会やボランティア講座、セミナーなどへの参加経験については、「時々参加している」が53.2%で最も多く、次いで「よく参加している」が21.0%、「あまり参加したことがない」が15.1%となっており、「よく参加している」と「時々参加している」をあわせた『参加している』割合は74.2%となっている。

前回調査と比較すると、『参加している』割合は前回より6.0ポイント低くなっている。

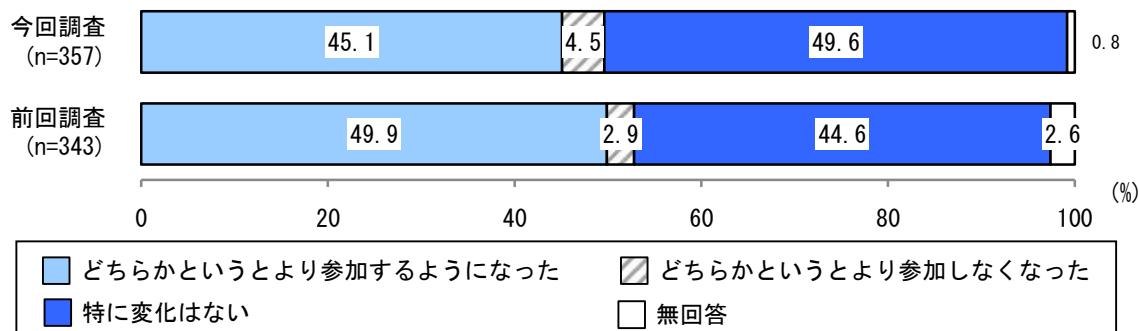


② 福祉に関する研修会やボランティア講座、セミナーなどへの参加についての変化

問9-ア 問9の答えは、以前と比べて(約5年前と比べて)どのように変化したと感じますか。(○は1つ)

福祉に関する研修会やボランティア講座、セミナーなどへの参加についての変化については、「特に変化はない」が49.6%で最も多く、次いで「どちらかというより参加するようになった」が45.1%、「どちらかというより参加しなくなった」が4.5%となっている。

前回調査と比較すると、「どちらかというより参加するようになった」の割合は前回より4.8ポイント低くなっている。

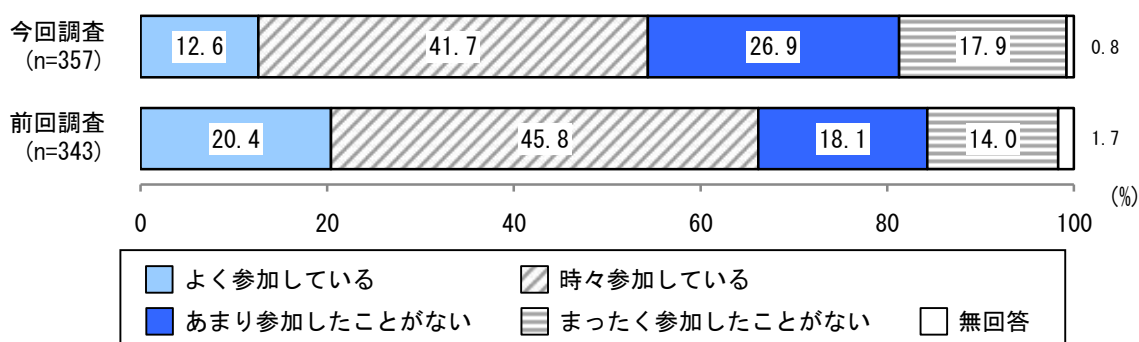


(2) 地域の福祉課題を話し合う会議や懇談会への参加経験

問10 あなたは、地域の福祉課題を話し合う会議や懇談会（ワークショップ等）に参加したことがありますか。（○は1つ）

地域の福祉課題を話し合う会議や懇談会への参加経験については、「時々参加している」が41.7%で最も多く、次いで「あまり参加したことがない」が26.9%、「まったく参加したことがない」が17.9%、「よく参加している」が12.6%となっており、「よく参加している」と「時々参加している」をあわせた『参加している』割合は54.3%となっている。

前回調査と比較すると、『参加している』割合は前回より11.9ポイント低くなっている。

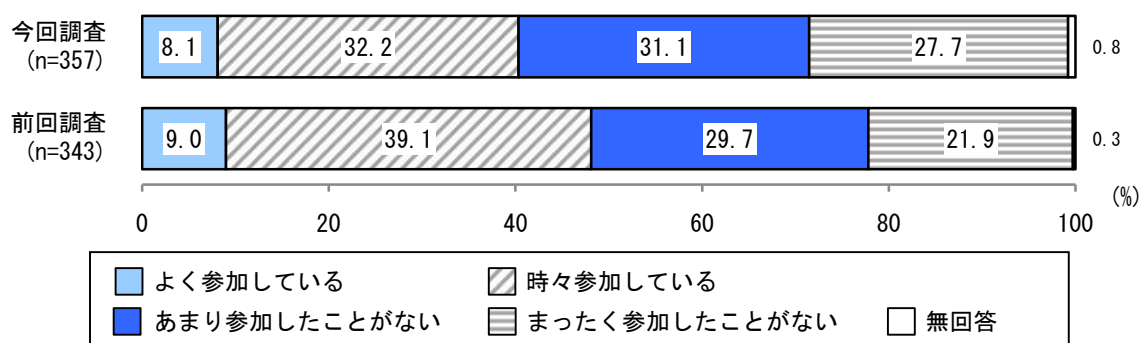


(3) 自分の所属以外の福祉活動団体やグループとの交流、福祉施設の見学などへの参加経験

問11 あなたは、ご自分の所属以外の福祉活動団体やグループとの交流、福祉施設の見学などに参加したことがありますか。（○は1つ）

自分の所属以外の福祉活動団体やグループとの交流、福祉施設の見学などへの参加経験については、「時々参加している」が32.2%で最も多く、次いで「あまり参加したことがない」が31.1%、「まったく参加したことがない」が27.7%、「よく参加している」が8.1%となっており、「よく参加している」と「時々参加している」をあわせた『参加している』割合は40.3%となっている。

前回調査と比較すると、『参加している』割合は前回より7.8ポイント低くなっている。

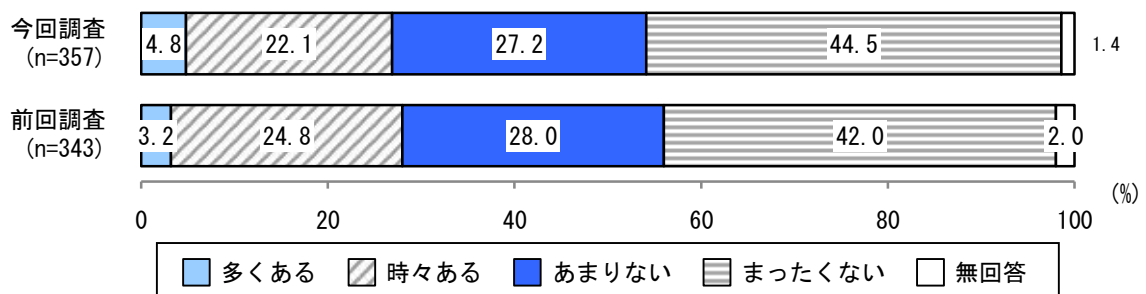


(4) 福祉に関する研修会やボランティア講座などを生かす機会について

問12 あなたは、福祉に関する研修会やボランティア講座などを生かす機会（講師として小学校などの福祉教育に参加するなど）がありますか。（○は1つ）

福祉に関する研修会やボランティア講座などを生かす機会については、「まったくない」が44.5%で最も多く、次いで「あまりない」が27.2%、「時々ある」が22.1%、「多くある」が4.8%となっており、「多くある」と「時々ある」をあわせた『ある』割合は26.9%となっている。

前回調査と比較しても、大きな差はみられない。

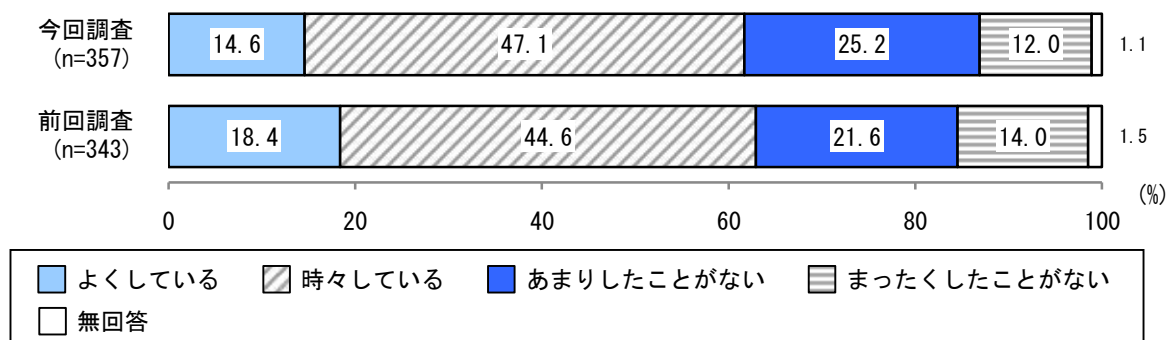


(5) 地域の人たちに対する福祉活動への勧誘、情報共有について

問13 あなたは、地域の人たちに対して、福祉活動にさそったり、情報を知らせたりすることがありますか。（○は1つ）

地域の人たちに対する福祉活動への勧誘、情報共有については、「時々している」が47.1%で最も多く、次いで「あまりしたことがない」が25.2%、「よくしている」が14.6%、「まったくしたことがない」が12.0%となっており、「よくしている」と「時々している」をあわせた『している』割合は61.7%となっている。

前回調査と比較しても、大きな差はみられない。



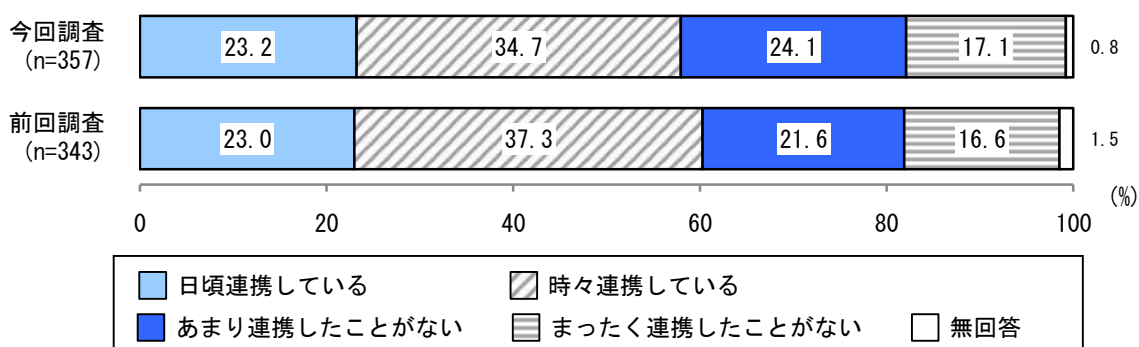
(6) 福祉の関係者及び関係機関との連携について

① 福祉の関係者及び関係機関との連携状況

問14 あなたは、地域の人困りごとなどを解決するために、福祉の関係者及び関係機関と連携したことはありますか。(○は1つ)

福祉の関係者及び関係機関との連携状況については、「時々連携している」が34.7%で最も多く、次いで「あまり連携したことがない」が24.1%、「日頃連携している」が23.2%、「まったく連携したことがない」が17.1%となっており、「日頃連携している」と「時々連携している」をあわせた『連携している』割合は57.9%となっている。

前回調査と比較すると、『連携している』割合は前回より2.4ポイント低くなっている。

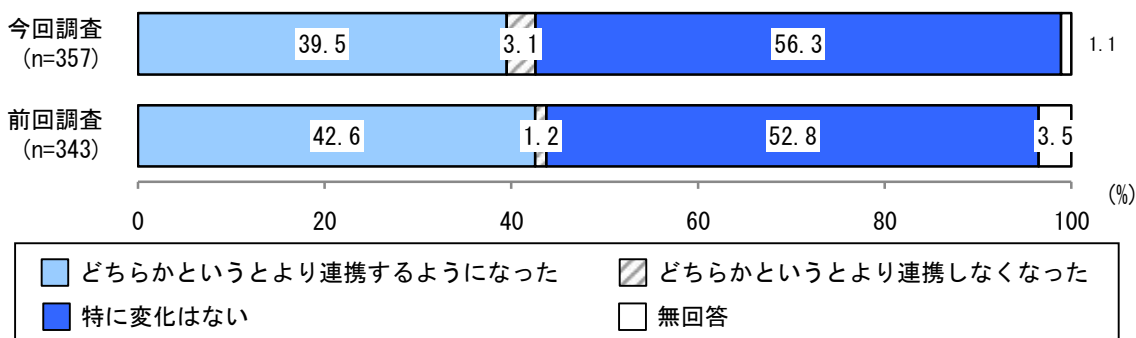


② 福祉の関係者及び関係機関との連携についての変化

問14-ア 問14の答えは、以前と比べて(約5年前と比べて)どのように変化したと感じますか。(○は1つ)

福祉の関係者及び関係機関との連携についての変化については、「特に変化はない」が56.3%で最も多く、次いで「どちらかというより連携するようになった」が39.5%、「どちらかというより連携しなくなった」が3.1%となっている。

前回調査と比較すると、「どちらかというより連携するようになった」の割合は前回より3.1ポイント低くなっている。



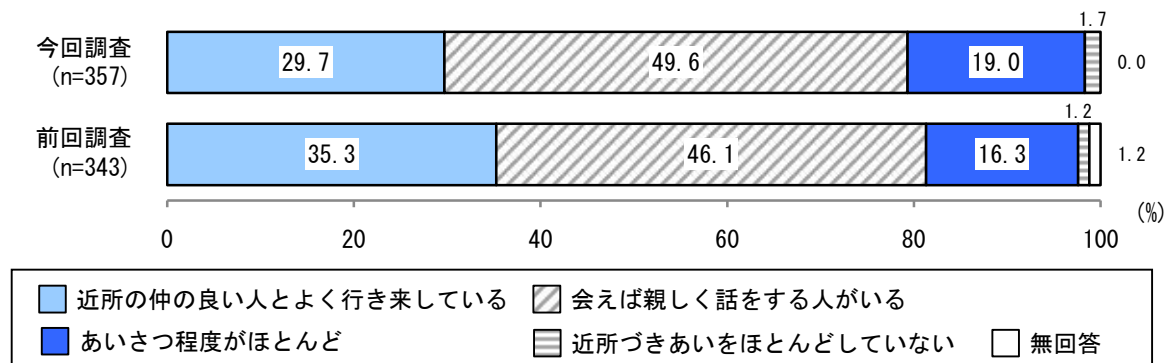
4. 地域力について

(1) 地域の人とのつきあいの程度

問15 あなたの地域の人の、つきあいの程度はどのようなものですか。(○は1つ)

地域の人とのつきあいの程度については、「会えば親しく話をする人がいる」が49.6%で最も多く、次いで「近所の仲の良い人とよく行き来している」が29.7%、「あいさつ程度がほとんど」が19.0%となっている。

前回調査と比較すると、「近所の仲の良い人とよく行き来している」の割合は前回より5.6ポイント低くなっている。

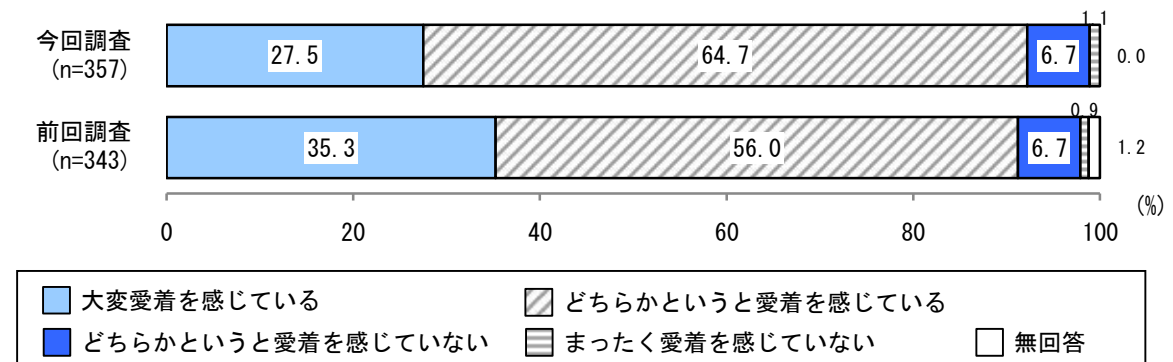


(2) 「自分のまち」と感じる地域に対する愛着

問16 あなたは、「自分のまち」と感じる地域にどの程度の愛着をもっていますか。(○は1つ)

「自分のまち」と感じる地域に対する愛着については、「どちらかという愛着を感じている」が64.7%で最も多く、次いで「大変愛着を感じている」が27.5%、「どちらかという愛着を感じていない」が6.7%となっており、「大変愛着を感じている」と「どちらかという愛着を感じている」をあわせた『愛着を感じている』割合は92.2%となっている。

前回調査と比較すると、『愛着を感じている』割合は前回よりやや高くなっている。



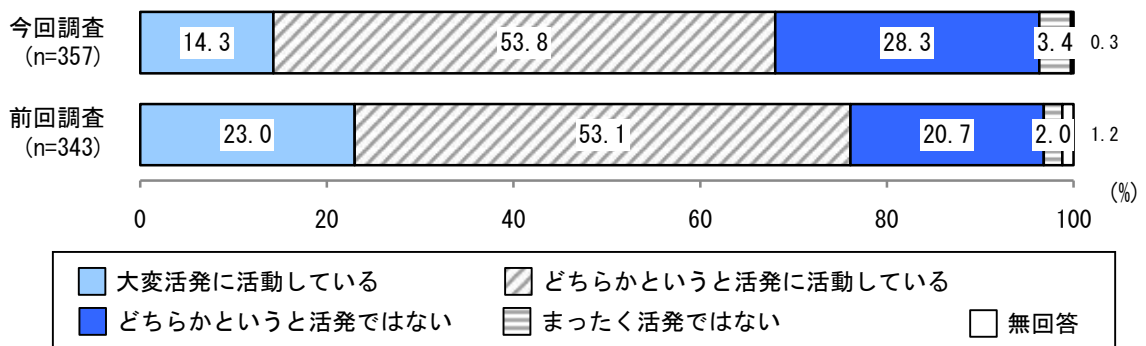
(3) 地域活動や行事の活発さについて

① 他の地域と比較した時の地域活動や行事の活発さについて

問17 あなたは、地域における活動や行事について、他の地域に比べて活発に活動していると感じていますか。(○は1つ)

他の地域と比較した時の地域活動や行事の活発さについては、「どちらかというと活発に活動している」が53.8%で最も多く、次いで「どちらかというと活発ではない」が28.3%、「大変活発に活動している」が14.3%となっており、「大変活発に活動している」と「どちらかというと活発に活動している」をあわせた『活発に活動している』割合は68.1%となっている。

前回調査と比較すると、『活発に活動している』割合は前回より8.0ポイント低くなっている。

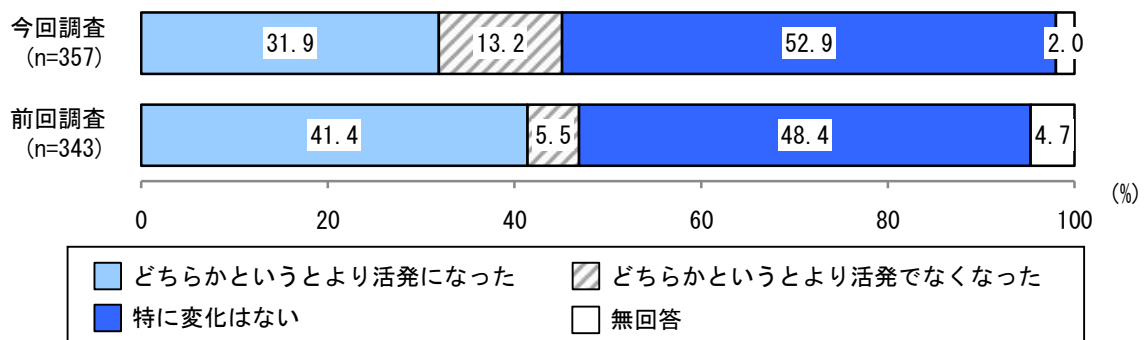


② 他の地域と比較した時の地域活動や行事の活発さについての変化

問17-ア 問17の答えは、以前と比べて(約5年前と比べて)どのように変化したと感じますか。(○は1つ)

地域の活動や行事に対する活動状況の変化については、「特に変化はない」が52.9%で最も多く、次いで「どちらかというとより活発になった」が31.9%、「どちらかというとより活発でなくなった」が13.2%となっている。

前回調査と比較すると、「どちらかというとより活発になった」の割合は前回より9.5ポイント低くなっている。



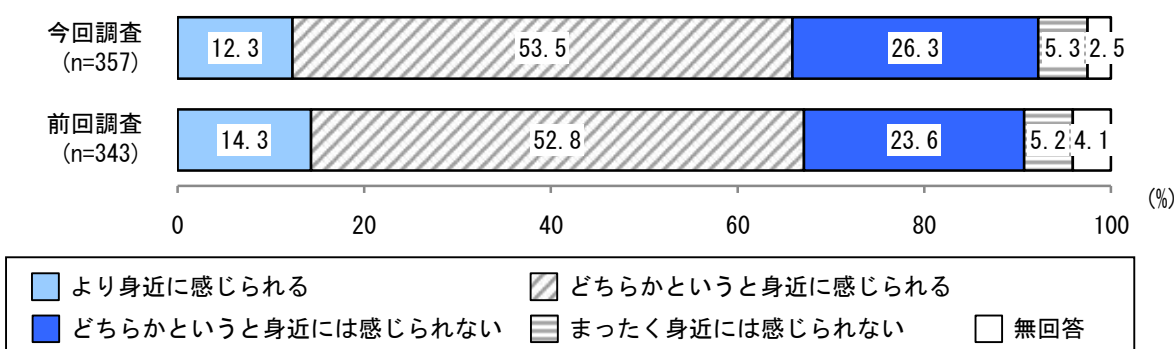
5. 行政や社会福祉協議会、福祉事業者などの地域福祉を支えるしくみについて

(1) 藤井寺市地域福祉計画の目標「支え合い、助け合い、ともに生きる地域づくり」について

問18 あなたは、藤井寺市地域福祉計画の目標である「支え合い、助け合い、ともに生きる地域づくり」について、どのように感じていますか。(○は1つ)

藤井寺市地域福祉計画の目標「支え合い、助け合い、ともに生きる地域づくり」については、「どちらかというと身近に感じられる」が53.5%で最も多く、次いで「どちらかというと身近には感じられない」が26.3%、「より身近に感じられる」が12.3%となっており、「より身近に感じられる」と「どちらかというと身近に感じられる」をあわせた『身近に感じられる』の割合は65.8%となっている。

前回調査と比較しても、大きな差はみられない。

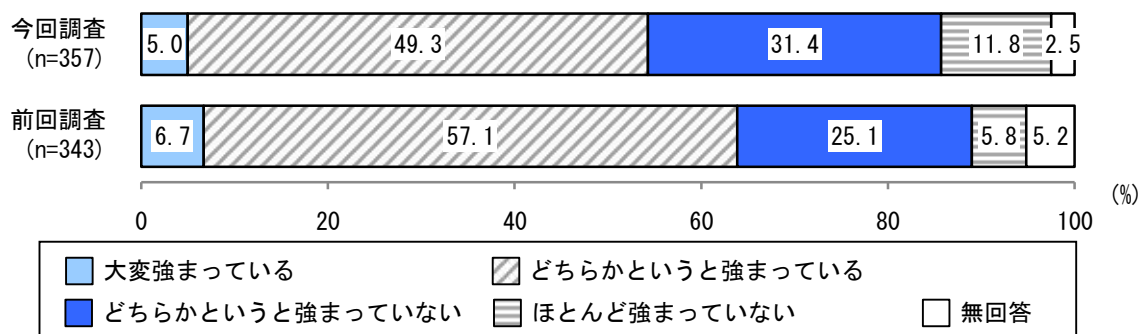


(2) 社会福祉協議会の活動による住民同士の協力関係やまとまりの強化について

問19 あなたは、社会福祉協議会の活動により、地域の福祉課題に対する住民同士の協力関係やまとまりが強まったと感じていますか。(○は1つ)

社会福祉協議会の活動による住民同士の協力関係やまとまりの強化については、「どちらかというと強まっている」が49.3%で最も多く、次いで「どちらかというと強まっていない」が31.4%、「ほとんど強まっていない」が11.8%となっており、「大変強まっている」と「どちらかというと強まっている」をあわせた『強まっている』割合は54.3%となっている。

前回調査と比較すると、『強まっている』割合は前回より9.5ポイント低くなっている。

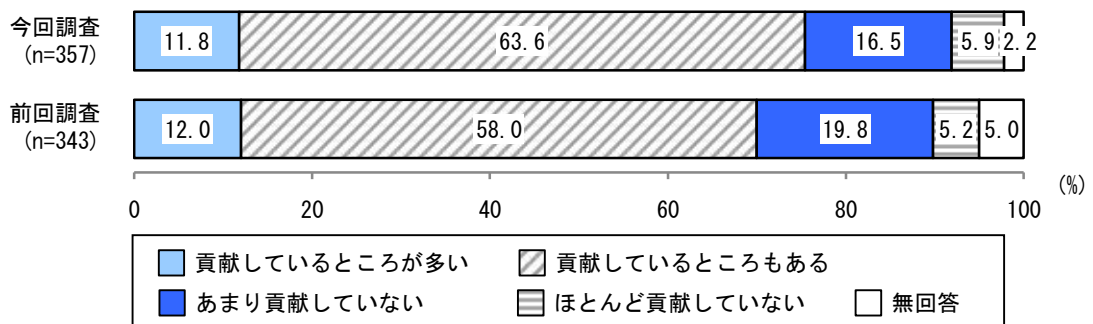


(3) 福祉施設やサービス提供事業者、企業等の社会貢献や地域貢献について

問20 あなたは、福祉施設やサービス提供事業者、企業等の社会貢献や地域貢献についてどのように感じていますか。(〇は1つ)

福祉施設やサービス提供事業者、企業等の社会貢献や地域貢献については、「貢献しているところもある」が63.6%で最も多く、次いで「あまり貢献していない」が16.5%、「貢献しているところが多い」が11.8%となっており、「貢献しているところが多い」と「貢献しているところもある」をあわせた『貢献している』割合は75.4%となっている。

前回調査と比較すると、『貢献している』割合は前回より5.4ポイント高くなっている。



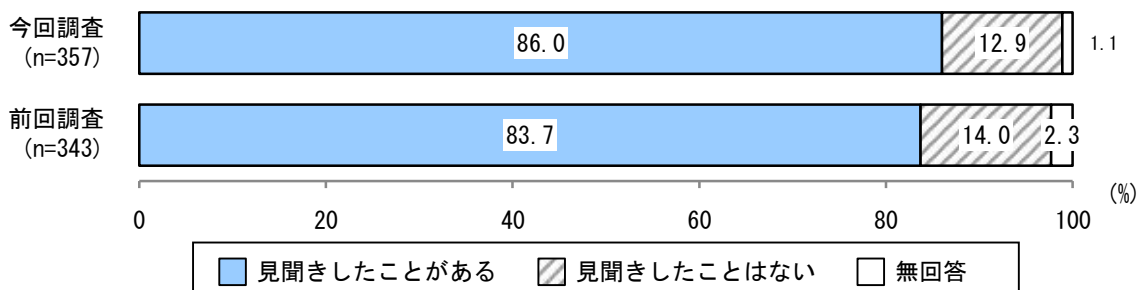
(4) 孤立死について

① 孤立死についての見聞き

問21 あなたは、孤立死について見聞きしたことがありますか。(〇は1つ)

孤立死についての見聞きについては、「見聞きしたことがある」が86.0%、「見聞きしたことはない」が12.9%となっている。

前回調査と比較すると、「見聞きしたことがある」の割合が前回より2.3ポイント高くなっている。

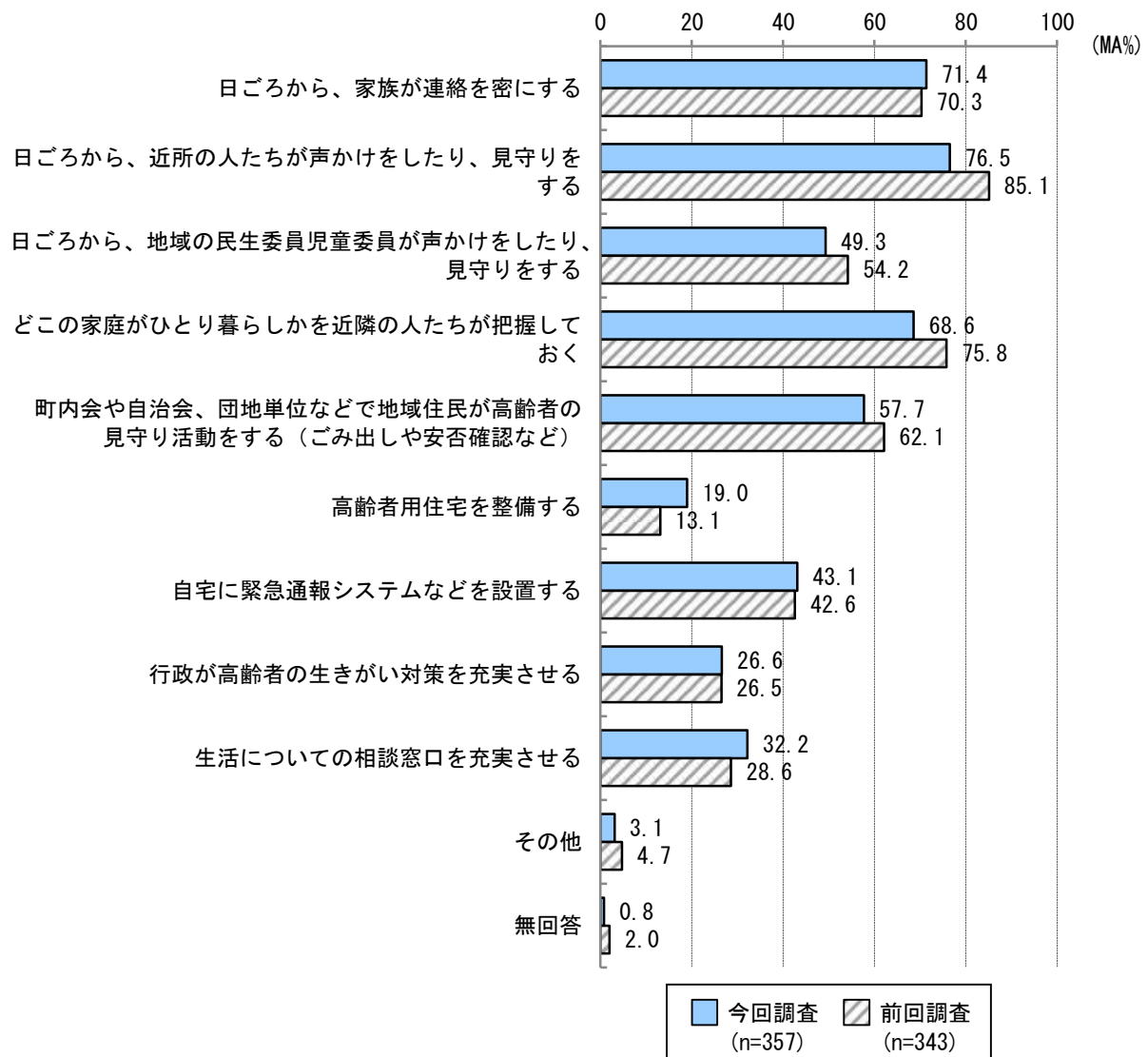


② 孤立死を防止するために必要なこと

問22 孤立死を防止するには、どうしたらよいと思いますか。(〇はいくつでも)

孤立死を防止するために必要なことについては、「日ごろから、近所の人たちが声かけをしたり、見守りをする」が76.5%で最も多く、次いで「日ごろから、家族が連絡を密にする」が71.4%、「どこの家庭がひとり暮らしかを近隣の人たちが把握しておく」が68.6%となっている。

前回調査と比較すると、「日ごろから、近所の人たちが声かけをしたり、見守りをする」が8.6ポイント、「どこの家庭がひとり暮らしかを近隣の人たちが把握しておく」が7.2ポイント、それぞれ前回より低くなっている。

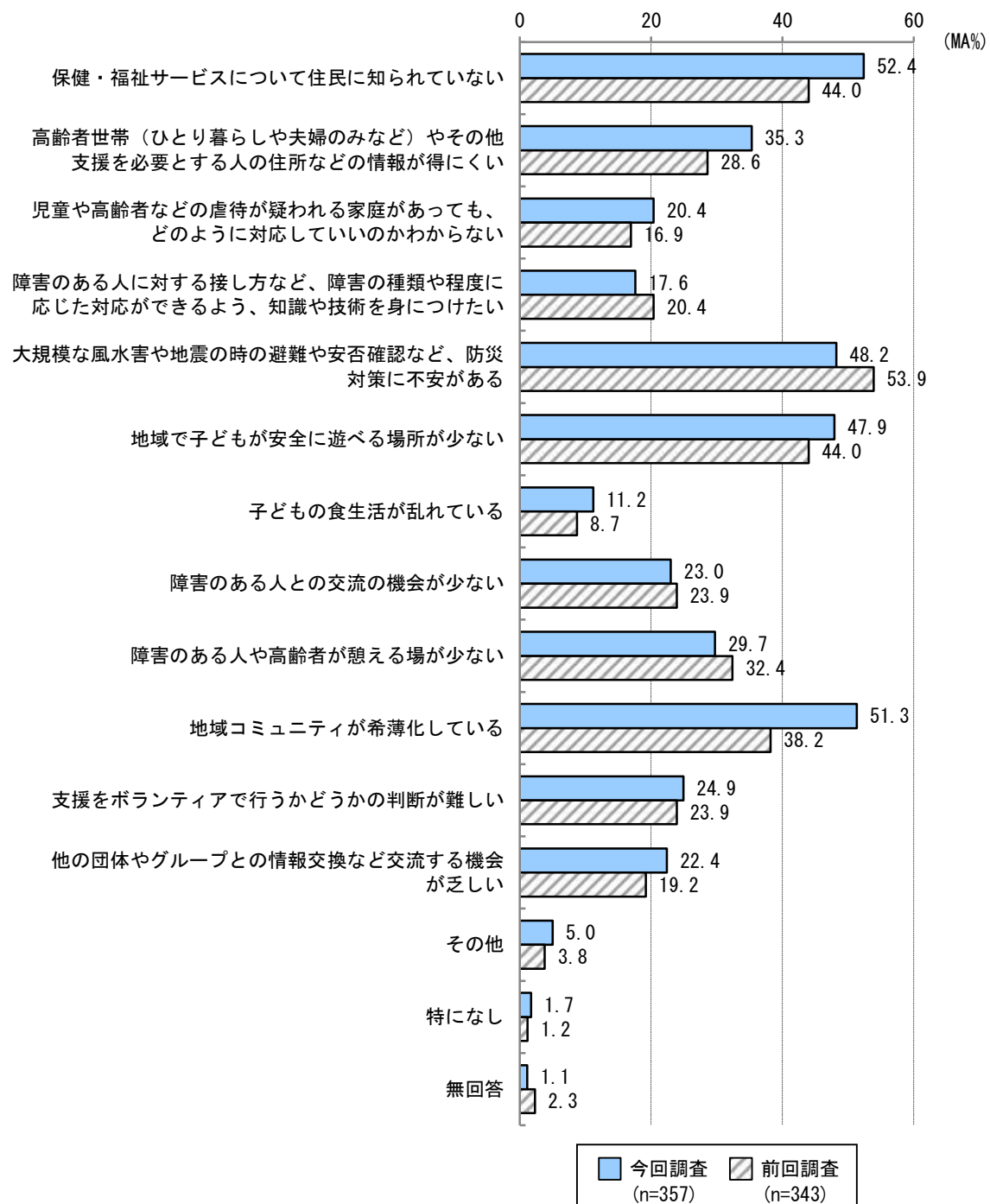


(5) 住民の福祉に関する課題

問23 地域で活動する中で、あなたが住民の福祉に関する課題と感じていることがありますか。(〇はいくつでも)

住民の福祉に関する課題については、「保健・福祉サービスについて住民に知られていない」が52.4%で最も多く、次いで「地域コミュニティが希薄化している」が51.3%、「大規模な風水害や地震の時の避難や安否確認など、防災対策に不安がある」が48.2%、「地域で子どもが安全に遊べる場所が少ない」が47.9%となっている。

前回調査と比較すると、「地域コミュニティが希薄化している」の割合が13.1ポイント、「保健・福祉サービスについて住民に知られていない」の割合が8.4ポイント、それぞれ前回より高くなっている。

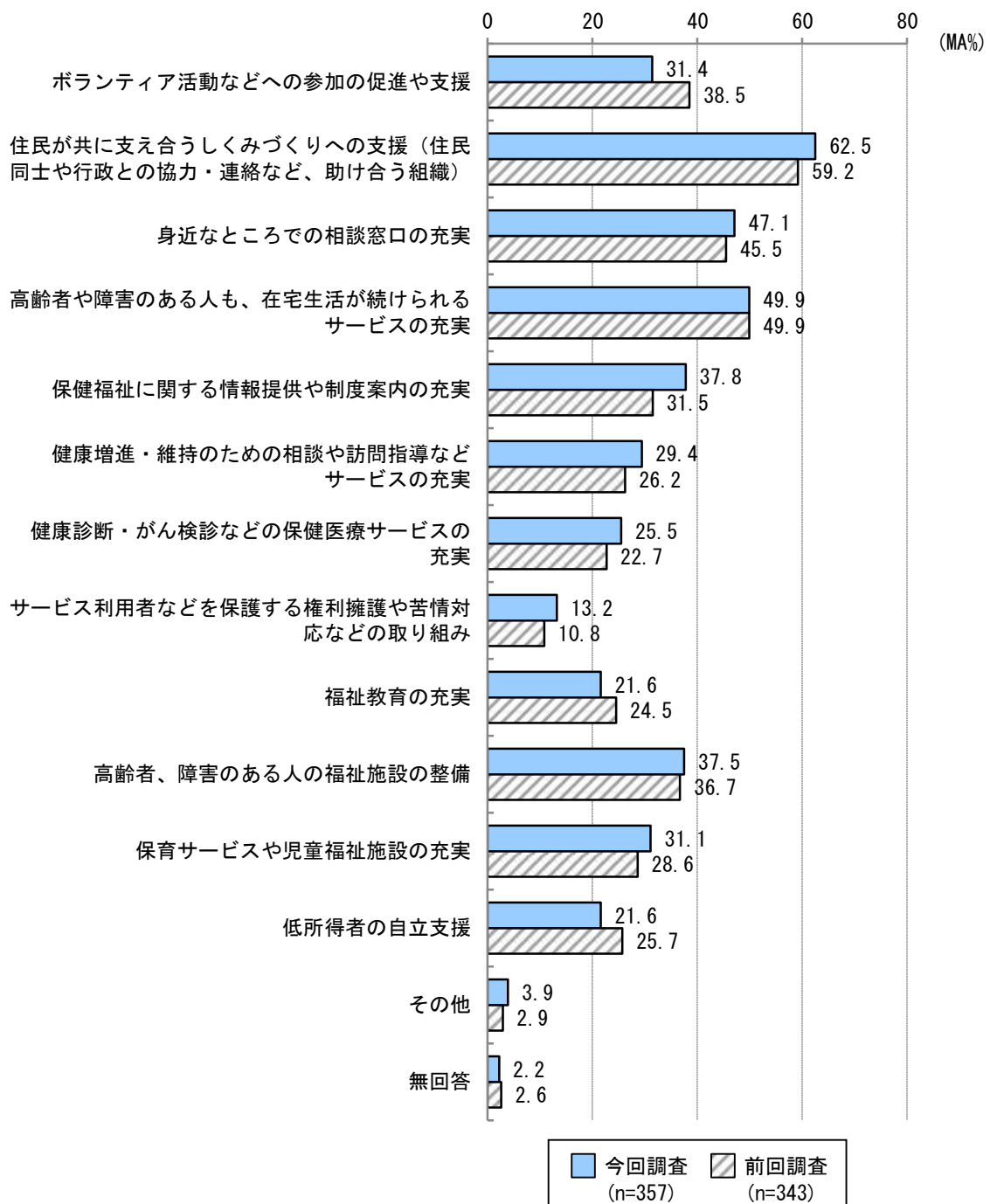


(6) 地域住民が安心して暮らせるために必要なこと

問24 地域住民が安心して暮らせるようにするために、必要だと思うことは何ですか。(〇は
いくつでも)

地域住民が安心して暮らせるために必要なことについては、「住民が共に支え合うしくみづくりへの支援(住民同士や行政との協力・連絡など、助け合う組織)」が62.5%で最も多く、次いで「高齢者や障害のある人も、在宅生活が続けられるサービスの充実」が49.9%、「身近なところでの相談窓口の充実」が47.1%となっている。

前回調査と比較すると、「ボランティア活動などへの参加の促進や支援」の割合が前回より7.1ポイント低いが、「保健福祉に関する情報提供や制度案内の充実」の割合は前回より6.3ポイント高くなっている。

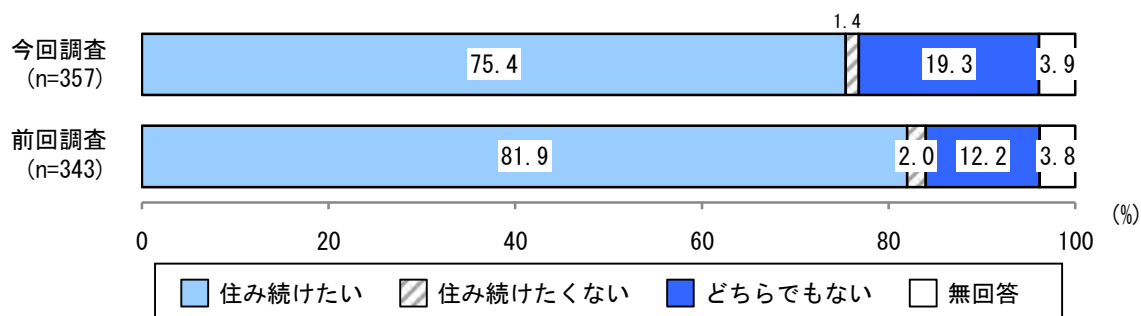


(7) 今後の藤井寺市への居留意向について

問25 あなたは、今後も藤井寺市に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)
※今後の転居予定に関わらず、あなたのお気持ちをお答えください。

今後の藤井寺市への居留意向については、「住み続けたい」が75.4%で最も多く、次いで「どちらでもない」が19.3%、「住み続けたくない」が1.4%となっている。

前回調査と比較すると、「住み続けたい」の割合は前回より6.5ポイント低くなっている。



6. 自由記述

■最後に、次のような項目について、ご意見やご提案がありましたら、自由にご記入ください。

(1) 地域での福祉活動を活発にするために

地域での福祉活動を活発にするための自由意見では136件の意見が寄せられ、意見内容としては下表のような内容となっている。(1つの自由意見で複数に分類されている意見があるため件数の合計は186件となっている。)

自由意見カテゴリー	件数
(1) 福祉活動の内容・楽しさの情報発信	20件
(2) 気軽に集える場所、機会の設置	19件
(3) 福祉活動の担い手の問題	17件
(4) 近所・地域とのつながりを深める、声かけを行う	17件
(5) 行政・福祉団体の情報交換、連携	16件
(6) 多様な世代が参加しやすい体制・企画の充実	15件
(7) 自治会活動の充実	13件
(8) 自治会との連携、協力	11件
(9) 福祉活動の内容の充実	11件
(10) 教育・啓発の充実	9件
(11) 行政等からの支援が必要	8件
(12) 福祉活動従事者の増加	5件
(13) 個人情報やプライバシーの問題について	4件
(14) 福祉活動従事者への支援	3件
(15) 福祉を受ける側の問題点	3件
(16) 活発化は厳しい	3件
(17) 一般の企業との連携	2件
(18) その他	10件
合計	186件

(2) 地域で福祉活動を行う人を増やすために

地域での福祉活動を行う人を増やすための自由意見では133件の意見が寄せられ、意見内容としては下表のような内容となっている。(1つの自由意見で複数に分類されている意見があるため件数の合計は168件となっている。)

自由意見カテゴリー	件数
(1) 活動内容・目的を理解してもらうための情報発信	22件
(2) 有償ボランティアにする、特典をつくる	18件
(3) 気軽に参加できる機会の充実	17件
(4) 参加への声かけ、手伝いの依頼	16件
(5) 人間関係の構築	16件
(6) 教育・啓発の充実	15件
(7) 市・行政の関与が必要	15件
(8) 個人の負担を軽くする、任期の短縮・年齢制限	12件
(9) 増加は厳しい	11件
(10) 役の割り振り・選任について	8件
(11) 自治会への加入・参加促進、協力要請	7件
(12) 人材育成への取組	3件
(13) 個人情報・プライバシーの問題の解決	3件
(14) その他	5件
合計	168件

(3) 福祉に関する研修や学習機会、内容等に関して

福祉に関する研修や学習機会、内容等に関しての自由意見では74件の意見が寄せられ、意見内容としては下表のような内容となっている。(1つの自由意見で複数に分類されている意見があるため件数の合計は88件となっている。)

自由意見カテゴリー	件数
(1) 研修の実施方法の工夫	27件
(2) 関心のあるテーマ・内容について	26件
(3) 日時の調整など参加しやすい工夫	11件
(4) 研修や学習機会を推進することへの意見	10件
(5) 市役所や関係団体との連携	4件
(6) 研修の実施回数について	3件
(7) 当事者、専門家等との交流	2件
(8) その他	5件
合計	88件

IV 調査票（市民アンケート）

1. 市民アンケート
2. 福祉関係者アンケート